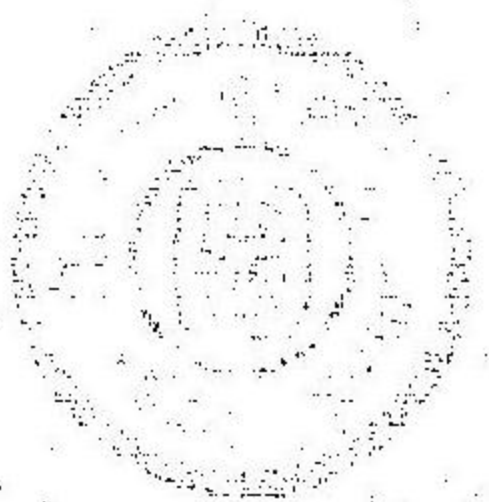


本邦監獄法講義

監獄官練習所



124



本邦監獄法講義目次

○監獄則

第 十 一 條	第 十 條	第 九 條	第 八 條	第 七 條	第 六 條	第 五 條	第 四 條	第 三 條	第 二 條	第 一 條
------------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

三 十 三 丁	二 十 一 丁	二 十 一 丁	二 十 丁	十 九 丁	十 三 丁	十 二 丁	七 丁	六 丁	五 丁	一 丁
------------------	------------------	------------------	-------------	-------------	-------------	-------------	--------	--------	--------	--------

第十二條
第十三條
第十四條
第十五條
第十六條
第十七條
第十八條
第十九條
第二十條
第二十一條
第二十二條
第二十三條
第二十四條
第二十五條

三十五丁
三十六丁
四十二丁
四十二丁
四十三丁
四十三丁
四十四丁
四十四丁
四十七丁
四十九丁
五十一丁
五十一丁
五十三丁
五十五丁
六十一丁
六十一丁
六十四丁

第二十六條
第二十七條
第二十八條
第二十九條
第三十條
第三十一條
第三十二條
第三十三條
第三十四條
第三十五條
第三十六條
第三十七條
第三十八條
第三十九條

六十七丁
六十八丁
六十八丁
七十六丁
七十六丁
七十八丁
八十丁
八十二丁
八十四丁
八十四丁
八十五丁
八十六丁
八十八丁
九十二丁
九十六丁
百丁
三

第四十條
第四十一條
第四十二條
第四十三條
第四十四條
第四十五條
第四十六條
第四十七條
第四十八條
第四十九條
第五十條
第五十一條
第五十二條

百三
百五
百六
百八
百九
百十三
百十五
百十六
百十七
百十八
百二十一
百二十二

四

○監獄則施行細則

第一條
第二條
第三條
第四條
第五條
第六條
第七條
第八條
第九條
第十條
第十一條
第十二條
第十三條

百二十五丁
百二十六丁
百三十四丁
百三十四丁
百三十五丁
百三十六丁
百三十七丁
百三十八丁
百三十九丁
百四十丁
百四十一丁

五

第十四條	百四十二丁
第十五條	百四十三丁
第十六條	百四十三丁
第二十條	百四十四丁
第二十二條	百四十六丁
第二十四條	百四十七丁
第二十五條	百四十八丁
第二十八條	百四十九丁

本邦監獄法講義目次終

本邦監獄法講義

小原重哉講述
 印南於菟吉筆記

監獄則

- 第一條 監獄ヲ別テ左ノ六種ト爲ス
- 一 集治監 徒刑流刑及舊法懲役終身ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
 - 二 假留監 徒刑流刑ニ處セラレタル者ヲ集治監ニ發遣スル迄拘禁スル所トス
 - 三 地方監獄 拘留禁錮禁獄懲役ニ處セラレタル者及婦女ニシテ徒刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
 - 四 拘置監 刑事被告人ヲ拘禁スル所トス
 - 五 留置場 刑事被告人ヲ一時留置スル所トス

ス但警察署内ノ留置場ニ於テハ罰金ヲ禁
錮ニ換フル者及拘留ニ處セラレタル者ヲ
拘禁スルコトヲ得

六 懲治場 不論罪ニ係ル幼者及瘖啞者ヲ懲
治スル所トス

監獄ノ主要

監獄ノ文字ハ明治五年監獄則ヲ創設シテ頒布セラレタル時初メテ發
ケタリ従前ハ此名稱ナク職原等ニ囚獄司及ヒ囚獄正ノ用字アリシノ
ミ前記五年ノ頃囚獄ノ二字甚タ穩當ナラストノ說アリ因テ予古籍群
書ノ中ニ就テ數熟字ヲ抄出シテ伺ヒタルニ之ヲ選ミテ監獄ノ二字ニ
定メラレタリ監獄並ニヒトヤト訓スル字ナリ然レモ此二字ヲ重スル
キハ監字ノ用方ハ平聲ニ非スシテ去聲ニ屬ス即チ鑑字ト同義ニシテ
鑑ミ司ルナリ而シテ之ヲ譯セハ獄トヤヲ鑑ミ司ルト云フ義ナリ故ニ
監字ヲひとやト訓ス可ラス世人往々監獄二字ノ解釋ヲ誤ル者少ナカ
ラサルモ實ハ此譯義ニ外ナラス監獄ノ主要ハ一大行政機關ナリ古人

云ク人ニ忍ヒサルノ心ヲ以テ人ニ忍ヒサルノ政ヲ行ヒ孺子并ニ入レ
ハ匍匐シテ之ヲ救フト是レ忍ヒサルノ心ヲ生スル所ナリ彼ノ繼縄纒
々殘膚凍餓且ツ死スルカ若キハ之ヲ孺子ニ較フルニ更ニ慘ナラサ
ラヤ是ノ忍ヒサルノ心ニ由テ之ヲ忍ヒサルノ政ニ推セハ則チ其慘ヲ
除キ其罪ヲ哀レミ其居處ヲ潔クシ其衣食ヲ賙ハスヤ辭ノ畢ルヲ待タ
サルコトアルナリ是ヲ以テ明治ノ我廟堂罪辟ヲ哀矜スルノ道ヲ講シ其
罪ヲ惡ンテ其人ヲ惡マサルノ大德ヲ行ヒ斯民ノ志ヲ畏服センカ爲メ
當路者ヲシテ一意教化ヲ最メシム然リ而シテ是ノ源ヤ甚タ尙サシ畏
クモ 清寧天皇御即位ノ四年即紀元千四百四十三年天皇親カラ囚徒ヲ錄シ玉フト史
ニ見ユルニ祖マルモノトゴトシ斯ノ如キ聖皇ノ出マシテ早ク先天ノ
大德ヲ啓カレシハ誠ニ此レ神皇正統ノ仁國ニ適フノ祥典ナリト謂フ
ヘシ今是ノ年紀ヲ西曆ニ比スレハ固トニ紀元四百八十三年ニ當ル是
年ヨリ十七年ノ後即五百年ニ至リテ西洋ニ非常ノ騷擾起リ英國ノ如
キハ當時初テ建國シタリ然ルニ本邦ニ於テハ 清寧天皇ノ囚徒ヲ錄

シ玉ヒシハ實ニ大ナル其昔ニ屬セリ實ニ宇内ニ誇ルヘキノ價直アリト謂フヘシ既往現今發布ノ監獄則ハ俱ニ其因テ來ル所アリ實ニ偶然ニアラス故ニ温故知新ノ格言ニ違ヒ我邦ノ獄制沿革ヲ知ラサル可ラス因テ今日ヨリ古昔ノ制度茲ニ舊政府ノ規則中ニ就キ此監獄則ノ條々ニ參照スヘキ因ミアル事項ヲモ併セ講述セント欲ス先ツ爰ニ舊政府獄舍ノ種類ヲ舉示セン附テ言フ古昔ノ制度ハソノ時ノ文体ヲ采テ之ヲ講述シ舊政府ノ規則モ亦ソノ時ノ文体ヲ采ル俱ニ文物ノ沿革ヲ稽フルノ料ニ供センカ爲メナリ

家康ノ將軍ニ任セラレシ始メ江戸ニ獄舍ヲ設クルノ地ハ今ノ常盤橋門外ノ水濱ニ在リ厥後 靈元天皇延寶年間獄舍ヲ小傳馬町ニ移セリ獄舍凡ソ五ツ曰ク揚坐敷將軍ニ謁見スル者ノ犯罪ヲ禁スル處曰ク揚屋徳川家及諸藩ノ士人僧侶ノ犯罪ヲ禁スル處曰ク大年婦人ノ犯罪ヲ禁スル處曰ク百姓牢平民有籍無籍ニ拘ラス其犯罪ヲ禁スル處曰ク女牢婦人ノ犯罪ヲ禁スル處

次ニ古昔ニ溯リテ大寶年間ノ獄舍ノ種類ヲ稽フルニ官人以上ノ者ト庶民ノ別異ヲ立ツルコトハ分明ナリト雖モ其他ノ細別ニ至リテハ未ダ

知ルニ由ナシ

第二條 監獄ハ内務大臣ノ監督ニ屬ス

孝徳天皇ノ大化五年西曆六百四十五年始メテ八省百官ヲ置キタルノ職原ニ見ユ其八省中ノ刑部省ニ囚獄司ヲ置カル其囚獄ハ刑部卿ノ監督ニ屬セリ源賴朝以後武將ノ國命ヲ操リシ時代ニ至リテハ其制亦大ニ亂レ衆犯罪者ヲ遇スルニ俘虜ト一般ノ看ナシ秩然タル所ノ定則ナク或ハ之ヲ獄裏ニ糺問スルニ當リテ倒マニ井中ニ懸クルカ如キ慘狀ヲ極メタルコアリシト云而レモ其表面ハ大江廣元等ヲシテ大寶ノ制度ヲ鑑ミシメタルカ如ク之ヲ飾リ其實ニ至リテハ毫モ行ハレサルモノト謂フヘシ徳川氏ニ至リテハ獄トヤノコトニ關カル三奉行寺社奉行 勘定奉行 町奉行ノ制ヲ立ツ此内囚獄ノ事ハ主トシ町奉行ノ監督セリ斯ノ如ク三奉行ヲ置キシ所以ノ者ハ勘定奉行ハ專ラ旗下其他身分ノ重キ犯罪者ヲ處分シ寺社奉行ハ大僧正以下身分アル僧侶及ヒ位記ヲ有スル神官以下ノ神事ヘノ者等ノ犯罪ヲ處分シ其他一體ノ犯罪ニ於テハ町奉

古昔監獄監督ノ模様

監獄則

行ノ關スル所タリ町奉行所ハ南北二ヶ所ノ別アリ即チ一ハ吳服橋内
 一ハ數寄屋橋内ニ在リ月番ニテ囚獄ヲ預リ毎月末交代ノ際月番中ニ
 吟味濟ニ至ラサル囚人アル時ハ其事由ヲ詳記シテ老中ニ届ケ出テ老
 中ハ將軍ノ一覽ニ供スルノ定ナリキ然レモ後ニ至リテハ之ヲ零シテ
 老中限リ見ルコトニナレリトソ何故ニ將軍ハ之ヲ一覽セシニヤト今
 其理由ヲ尋釋スルニ或學者ノ説ニ由レハ畏レ多クモ 清寧天皇ハ親
 ラ囚徒ヲ錄シ王ヒシト云フ況ンヤ將軍ニ於テオヤ宜ク罪アル者ヲシ
 テ速ニ斷セシメサル可ラストノ意ニ出タルナレハ若シ事由明詳ナラ
 スシテ滯獄スル如キアレハ之ヲ督促シタリト豈美法タラスヤ

第三條 集治監 及假留監ハ内務大臣之

ヲ管理シ其他ノ監獄ハ警視總監北海道廳長官
 府縣知事東京府ヲ除ク之ヲ管理ス

古昔ノ囚獄司ニ於テハ正官長一員祔次官令史ナル者アリ京師ニ於テハ囚
 獄司獄ヲ管理シ在外ハ國ノ守之ヲ預レリ物部氏神武天皇御東征大和ニ都ヲ開
 キ王ロシ時儀使チナセシ系統

獄舎ノ創始

ナリトハ世々兵刑ノ二權ヲ掌ルヲ以テ其氏屬諸國ヲ巡リテ國司ヲ管督
 セリ
 獄舎ハ創メテ 清寧天皇ノ御代ニ立タルニ非ス 崇神天皇即位ノ十
 年紀元五百七十三年即 逆臣ヲ誅シ 履仲天皇即位ノ元年紀元千六十年仲王子ノ反ヲ平
 ケレトアリ此乱ニ連累シタル者ハ其罪死ニ當ルモ之ヲ宥メ黥シテ役
 使ニ供セリ是レ即チ囚徒ヲ役使スルノ始トス既ニ役使ニ供ストアレ
 ハ之ヲ禁圍スル處ナカル可ラサルハ事理ノ當ニ然ルヘキ所ナリ

第四條 内務大臣ハ隨時監獄巡閱官ヲシテ各監

獄ヲ巡閱セシムヘシ

警視總監北海道廳長官府縣知事東京府ヲ除クハ毎年少

クトモ一回所轄ノ監獄ヲ巡閱スヘシ

裁判官ハ時々其裁判所管轄内ニ在ル拘置監ヲ

巡視スヘシ

檢察官ハ時々其裁判所管轄内ニ在ル監獄ヲ巡

昔時ト雖モ巡
閱ノ制アリタ
リ

視スヘシ

前已ニ物部氏ノ諸國ノ獄舎ヲ巡回シタルコト等ヲ陳述シタリシカ近
世ノ徳川氏ニ於テハ石出帶刀ト謂ヘル者アリ徳川家康ノ江戸ニ霸府
ヲ開ク際隨伴シテ來リ今ノ常盤橋外ニ獄舎ノ建ツニ當リ其取締ニ任
セシヨリ以後世々囚獄吏長ヲ職トス其祿高ハ三百俵許ニシテ獄舎ノ
側ラニ在ル官舎ニ住居ス其他同心世襲ト稱スル者數十人アリ而シテ
仍ホ傳馬町ノ獄舎ニハ町奉行ノ目代トシテ與力一人毎日巡閱監督ト
シテ獄署ニ詰合ヒ又町奉行ノ組同心晝夜六人出張シテ監督シタリト
云フ夫レ往古ハ斯ノ如ク鄭重ナル監督法アリタリ現今ノ監獄則中ノ
本條ノ巡閱ノ制ハ大ヒニ由來スル所アリ偶然ユアラサルヲ知ルヘキ
ナリ何ソ唯々諸外國ニ於テノミ巡閱ノ制アルモノトナサシヤ然レモ
江戸京都大坂ハ右ノ如クナルモ其他ニ至リテハ凡テ大小藩ニ任放セ
リ任放シタルカ故ニ囚徒ヲ遇スル間マ俘虜ヲ待ツカ如クスルアリ然
ラサルモ藩々其所遇法ヲ異ニシ或ハ穢多ヲ以テ其警守者ノ補充ニナ

タルモアリント云フ明治五年ニ至リ其不經ナルヲ悟リ古昔ノ法ニ照
シ先覺國ノ法ヲ採リ以テ獄制ヲ更改セラレタリ
現今ノ監獄則ニ於テハ内務省ヨリ隨時ニ巡閱官ヲ發遣シ警視總監北
海道廳長官府縣知事等ハ所轄ノ監獄ヲ巡閱シ判檢事兩官モ巡視スル
ノ規定ナリトス
舊政府ノ規定ハ前キニ述ヘシ如ク與力同心ヲ特ニ發シテ監獄ヲ巡閱
セシメタルノミナラス尙裁判官ヲ兼ル町奉行ハ毎月一度ツ、日限ヲ
定メス之ヲ巡閱シ或ハ目付役徒目付小人目付等不時ニ巡閱スルコト
定メアリ
古昔王政ノ御時ニ行ハレタル監獄巡閱ノ事ハ職原太寶令等ニ據リテ
之ヲ陳述シタリシカ要スルニ今ノ裁判官檢事警察官ニ異ラサル所ノ
職ヲモ兼ル物部ノ氏族カ廻テ視ルコトニテアリシト云フ右ノ如ク巡閱
ヲナス所ノ目付役人ハ恰モ今日ノ檢事警察官ニアタル職掌ノ者ニシ
テ裁判官ハ即三奉行ナルカ故ニ裁判上ニ係ル警誠上ノ事ハ主トシテ

與力同心之ヲ監察セリ斯ル次第ナルヲ以テ法意ニ於テハ今日ノ制ト
 毫モ差ヒナキナリ人爲上ノ事ハ實ニ爭ハレヌ者ニシテ歐洲ニ於ケル
 警察長官及ヒ裁判官ノ巡察官ヲ撰任シ又ハ監督使ヲシテ巡閱セシム
 ルノ制アルト暗合セリ是レ必竟自然ノ理ニ歸結シタル者ト謂ハサル
 可ラス而シテ今昔ヲ問ハス此ノ如ク巡視巡閱ヲ要スル所以ハ官吏ノ
 在監者ト相忤ルトコトナキヤ否若クハ法則ヲ犯スナキヤ否又タハ囚
 徒ニ私恩ヲ賣ルカ如キ弊ナキヤ否ヤヲ視察スル者ニシテ若シ此ノ如
 キヲアラシニハ如何ニ完全ナル法典アルモ隱々弊ヲ生シナハ寧ロ其
 法ナキニ若カサルノ譏ヲ來スヘキナリ
 尙一言シテ諸君ノ注意ヲ喚ハント欲ス舊政府ノ頃ハ町奉行ヨリ巡視
 役人ヲ特發シ晝夜ヲ問ハス時間ヲ定メス巡回セシカ或トキ巡視役カ
 私ニ監房ノ格子ニ最モ小キ紙片ヲ貼附シテ控所ニ歸リ來リ當番ノ囚
 獄同心若クハ今日ノ典獄ニ該レル官人ニ向ヒ那處ノ監房ニ異變ハ無
 キヤトノ問ヲ起ス此問ヲ聽クヤ否周章行テ之ヲ見ルニ何等ノ異變ナ

シ因テ其旨ヲ答フ否ナ那處ノ格子ニハ必ス變事アルナラント尙能ク
 查覽セシニ果シテ往キノ紙片ノアルヲ認メ歸リテ一言ノ答辭ナク當
 番役人ハ只管驚歎シテ謝シタル等ノ試做アリント云フ又々當時ニ在
 テハ同心等ノ輩皆各自ノ役割ヲ定メ其中恰モ今日ノ看守看守長ニ該
 ル人々ハ常ニ監房外ヲ巡回スルニ三尺許ノ棒即チ半棒ト名クル者ヲ
 携ヘ來テ格子ノ木ヲ軟弊シ以テ微細ノ物品タモ之ニ纏繞スルアレハ
 忽チ其音響ノ異變ヲ覺察セリ因テ囚人ハ毫モ格子ヲ刷切スルコト能ハ
 ス此ノ如ク毎夜一度宛ハ必ラス之レヲ行フカ故ニ牢破リノ虞ハ甚ナ
 カリシト云フ尤モ文政天保ノ頃ニ在リテハ破牢ヲ企テタルコトアリト
 雖モ皆ナ天井ヲ破リテ屋根ヨリ脱出セントシタルノミ實ニ注意ノ最
 周到ナル者ト謂フヘシ是ハ唯其一迹話ノミニ過キサルモ其他看守等
 ノ周密ナルハ以テ想像スルニ足ルヘシ然ルニ舊徳川幕府ノ末路ニ至
 リテハ其制度ハ存シナカラ囚獄ノ官吏ニ甚タシキ弊害ヲ生シタルハ
 實ニ蔽フ可ラサルノ事實ナリ今其弊害ノ一端ヲ舉ケンニ富有ノ者若

シ監獄ニ繋留セラレ、其ハ直ニ其富者ノ宅舎等ニ人ヲ遣リテ窃ニ金
錢ヲ齎シ監中ニ於テ飲食ヲ自在ナラシメ或ハ下男ト稱スル者ニ命ジ
テ處々ニ介使セシムル等ノ不正ナル事實アリシハ明治三年ノ頃全ク
査照シタル事項ナリ監獄ハ罪人ヲ懲戒スル處ナリトハ敢テ余カ言フ
待タサルモ若シ官吏ニシテ不正ナル所爲アラシニハ何程周密ナル法
條アルモ自カラ拘禁人ニ向テ不正ヲ教導シタルノ咎ニ外ナラス豈戒
心用意スル所ナクシテ可ナランヤ之レ只一場ノ談話ナルモ亦以テ後
來司獄官ノ良規礎トナスニ足ルヘシ

第五條 府縣會議員ハ臨時其府縣所轄ノ監獄ヲ

巡見スルコトヲ得

昔時ハ本條ニアルカ如ク人民ニシテ監獄内ヲ巡視スルコトナク當今ノ
府縣會議員等ノ如キハ刑事訴訟法ニ就キテ見ルモ處事ノ場合ニヨリ
テハ或ハ官吏ニ等シキ公吏ト見做セリ假令ヒ始ヨリ全ク公吏タラサ
ルモ又普通人民ト見做ス能ハス明治十四年第十七号布告ニ由レハ監

獄費ヲ操テ地方税支辨トナシタルカ故ニ其議員タル者ハ其辨費上ニ
係リ点査センカ爲メニ巡見ノ必要ヲ感スヘシ斯ノ如ク參政者ノ巡見
セサル可ラサル暢方アル所以ノ者ハ即チ監獄法ノ進歩ト謂ハサル可
ラス

第六條 新ニ入監スル者アルトキハ典獄先ツ令

狀又ハ宣告書ヲ査閲シテ之ヲ領シ其領收證ヲ
引致シ來リタル者ニ交付シタル後入監セシム
ヘシ其文書ナクシテ引致セラレタル者ヲ入監
セシムルコトヲ得ス

本條ハ別ニ説明スルノ必要ヲ感セサルモ尙茲ニ古代ノ制度如何ヲ述
フヘシ抑々古昔王政ノ時代ニ於テハ入監ノ際多クハ檢非違使ノ廳ヨ
リ其証書ヲ發スルモノ、如シ然レトモ各人ノ身分等ニ依リテ異レリ
舊政府ニ於テ新ニ入監セシムル者ノ入監証書ノ法式ハ大概大寶領ノ
式ニ依リテ之ヲ折衷シタルモノ、如シ夫ノ三奉行ハ恰モ現今ノ裁判

舊政府ノ入監
証書

官ヲ兼掌シ其職ハ裁判所長ニ當ル之レニ附屬スル所ノ調ヘ役吟味役
 與力同心ノ如キハ下役ノ法官タリ而シテ其三奉行所ニハ火附盜賊改
 役所ト云フ者アリテ此改役所ヨリ入牢証文ヲ添ヘテ犯罪人ト共ニ監
 獄署ニ送ル時ハ鍵役ナル者アリテ其証文ニ記シタル人名ニ對照シ入
 監人ヲ受領シ而シテ後奉行ノ目代官タル牢屋見廻リノ同心及ヒ牢屋
 掛リ同心等立會ノ上携帶物及ヒ身体ヲ点查シ其物品ヲ保管スルノ法
 ナリト云フ身体ノ搜檢ハ之ヲ裸体トナシ下男ノ爲ワサニ屬ス入牢証
 文トハ即チ現今ノ入監証書ニ等トシ
 今茲ニ入牢証文ノ雛形ヲ示サン
 評定所ニテ吟味ヲナシタル者ハ大概左ノ如シ
 但シ用紙ハ駿河半紙ナリ

住 所
 名
 前
 年 齡

右今日入牢

支千月日

町奉行氏 名印
 寺社奉行氏 名印
 勘定奉行氏 名印

三奉行ノ氏名ハ其月番ニ當リタル者トス
 寺社奉行ノ取調ニ屬シテ入牢セシムルモノハ左ノ如シ

住 所
 名
 前
 年 齡

右ノ者吟味中揚屋入入牢申付ル者也

支千月日

寺社奉行氏 名印

ひと屋方へ

用紙ハ程村ノ二ツ切トス出牢証文ハ之ニ反シテ右ノ者何々ニヨリ令

監獄則

出牢者也ト記セリ

町奉行ノ取調ニ係ル入牢証文ハ左ノ如シ用紙ハ通常半紙ナリ

名前 年齢 住所

此者儀何々ノ由ニテ此方組回リ同心召捕來リ候ニ付一通リ相尋候上猶又吟味中揚屋入牢舎

支千月日

町奉行 氏名印

ひと屋方へ

右ハ現今ノ勾引狀ノ如シ其入監証書ハ左ノ如シ

支千月日 揚屋入牢舎

氏名 平民ニハ苗字ナシ 年齢 住所

此者儀何々ノ由ニテ此方組回リ同心召捕來リ候ニ付一通リ相尋候上尙又揚屋入牢舎

支千月日

町奉行 氏名印

囚 獄

右吟味濟ノ者ハ

右ノ者遂吟味候處何々ニ付敵又ハ何々何刑申付令出牢檢使へ可相渡者也

氏名及宛名同上

トノ証文ヲ與ヘ刑ヲ行フ臨監ノ檢視へ引渡ス者トス此証文ハ頗ル鄭重ニ作ル用紙ハ岩城ナリ勘定奉行方証文ハ出入共記式寺社奉行同様但用紙ハ西ノ内ニツ切
火附盜賊改役所ヨリ差向ル入牢証文ハ左ノ如シ証文ハ出入共用紙西ノ内

名前 年齢 住所

右ノ者入牢申付候間可被得其意者也

支千月日

何 某 印

石出帶刀との

監獄則

十七

火附盜賊改役所出牢証文ハ左ノ如シ

支千 月 日入牢

名前 年齢 住所

右之者遂吟味候處何々ニ付何敵又ハ何々刑

右之通何ノ何守殿中老依御指圖御仕置申付候間可被得其意者也

支千月日

何 某 印

石出帶刀どの

右ノ處分方ハ檢使引取り之ヲナス者トス

繫獄セラ、ル者ノ中別種アリ夫ノ盲人ノ中檢校勾當在名ノ三者ハ身分アルカ故ニ揚屋ニ入ルナリ此時ハ吟味掛ノ者ヨリ殊更ニ書面ヲ添フ盲人中四分以下ノ者ハ掛役ヨリ入牢証文へ一書ヲ添フコレハ平民ノ取扱下爲ス又過怠牢舎ト云ヘル者アリコレハ女及ヒ幼年ノ男子ナリ其掛奉行所ニ於テ本罪ヲ申渡シタル後入牢証文ヲ受取り未決監ニ入レ置キ日數滿ル時ハ出牢証文ヲ受取其掛役所へ交付スルモノナリ

即チ今日ノ不論罪懲治場入ノ者ニ似タリ此刑ハ例へハ敵一百ハ百日敵五十八五十日ニ換フル類

盲人ノ取扱ハ舊政府ニ於テ新ニ之ヲ制定セシ者ニ非ス大寶ノ制ニモ其取扱ヲ載セタル所アレハナリ

第七條 在監ノ婦女其子ヲ乳養セシト請フトキ

ハ其齡滿三歲ニ至ル迄之ヲ許ス

舊政府ノ時ハ以上述シ如ク幼者ハ過怠牢舎ニ入レ七歲未滿ノ幼兒ハ其罪ヲ問ハス小兒ヲ携ヘ獄舎ニ入ルカ如キハ未タ其例規ヲ見ス他ノ書ニ就テ能ク之ヲ稽考セシニ乳兒ヲ携ヘサル可ラサル犯罪者アルハ住所役所名主庄屋等ニ其小兒ヲ引渡セリ是等ハ五軒組合ニテ各其責ヲ負フノ定メアリ該組合ハ恰モ一家ノ如ク若シ其組中ニ不都合ノ事アレハ互ニ之ヲ談示盡スノ法ナリ是ノ故ニ其責ヲ怠リシニ由リテ自ラ厄介ヲ脊負ニ至ルノ趣意ニ出テシモノナリト云フ大寶令ニ云ヘル責保下ハ此類ノコトナリ若シ此組合ニシテ責務ヲ爲サ、ルハ

町村費用ヲ以テ養ヘリ斯ク定マレルモノナレハ乳兒ヲ携ヘテ入牢スルモノ殆ントナカリシ又妊婦監内ニ於テ出産シタル者ハ大概二十日間許リ其母ニ産兒ヲ乳養セシメ而シテ五軒組合又ハ親屬等ニ交付セリ故ニ本條ニ在ルカ如キ乳兒云々ノ必要ヲ感セサリシナラン此明治ニ至リテ五軒組合等ノ掟モ解ケタルハ已ムヲ得ス本法ノ立チシナラント思考ス

法曹至要鈔ニ不禁老少事アリ其題目中七十歳以上十六歳以下ノ者流罪以下ヲ犯シタル者ハ収贖セシム八十歳以上十歳以下ハ反逆ヲ犯スカ若クハ人ヲ殺ス等死罪ニ當ルヘキモノハ勅裁ヲ請ヒ九十歳以上七歳以下ノ者ハ仮令ヘ死罪ヲ犯スト雖モ刑ヲ加ヘスト見ユ以上ノ如キ制限アリ願フニ徳川氏ハ之ニ依倣シタルモノナレハ乳兒ヲ入監セシムルコトナカリシト云フモ可ナリ

第八條 新ニ入監スル者ノ携有スル財貨物件ハ典獄悉ク點檢シテ之ヲ領置スヘシ

古昔王政ノ時ハ物部丁ニ於テ贓物等ヲ領置シ庫中ニ藏シタリト云ヘリ古今海ノ内外ヲ問ハス携有品ヲ丁寧ニ保管スルハ理ノ當ニ然ルヘキ所ナリ
典獄ノ文字ハ明治十四年ノ監獄則上ニ初メテ見著セリ舊政府時代ニハ石出帶刀ヲ囚獄ノ頭ラト云ヘリ諸藩ニ於テハ牢屋奉行又ハ囚獄元締等種々ノ名ヲ付セリ明治ノ政府ニ於テモ尙囚獄正同權正獄司等ノ官名ヲ設ラル抑々典獄ノ文字ハ棠陰比事書名ニ令典獄密覘之トアリ是ハ事件ノ繁難ナル要犯疑獄ノ如キ者ヲ警守スルトキノコトニ見ユ典ハ主サトルナリ法ルナリ獄ハウツタヘノヒトヤナリ故ニ犯人ノ居處ヲ主サトルトノ意ナリ

第九條 水火風震等非常ノ變災ニ際シ監獄圍内ニ於テ避災ノ手段ナシト考定スルトキハ典獄ハ其狀況ニ依リ在監ノ囚人懲治人及刑事被告人ヲ他所ニ押送シ其災ヲ避ケシムヘシ若シ押

送スルノ違ナキトキハ一時之ヲ解放スルコトヲ得

解放ニ遭ヒタル者ハ其時ヨリ二十四時以内ニ監署又ハ警察署ニ其旨ヲ申出ツヘシ

第十條 滿期ノ者ヲ釋放スルハ其滿期ノ翌日午前十時ヲ過クヘカラス

在監人ヲ待遇スル注意周到ナル所ノ意ニ原キ前兩條ノ大体ヲ取リ古昔ノ有様ニ鑑ミ時勢ノ變遷ニ由リテ事ノ如何ヲ考ヘサル可ラス是ヲ以テ今茲ニ聖德太子ノ制定セラレタリト云フ憲法第五ニ關シテ之ヲ講セント欲ス今日ノ政体ヨリ之ヲ觀レハ或ハ監獄上ニ無關係ノ感アラフナレトモ決シテ否ラス温故知新ハ何レノ習學ニ拘ラス凡テ必要ナリ特トニ監獄ニ其職ヲ奉スル者及監獄學ヲ研究スル者ハ古來ノ監獄沿革ヲ識ル爲ノ一助トシテ之ヲ知ラサルヘカラス若シ然ラスシテ風土人情政本國休ヲ異ニセル外國ノ事ノミチ偏取スルハ恰モ車輪ノ

聖德太子制定ノ憲法第五

軌道ヲ脱シタルカ如キ危機ナキヲ保セス是ヲ以テ余ハ茲ニ太子憲法ヲ講說セント欲ス諸君之ヲ諒セヨ

古代ヘ現今ニ於ケルヨリモ刑獄ハ猶ホ深く密着ノ關係ヲ有シタルカコトシ囚獄斷罪ノ事ハ凡テ物部氏ノ氏族之ヲ管掌シ所謂刑獄共其所置内ニアリシカ故ニ憲法モ囚獄斷罪ノ事相密着シテ之ヲ規定セラレタリト云フ

古人ノ説ク所ニ據レハ憲法第五ニ聽訟ヲ掌トルモノ、誠ヲ掲ケタルハ實ニ時勢ノ己ムヲ得サルニ出テタルモノナリ何トナレハ是ヨリ先用明天皇即位二年七月太子蘇我馬子ニ從ヒ物部守屋等ト稻城ニ相戰ヒ敏達天皇即位十三年佐伯連カ佛像ヲ齎シ來リ大臣蘇我ノ馬子カ大ニ之ヲ信仰シ佛法益々廣マレリ即其戰爭ノ起リシ原因ハ佛法ト我固有ノ神道ノ爭ナリ是レ畢竟教ノ易移スル時世ニ中シ人心洵々恐レ多クモ蘇我馬子ハ崇峻天皇ヲ弑シ奉リ我國ハ國初ヨリ神ナカラノ道ニ隨ヒテ政ヲ行ヒタルモノナルニ佛教ノ弘マルニ就キテハ異論百出

朝廷モ自然靜肅ナラス訴訟上大ニ弊ヲ生シタルニ由リ朝廷時弊ヲ矯メント欲シテ憲法ヲ擬立セラレタルモノナリト云フ

聖德太子藤原ノ皇子ト稱シ生母麻呂ノ前ニ於テ分嬖セラレタルニ因ムト云フハ推古天皇元年ヨリ九年迄萬機ヲ攝行セラレ其後太子憲法制定ノ時ニ當テハ世情平ナラス吏員自カラ黨派ヲナシ收賄枉法ノ弊甚シ於是乎其弊ヲ矯正センカ爲メ特ニ第五ノ文字ヲ臚列シ以テ刑獄上ノ時弊ヲ矯正セントセラレタル者ナリト云フ是レニ就テ參考ニ述ノ當時民事被告人モ入監セシモノニテ此事ハ明治四年迄行ハレタリ其間時弊ノ有無噴々論アリ想像ニ足ルヘシ此明治ノ昭代ニ方リテハ文運進歩シ古昔ト其學問智識ノ程度ヲ異ニスルト雖モ此監獄則第九條第十條ハ輕易ニ看過スヘキノ條項ニアラサルヘシ故ニ非常天災ニ際シテハ在監人ノ處分法平常心得方等ヲ示シ貧富平等一途ノ待遇ヲ爲サ、ルヘカラス若シ此災ニ罹ルコトアリテ富者之ヲ免ル、カ如キアラシニハ後世ニ怨悔ヲ遺下スル者ナレハ當局者宜ク戒心スヘシ

抑モ憲法ハ推古天皇十二年聖德太子親カラ之ヲ作り玉ヒ本朝法制ノ初ナリト云フ今之ヲ左ニ掲ケン

聖德皇太子ノ制定アラセラレシ十七憲法第五

五曰絶餐樂欲明辨訴訟其百性之訟一日千事一日尙爾况乎累歲頃治訟者得利爲常見賄聽讞便有財之訟如石投水乏者之訴似水投石是以貧民則不知所由臣道亦於焉闕

(參考) 餐ハ食ヲ貪ルコトナリ左傳文公十八年傳ノ註ニ詳カナリ

所謂賄賂ヲ貪ルナリ棄欲トハ財賄ヲ貪ル欲ヲ棄ルナリ明辨訴訟トハ是非曲直ヲ辨ヘ冤枉僥倖ナカラシメヨトナリ訴訟トハ公式令中過所式中訴訟ノ分別ヲ説ケリ即チ寇ヲ告ルヲ訴ト曰ヒ財ヲ爭フヲ訟ト曰フトアリ訟ハ所謂今日ノ民事ノ訴等ヲ云フ今日ニ至テハ民刑凡テ訴訟ト云フ果シテ適當ナルヤ否ヤハ今茲ニ論究セス百性ノ訟トハ夫レ百性人民二十四姓即他ノ類ナリ親王モ三代ニ及ヘハ下リテ臣トナリ姓ヲ賜フノ生命權利財產ニ關スルノ訟一日ニ千事モ有リ一日ニ千事アラハ年ヲ累スルニ從ヒ其數夥多ナルコト

計量ス可ラス然ルニ當時訟ヲ治ムルモノ頗フル延滞ヲ生スコ
ノ以下ハ官吏ノ弊ヲ舉ケテ痛ク之ヲ誠ニシメラレタルモノナ
リ
得○利○爲○常○見○賄○聽○讞○此○ノ○如○キ○ノ○弊○ハ○實○ニ○不○正○ノ○最○モ○甚○タ○シ○キ○者
ナリ讞トハ罪ヲ議シ獄ヲ評スルヲ云フ訟ト云ヒ讞ト云フ文字
ヲ互ニスルモノハ民刑ノ二事ヲ合ヌルナリ前ニ云ヘル寇ヲ告
ルヲ訴ト云ヒ財ヲ争フヲ訟ト云フノ別アルヲ以テ讞ノ字ニテ
此二意ヲ含蓄セシ名文ナリト云フ財アル者ノ訟云々ハ富者ノ
訟ハ石ヲ水ニ投スルカ如ク其言ト逆ハスシテ行ハレ貧者ノ訴
ハ水ヲ石ニ投スルカ如ク其言容レラレサルヲ云フ堅ヲ以テ柔
ニ投シ柔ヲ以テ堅ニ投スルト云フノ譬喩ナリ貧民倚頼スル道
ヲ失ヒ實ニ冤枉ヲ吞ンテ止ムヘン此弊アルカ故ニ人民服セス
遂ニ國乱ヲ惹起スルナランカト皇子ノ大ニ痛心セラレタル所
ナリ實ニ後世ニ之ヲ見ルモ寔ニ厭忌スヘキ文字ナレトモ蓋シ

已ムヲ得サル時態ニテアリシナラン臣道モ亦斯ノ如キニ至テ
ハ如何トモス可ラストノ歎息詞ヲ憲法ニ於テ之レヲ見ル余ハ
之ヲ以テ敢テ今日ヲ諷スルニ非サルモ今尙眞ニ讀ムニ堪ヘス
識者ハ當時ノ官吏ヲ目シテ國ノ罪人トセリ夫ノ諺ニ曰ク地獄
ノ沙汰モ金次第トハ玆ニ由來スト或ル隨筆ニ見ユ豈慎誠スル
所ナクシテ可ナランヤ
文章上ノ事モ諸君ノ參考ニ供センカ爲メ玆ニ一言スルモ強チ
無益ノ業ニ非スト信ス
右憲法ノ文章ヲ批難スル者アリト雖モ徂徠ノ如キハ憲法ヲ評
シテ我邦人文章ヲ作ルノ軌範ニス可シト之ヲ稱揚シ其奇古典
雅ナルヲ之ヲ舍テ他ニ在ラスト云ヘリ其文章ノ名文タル所ハ
果シテ何レノ点ナル歟漢魏ノ遺風ヲ追ヒ六朝ノ文格ヲ準トセ
ラレタルニ在リ而シテ如何ナル点カ準ナル歟憲法中ニ非ノ字
ヲ不ノ字ノ如ク用ヒテアリ是レ漢人ノ格ナリ之ノ字ヲ助字ノ

如ク用ヒラル又無ノ字ヲ用ユヘキ所ニ不ノ字ヲ用ヒラレ是又周秦ノ法ナリ故ニ太子ハ法制ノ大祖タルノミナラス又文字ノ大祖ト申スヘシ

凡ソ官職ニ其威權ノ存スルハ學問知識ニ在リ若シ夫レ學ナク識ナクハ只空位空權ヲ握持スルニ過キス古昔ハ式部省中ニ大學寮アリテ學問ヲ教授スルニ博士助教アリ大學頭アリ音博士アリ書博士算博士アリ此學生ノ業ヲ卒ヘ初テ官省ノ吏タルヲ得ル囚獄ノ官吏タル者ニ在テモ此學寮ニ入リテ修學シタル者ヨリ登用セラレタルカ故ニ素袍直垂ヲ着セル身像ニ適フ職技ヲ備ヘシト云ヘリ政權ヲ武將頼朝ニ委ネラレシ以後ハ多シ兵人ヲ以テ治獄ノ任ニ充ルノ習トナリ唯武斷腕力ニ偏シ據リテ治獄ノ平ヲ保タント欲シタルナリ

今ヤ典獄ノ地位ハ奏任ニ列セラレ其位置尙未タ卑シト雖モ先ツ古代ノ制度ニ復シタルモノト謂フ可シ而シテ此機運ニ際會

シ得タルハ果シテ何ノ力ニ由リシ乎諸君ノ如キ實務家ノ盡力固トニ其多ニ居ルト雖モ亦大日本監獄協會與リテ力アリト信ス凡ソ人識ナケレハ從テ他人之ヲ冀如スルハ自然ノ道理ニシテ即自ラ招キタルノ結果ナリト謂ハサル可ラス諸君彼ノ萬國監獄會議事録ヲ見スヤ歐米各國ニ於テハ刑法ノ改正ニ際シ司獄官ヨリ意見ヲ提出スルノ間々アリキ而シテ行刑ノ適否ヲ考ヘ犯罪者ノ懲戒何如ナク驗メスハ殆ント司獄官ノ職務ト謂フモ可ナリ司法官ノミニ任セテ安スヘキモノニ非スト言ヘリ其意見ハ其政府ニテ採用セラレタル好結果ヲ觀タリト云フ我國ニ於テモ斯ノ如ク其關係ヲ切密ニシ朝野共ニ心ヲ此ニ傾クル者ノ多カラシコト偏ニ余ノ企望スル所ナリ

舊政府ニ於テ火災ノ囚徒ヲ解放シタル有様ヲ講述スヘシ
 舊政府ノ時ハ現今ノ監獄則ノ如ク水火風震ニ非スシテ唯火災ノ時ノ規定ノミナリ諸藩ノ制度何如シハ之ヲ詳ニスル能ハサルモ江戸小傳

火災ノ囚徒
 ナ解放シタル
 舊政府ノ有様

馬町京都六角ノ地所ハ水災ノ懸念ナキカ故ニ斯ノ如ク法ヲ立テタル
 ナラン近火ノ際ハ掛リ役人一同出會シテ防火ニ心ヲ配リ囚獄附ノ非
 人人足兩溜人足彈左衛門手下小屋頭等各々馳セ集リテ消防ニ働キ又
 囚獄所ニ近寄リテ災害ヲ加ル者ヲ防クカ爲メ各所ニ立番シテ之ヲ守
 ル而シテ囚人ヲ解放スルハ全ク其獄舎ノ構内ニ火移リテ初メテ之ヲ
 解放ス所謂爛額燃眉ノ危機ニ遇ハサレハ解放セサルノ掟ナリ其解放
 ノ際ニ當リテハ囚獄頭ヲ石出帶刀各監房ノ囚人ニ向テ大聲ヲ發シ一
 同ノ者コノ火事ニ付解放ス銘々神妙ニ本所回向院へ立退クヘシ就テ
 ハ夫々辨當ヲ與フルニ由リ三日間ノ内其掛リ役所又ハ兩溜ノ中何レ
 へナリトモ申出ツ可シト言渡ス若シ病者アルトキハ持籠篋ニ乗セ人
 足ヲシテ之ヲ昇シメ右寺院ニ送ルモノトス
 解放ヲ受ケタル囚人右ノ申渡ヲ守リ三日間内ニ訴へ出テ歸監シタル
 トキハ石出帶刀之ヲ取調へ其掛ニ向テ本罪ヲ減等セラレノコトヲ申請
 ス町奉行ハ此申立ヲ詮議シ本罪ニ一等ノ減刑ヲ與ヘタリ死罪死刑ニ數
法アリ

以上ノ者モ一等ヲ減セラル、ノ中ニアリト雖モ揚リ座敷ニ在ル目見
 へ以上ノ者ニシテ犯罪ノ條件ニ由リ掛ヨリ解放ヲ禁スルノ豫告アル
 者ハ嚴重ニ之ヲ警固シテ災ヲ避クルノ規定ナリ若シ過テ斯ノ如キ者
 ヲ解放シタル時ハ當番同心ハ改易免職セラルト云フ
 溜ハ品川南宿淺草千束村ノ兩所ニ在リテ南北ノ兩所奉行ノ支配ニ屬
 セリ而シテ淺草ハ非人頭車善七ト云ル者之ヲ守リ品川ハ非人頭松右
 衛門ト云ル者之ヲ守レリ小傳馬町ノ獄ニ在ル囚人ニシテ重病ニ罹ル
 者アルホハ之ヲ兩溜ノ中ニ移ス此時石出帶刀ハ某溜ニ於テ養生セシ
 ムヘントノ出牢証文ヲ掛ヨリ回付スルヲ受ク囚人ハ之ニ移ルモ其費
 川ハ悉皆小傳馬町ノ囚獄所ノ費額ヨリ出ス者トス其事務上ノ取締ハ
 牢屋見廻ハリ與力之ヲ擔當シテ不都合ナキ様檢束シ非人頭手下ノ小
 屋頭ヲシテ戒護ヲ掌ラシム此溜メハ獨リ獄中ノ囚人ノミナラス時ア
 リ市中ニ於テ行倒レノ無宿者ヲ町奉行ヨリ便宜ノ溜ニ送リテ治療セ
 シムルコトアリ斯ノ如ク囚徒ヲ遇スルコト甚々厚キモ惡弊之ニ伴隨シテ

起リ富者一朝繫獄ノ日ニ遇ヘハ密カニ醫師ニ謀リ重病ノ診斷ヲ受ケテ溜ニ移リ得タリトカヤ溜ハ囚獄ノ如ク殿ニ牢屋見廻リ等晝夜之ヲ警守セサルカ故ニ親屬ノ來テ自由ニ談話ヲオスコトヲ得久ク審理中ニアル者ハ黃白ヲ以テ巧ニ手下ヲ眩スル等ノヲアリシト云フ故ニ法ノ完備ハ法其物ニ在スシテ法ヲ執行スル活人ニ在リ人ニシテ其法ヲ守ラサルトキハ唯紙上ノ徒法死文タルニ過キス宜ク鑑ムヘキナリ然ルニ舊政府ノ溜ニ在リテハ死刑ニ數法アリ死刑ノ中下手人ヲ刑戮スルハ刎首シテ死骸ヲ取捨ルナリ此刑ニハ様シ者即チ刀ノ利鈍ヲ試ル爲メ屍ヲ寸斷スルコトヲ用ヒス唯一刀ノ下ニ刎首スルノミ之ヲ下手人ト云フ又刑名ニ死罪ト云フモノアリ其死罪ハ刎首シテ後尙試刀ヲナス其他斬罪火罪獄門磔鋸換切腹等ハ死罪以上ノ刑ト定ム皆是レ當時ノ刑法ナリ

舊政府囚人放免ノ期

近時ニ於テハ囚人放免ノ期ハ滿期ノ翌日トナスモ當時ニ在ッテハ滿期ノ日ノ旦ニ放免シ具サニ其夜間ノ時マテヲ累算セス故ニ一日ト云ヘハ一晝時間ヲ尅シ晚レ六ツ時ヲ超ユレハ殆ント既ニ翌日ト做ス是レ當時ノ慣例ニシテ多クハ其滿期日ノ晚レ六ツ時迄ヲ限リトナシ放免者ヲ出監セムルノ掟ナリシト云フ

第十一條 囚人ハ各罪質ニ從テ嚴ニ其監房ヲ別

異シ其中ニ就キ年齡ニ從ヒ左ノ如ク別異ス

- 一 滿十二歲以上十六歲未滿ノ者
- 二 滿十六歲以上二十歲未滿ノ者
- 三 滿二十歲以上ノ者
- 四 滿十六歲以上二十歲未滿再犯ノ者
- 五 滿二十歲以上再犯ノ者

古昔大寶令ノ行ハレシ時ハ年齡七十以上十六以下ノ者癡疾ノ者流罪以下ヲ犯シタルキハ收贖スルヲ以テ男女共十六歲以下ノ入監ハ常ニ少ナク年齡八十以上十年以下ノ者篤疾ノ者反逆ヲ犯シ其罪ノ死ニ該ルキハ奏聞ヲ經テ收贖スルノ例ナリ但シ人ヲ殺シタルキハ此限ニ在

テス

舊政府ニ於テハ十五歳以下ノ者ノ仕置ニ左ノ如キ處分法アリタリ

子心ニテ無辨殺人候者十五歳迄親類へ預置キ遠島

子心ニシテ無辨火ヲ附候者十五歳迄親類へ預ケ置キ遠島

盜致候者大人ノ仕置ヨリ一等輕ク申付ル

十五歳以下ノ無宿者途中其他ニテ小盜致候ニ於テハ非人手下彈左

衛門立會ノ上非人頭へ引渡スナリ

其在監者ノ分別法ニ至リテハ現行監獄則ノ如ク精悉ナラス然レトモ
猥褻ヲ防遏スル爲メニ情慾ノアル者ヲシテ無情慾者ト同居セシメサ
リキ古昔王政ノ時ハ無情慾者ノ如キハ大概収贖ニ處スレハ入監セシ
ムルヲ無キカ如シ是ノ故ニ復タ監房別異ノ要理ヲ感セス從テ法文ニ
掲クルノ必需ナカリシナラン

本條ニ於テ罪質年齢ニ依リテ監房ヲ別異スルハ要スルニ惡事ノ研究
所タラシメサルト猥褻ヲ防制スルトニ在リ是レ獄制上最モ注意スヘ

別異ノ理由

ギノ條項ト思料ス其別異法ノ要旨ヲ詳言スレハ丁年以上ノ者ニ於テ
ハ概テ國事犯ニ關スル者或ハ逃走罪ヲ犯シタル者ハ能ク注意スヘク
罪人藏匿罪強盜詐欺取財ノ牙保者等ハ放免后ノ約束等ヲ爲スノ虞
アルヲ以テ十分ニ意ヲ用テ之ヲ分別セサル可ラス刑法外ノ諸罰則違
犯者違警罪者ト雖モ怙終改メサル者ニシテ罪件ノ最モ惡ム可キ類ハ
其安寢ノ同房者ニ感傳スルヲ免カレサレハ大ニ思考ヲ費サスンハア
ル可ラス若シ是等ノ者ヲ區別セサルニ於テハ恐クハ刑ノ効力ヲ斂損
スルヲアラン

換刑禁錮者ノ如キト雖モ亦十分ノ注意ヲ要シ再犯ナカラシメントテ
期スルハ司獄官ノ當ニ勉ムヘキ緊要ノ点ナリトス

第十二條 懲治人ハ左ノ年齢ニ從ヒ其監房ヲ別

異ス

- 一 滿八歳以上十六歳未滿ノ者
- 二 滿十六歳以上二十歳未滿ノ者

懲治人ノ別異

三 滿二十歲以上ノ者

不論罪ノ懲治者ハ罪ヲ犯スル辨別ナキ幼者若クハ瘖啞者タルカ故ニ
年齢ノ長少ニ從テ之ヲ分別シ以テ風俗上ニ關スル惡事ヲ防制スヘシ
是レ唯タ偏曲ノ積習ヲ矯メテ諒直ノ道ヲ守ラシムルコトヲ教養スル
ニ過キス其教養如何ノニ就テハ別ニ教誨ノ條アルヲ以テ今茲ニ詳言
セス

第十三條 刑事被告人ハ各罪質ニ從テ其監房ヲ

別異シ其中ニ就キ年齢ニ從ヒ左ノ如ク別異ス

- 一 滿十二歲以上十六歲未滿ノ者
- 二 滿十六歲以上二十歲未滿ノ者
- 三 滿二十歲以上ノ者

刑事被告人ノ別異

刑事被告人ハ未ダ罪件審理中ノ者ナレハ罪囚ト同一視ス可ラサルハ
理ノ當ニ然ルヘキ所故ニ共犯其他ノ情故ニ因リ其居所ヲ別異シ私ニ
相通謀スルヲ防キ審理上ニ障害ナカラシメン事ヲ務ムヘシ又再犯以

上ノ者ハ之ヲ初犯者ト區別スルヲ要ス審理上ノ事ニ付キテ古昔ノ情
況ヲ言ヘハ其刑獄相互ノ關係ハ甚タ深厚ニシテ近世ノ裁判官ト司獄
官ノ如キモノニ非ス裁判官ニ於テモ獄制上ニ涉テ深慨シタリ犯人ヲ
一日養ヘハ一日良民ノ膏血ヲ搾ルノ理ナルコトハ固ヨリ論ナシ因テ
ハ相互ノ用意ヲ最モ適切ニナシ獨リ此十三條ノ上ニ於ルノミナラス
其有効ヲ企圖スヘキハ本則第十一條第十二條ノ間ニ胚胎シ來ル條件
ナリト謂フヘシ斯ル法決ヲ運用スルハ實務ノ局ニ當レル人士ノ巧妙
ナルコトハ余ノ信ニテ疑ハサル所ナリ

今茲ニ余ハ舊政府ノ流罪取扱ニ關スル說話ヲナシ第十一條ヨリ本條
ニ至ル管束方法ニ係ル古今ノ大差アルト慘恤ノ異ル一事トヲ述テ諸
君ノ參考ニ供セントス

舊政府ノ流罪取扱

舊政府時代ノ流罪ノ場所ハ所々ニ在ルモ江戸ヨリ發遣スルハ始メ伊
豆國八丈島及ヒ其他ノ六島京大坂ノ町奉行所ヨリ發スルハ西國ノ諸
島ナリシカ後ハ西國ノ諸島ヲ止メ隱岐ノ一國ト定メタリ流罪人ノ支

配ハ島役所即チ庄屋役ノ者之ヲナセリ而シテ伊豆ノ島々ハ葦山代官江川太郎左衛門ノ管轄トス之ニ向テ年二度宛小傳馬町獄ノ在囚ヲ船ニ載セテ護送ス着船スレハ乃チ島内ノ人民各々草履ノ裏ニ自己ノ名前ヲ書シ之レヲ波止場ニ携ヘ行キ手々ニ排列ス流罪人茲ニ到着スルヤ其草履ヲ穿チテ島役所ニ赴カシム而シテ其穿ナル草履ノ名前主ハ其流人ヲ引受タルノ規定ナリシト云フ

島役所即チ庄屋ハ流罪人ニ對シテ非常ナル權力ヲ有セリ其流人譬ヘハ僧侶ナレハ佛事ノ爲メ士ナレハ寺小屋等ノ業ヲ爲シテ敬望セラレ其他ハ熟民ノ業トスル機織リ又ハ農事ノ爲ニ使役セリ永年此地ニ在リテ行狀能キモノハ妻帯ヲ默許ス若シ規則ニ反スルカ如キアラハ外出ヲ禁スルヲ例トシ其最モ重キハ島替トス其島替ハ罪人ヲ事實殺死スルナリ其方法ハ極メテ慘酷ニシテ深キ阱ヲ造リ他ノ流人ニ命シテ其側ニ立タセ犯則者ノ咽喉ヲ此ノ阱上ニ架セル三束木ノ中心ニ下シタル繩ヲ以テ絞リ之ヲ撻キ放チ以テ阱上ニ空吊シ斷息ヲ待テ阱底ニ

埋ム此島替ノ申渡ノ際ハ島中ニ在ル流罪人及ヒ引受人ヲ呼出シテ之レヲ見聞セシメタリト云フ流人島替ノ處分ハ庄屋ニ委任シテ默許ニ附シタリ是レハ伊豆島々ノ事跡ニシテコノ明治ノ首メ余ノ檢覆シタルコトナリ

京都大坂等ヨリ流罪人ヲ發遣スル場所ニ於ルソノ始メハ壹岐隱岐兩國天草島薩摩五島ノ島々等ナリシモ後ニ至リ隱岐一國トナセリ他ノ諸島ハ般々ノ支障アリテ行ハレス隱岐ノミハ明治維新ノ首メ迄廢セサリシ是レ又八丈島ト同シク流人ニ對シテハ庄屋ニ全權アリタルモノ、如シ本國ハ雲州藩ノ預リ地ナレハ同藩ヨリ西郷港ヘ士人ヲ派遣シ所謂ル之カ上ハ見ヲ爲セシメタリト云フ而シテ流罪人ノ島替ヘ處分ハ伊豆島々ニ於ケルト其法ヲ異ニス島替者アルトキハ井ノ如キ深キ穴ヲ其中ニ造リ之レヲ蹈入シ其穴口ヲ排ヘ木ニテ覆ヒ以テ其上ニ土ヲ盛リ僅ニ握飯ヲ與ヘ得ルノ小穴ヲ存スルノミ一週日經過ノ後若シ存命スル者ハ宥免スルノ定ナリ然レトモ大概二三日間ニシテ窒息

シテ死セリ死シタル片ハ直ニ其穴ニ埋ムルノ定ナリト云フ

(附言) 伊豆嶋々ノ罰方ハ稻田家ノ家臣ニシテ故アリ流罪ニ處セ

ラレ幾多ノ苦辛ヲ嘗メ明治ノ首メ赦免ノ恩典ニ遭ヒテ歸京セ

シ者ヨリ現ニ目撃シタル説話ヲ聽キ隱岐國ノ罰方ハ往年予官

事ヲ以テ同國ニ赴キ昔日ノ庄屋某ニ就テ得タル所ノ一談ナリ

右ノ時代ハ如何ナル罪ヲ犯シタル者ヲ流罪ニ處セラレタル乎今之ヲ

説話スヘシ此罪ノコヲ舉クルニ當ツテ話次他ノ罪名ニ及フコアラソ

豫メ之ヲ諒セラレシコトヲ云フ

江戸ヨリ十里四方并ニ御留メ場ト云ヘル地ニテ隱鉄鉋ヲ所持スル者

ハ身分ノ如何ニ拘ハラヌ遠島

難風ニ遇フテ打荷ヲナシタル荷物ヲ盜タル船頭ト馴合ヒタル浦名主

又ハ之ヲ自己ノ土藏ニ入レ配付ヲ受ケタルトキ死罪右船頭ヲ止宿セ

シメ馴合ヒ村中ノ者ヲ勸テ配分ヲ取リタル者ハ遠島

幼女ニ不義ヲナシ怪我ヲ致サセタル者寺持ノ僧ニテ女犯ヲナセシ者

遠島

三島派

怪教、如何ナル教派ナルヤヲ詳ニセズ

不受不施ノ法ヲ勸メシ者

秀吉寺院ニ課役ヲ命セシ他ノ僧ハ皆之ヲ受ケシモ獨リ鎌倉ノ僧之ニ背シテ

吉大ニ怒リ嚴罰ニ處セリト云フ後明治七八年頃釋日正邪教ニ非ル旨ヲ陳白シ一宗立ツ

ニ處ス若シ俗人(僧侶ニ非ス)其子ニ至ル迄ノ者改宗スレハ追放即チ處

拂トス其妻而已ハ無罪

此二法ヲ傳授シテ人ニ之ヲ勸ムル者ヲ止宿セシメタル者ハ遠島然レ

トモ改宗ヲナセハ重罪放法ヲ受ケ人ニ勸ムル者ノ住居等ノ世話ヲナ

セシ者モ遠島改宗スルコトヲ申請セハ田畑取上處拂

博奕中ノ筒取并ニ宿致シタル者ハ遠島武家屋敷ニ於テ召使博奕シタ

ル者遠島手目博奕打タル者遠島仲間ノ者ハ金子合力ノ爲ニ博奕ヲ催

フシ合力金ノ内内証ニテ自己モ配當ヲ受タル者遠島地主ヲ殺スヘキ

所存ニテ手傷ヲ負セタル者遠島

尙此他ニ十有三遠島ニ處セラレタル罪件アリト雖モ今畧シテ茲ニ

掲ケス

第十四條 地方監獄、拘留監懲治場ノ一區畫内ニ在ルモノハ牆壁ヲ以テ之ヲ區畫スヘシ

牆壁ノ二字共ニ區畫ヲ設クル爲メノ垣ト謂フニ過キス然レトモ牆ハ墉ト同義ニシテ墉ハ形容ヲ隱蔽スル所以ノ文字ナリ即チ土ヲ築テ壁ヲ疊ミ上ケル者ヲ墉ト曰フ牆壁ノ熟字ニ注意シ宜シク單ニ壁ト見做ス可ラス壁ハ彼ノ屋壁破壁面壁等ト同一ニシテ唯風寒ヲ辟禦スルモノタリ要スルニ牆壁ノ文字ハ堅峻ニ作リタルモノニシテ其間決シテ他人ノ相窺フヲ得サラシムル者タリ

第十五條 凡ソ監獄ハ男監女監ノ別ヲ嚴隔スヘシ

本條ハ各監獄署ノ警防スル所ノ獄舎ノ中ニ就テ男監ト女監ノ境界ヲ嚴カニ區畫スルノ規定ナリ
隔ハ障也塞也所謂少シモ見ルヲ能ハサラシムルヲ謂フ男女監ノ別ハ古昔王政ノ獄令ノ部ニモ凡ソ婦人ノ禁ニ在ラハ皆男夫ト處テ別ニセ

ヨト見ユ源頼朝以後諸口ノ武家政事ニテモ皆男女相混シタルヲナキハ際々乎トシテ明カナリ又近キ舊政府ノ頃ト雖トモ過日述ヘシ如ク男女監アリテ其間ノ區別嚴然タリ

第十六條 囚人及刑事被告人ヲ裁判所又ハ他監

ニ押送スルキハ男ト女トヲ分チ時宜ニ依リ戒具ヲ用フルコトヲ得但懲治人ニハ戒具ヲ用ヒス

古昔ノ押送法

古昔大寶年間ニ於テハ囚人ヲ押送スルニ專使太政官ヨリ命セラレタル者ヲ派シ沿道軍團ノ大毅小毅其上縮ヲナセリ當時大毅ハ死刑囚ニノミ上縮ヲナシ其他ノ罪囚ハ皆小毅ノ管スル者トス裁判所出廷ノ際ハ檢非違使應及物部派ヨリ送丁ヲ出セリ戒具ハ未決者ニ綱縛及箱圈小窓ノ付シタルヲ以テシ己決囚ニ對シテハ首ニ枷足ニ紐鈇ヲ施セリ流罪人徒刑囚共戒具ハ同一ニシテ居作者ニハ鈇若クハ盤枷ヲ施シ其病者ハ其盤枷ヲ脱セシム而シテ總囚皆巾ヲ被ルコトヲ得昔時ハ奴隸罪人ナラサレハ露頭スルコトナク皆巾ヲ被ムレリ徒刑流罪人ノ服役間ハ囚一人ニ戒護官吏二人トス其戒護法亦嚴ナリト謂フヘシ未決者ニ

監獄則

對シテハ龜甲縛等アリテ其他如何ナル術ヲ以テスルモ之ヲ脱シ得サル綱縛法アリタリト云フ手錠、登宇麻留等種々ノ戒具アリ是レ皆未決者罪狀ノ輕重ニ從テ施シタルモノ、如シ

第十七條 定役ニ服スヘキ囚人ノ作業ハ每囚ノ體力ニ應シテ之ヲ課シ一日ノ科程ヲ定メテ服役セシムヘシ但科程ノ標準ハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

無識ナル余ノ一家言ニ過キサルモ本條規定中ノ科程標準ノ二熟語ハ實ニ余ハ了解ニ苦シミテ白話ヲナサント欲ス今之ヲ案スルニ科ハ品本程、局量ノ五義アリ程モ亦品、法、限、期、量、餘、課ノ七義アリテ物ノ準ヲ謂フ故ニ科程ノ熟字ハ囚人一日ノ作業ノ品、法、限、料ノ準即めめてヲ立テ科程法式ヲ定ムルヲ謂フ之ヲ約言スレハ科程トハ割付ト云フニ過キス標ハ物ヲ表ハシ若クハ舉ルヲ謂フ木ノ高枝ナク準ハなぞふト訓ス故ニ標準ハ目じるシニテ科程ノ二字ハ割付方法ノ準ナリ尙之ニ標

舊政府ノ有様

準ノ二字ヲ加ヘラレタル所以ハ今マ明カニ講述シ難シ余以爲ク右ノ二字無ル可ラストセハ準字ニ換フルニ率字ヲ以テセハ或ハ適當ナラソ乎ト思考ス
畢竟スルニ本條ハ刑ノ執行上ヲシテ全國共通一致ノ法ニ出テシメ彼此其間ニ輕重ナカラシメシメシメノ主旨ニ外ナラス是レ獄制學ヲ講スル者ノ深ク考量シテ重ヲ置カサル可ラサル所ナリ
舊政府ノ中世後マテ徒刑ノ類ナク罪囚ヲ役使セス唯役使ニ似タル刑ハ非人ノ手下、即チ奴ナリ其生殺與奪ノ權ハ殆ソド非人頭ノ手ニ歸シタリト謂フモ不可ナキカ如シ其他之ヲ役使スルノ刑ナク金十兩以上ノ贓ヲ得タル者ハ窃盜ト雖モ死罪ニ處シタリ 光格天皇寛政二年石川島ニ人足寄場ヲ創設シ三奉行ニ次クノ職位ヲ與フル寄場奉行ヲ置キ旗下士ヲ以テ之ニ任シ留役關役書役ハ目見ヘ以下ノ者ヲ以テ之ニ充テ無籍無賴漢ノ苦罪ニ處セラレタル者釋放スルモ歸ルニ家ナキ者ノ類チ此ニ送リ衣食ヲ給シ各作業ヲ執ラシム油ヲ搾ルノ勞動者ニハ

殆ント米麥一升許ヲ給シタリト書ニ見ユ其後享和文化ノ間ニ至リテ有籍ノ者ト雖モ敲キ刑ニ處セシ後親屬故舊ニ引渡シ然ル可シトノ指圖ナキ者ハ皆該寄場ニ送リシト云フ逃走シタル者ハ左腕ニ十字ヲ黥シ以テ一目瞭然タラシム其他ノ服役ノ法ヲ設ケテ役使セシテ江戸大坂及ヒ諸藩ニ於テモ殆ントナキカ如シ京都ニ於テハ悲田院アリ夫ノ奴又ハ手下ノ類ハ之ニ交付セリト云フ

當時佐渡國鐵山ノ水替人足ト云ル刑アリ此人足刑ニテ佐渡ニ押送セラル、者ハ掛リ奉行所ニ於テ敲重敲入墨敲江戸拂ノ刑ヲ言渡シ追テ佐州へ水替人足トシテ差遣ス可キニ付其旨心得ヨト申付ケタリ入墨敲ノ者ハ先ツ之ヲ執行ナシタル上本牢(小傳馬町)ニ置キ病者ハ両溜ノ中へ預ケタリ而シテ此水替人足ヲ發遣スルノ手續ハ佐渡奉行ノ支配下ニ屬スル所ノ地役人一名受取ノ爲メ出府シ囚獄掛へ申出テ人員并ニ所持品等ヲ點査シ目籠一名トケマルニ乗セ囚獄掛ヨリ出ス町人足之ヲ昇キ千住若クハ板橋驛ニ送ル此レヨリ前路ハ驛繼ノ人足ヲ以テ佐渡國へ送

リシト云フ是レ舊政府ニ於ケル已決ノ定役囚タリ尙他ニ鳥番ナル刑名アリ隠鉄砲ヲ打テシ村方及隠鉄砲ヲ所持セシ村方ヲ罰スル所ノ刑ニシテ御留メ場ノ番人ヲ一ケ年勤メシム蓋シ古昔王政ノ時ニ行ハレシ散禁ニ異ナラサルカ如シ

第十八條 左ニ記載シタル日ハ服役ヲ免ス

一月一日二日 元始祭 孝明天皇祭

紀元節 春季皇靈祭 神武天皇祭

秋季皇靈祭 神嘗祭 天長節

新嘗祭 十二月三十一日

父母ノ喪ニ遭フ者ハ三日免役ス

免役日ノ精神
父每ノ喪ニ遭フハ三日免役スルハ父母ノ恩ヲ追想シ哀戚ノ情ニ堪ヘキヲシメンカ爲ナリ今此法ノ必要歟ク可ラサル所以ノ者ヲ按スルニ一旦道義ヲ破リ人性ノ本原ヲ失ヒ哀戚ノ情モ亦共ニ失ケタル者トナセハ悔悟反省セシムル爲メ繫獄シタル理由ニ戻レリ故ニ本條ハ父母

ノ喪ニ悲シマシメ其悲メル時ニ乘シテ教誨等ニ力ヲ致シ人生ノ本原
ニ反ラシムルノ要目ナリ若シ唯父母ノ喪ニ因ルノ單言ヲ以テ休役セ
シメ教誨等ヲ施サハルニ於テハ其休役セシメタルノ効ナカラズモ計
ル可ラス

舊政府ノ免役

舊政府ノ時ハ毎月一日ノ御忌 正月元日ヨリ七日迄七月十五日十六日
十二月廿五日ヨリ卅一日迄寄場人足等ノ休役日ト定メタリ寄場奉行
ノ手扣ニ見ユ現今ノ時間ヲ定メ役ヲ科スルノ服役人トハ素ヨリ同日
ノ論ニ非ス水替人足ハ其作業ノ繁簡ニ從ヒ又ハ半日交代ニ休息セシ
メ寄場ノ如ク條目シテ休日ヲ定メサリシト云フ
古昔王政ノ時ハ流移人發遣ノ道ニ在ツテハ婦人ノ子ヲ産スルアレハ
其同配者モ共ニ暇二十日ヲ給フ流移人ニ妻妾アレハ必ス相從ハシム
蓋シ妊婦ト雖モ臨日ニ拘ハラス之ヲ押送シタル者ナラン
流移人ノ祖父母父母從テ路ニ在テ喪亡スルトキハ休暇ヲ給フ十日
家口ノ死スアレハ三日家人奴婢ハ一日

其流移人ハ經由スル所ノ處ニ於テ毎囚ニ糧ヲ給シテ之ヲ遞送ス是レ
ハ國司ノ廳ヨリ糧ヲ給シタル者ナリト云フ
流罪人徒刑居作スル者ハ毎旬ニ一日休暇ヲ給フ

第十九條 無定役囚ニシテ監獄以內ニ於テ自ラ
作業ヲ爲サント請フトキハ之ヲ許シ作業ノ種
類ハ典獄之ヲ指定ス刑事被告人モ亦之ニ準ス
ルコトヲ得

無定役囚ニ作
業ヲ許スノ趣
旨

戒護上煩雜ナルニモ拘ハラス無定役囚ニ向テ作業ヲ許スノ主旨ハ人
世厚生ノ本意ニ出ル者ナリ之ヲ細説スレハ天帝ノ人ニ附與スル活潑
有爲ノ性ヲ以テス豈ニ閑散無聊一事ノ爲ス可キ者無クシテ光陰ヲ徒
消スヘケンヤ假令繫獄セラレ、モ猶宜シク良民本分ノ事業ヲ忘ル、
ナク幸福ヲ享ルノ思想アラシムヘキナリ以上ノ理由ヲ以テ作業ヲ許
スカ故ニ作業ヲシテ遊戯視シ之ニ就クモ廢スルモ彼レノ隨意ナラシ
ムルモノニ非ルヘシ異邦ノ事ニ及フモ如何ナレト歐州中ニ於テモ無

定役囚ニ向テ人間本分ノ在ル所ヲ忘レサシメシカ爲メ典獄及ヒ教
 誨師ハ作業ヲ勸誘スルノ國アルヲ聞ク兎角ニ未決者ニ作業ヲ許スノ
 當初隨意ニ廢止スルコトナカラシメン爲メ十分ノ説諭ヲ加テ可ナラン
 本條ニ於テ最モ注意スヘキハ彼ノ互ニ言語ヲ交ユルコト器具ヲ交付
 スルノ二事ナルヘシ作業ヲ爲サシメントスレハ器具ヲ交付セサル可
 ラス而シテ看守者ノ眼光鈍ルコトアラハ之レカ爲ニ弊害ヲ生ス豈注意
 スル所ナクシテ可ナランヤ
 無定役囚若シ典獄ノ施行細則ニ由テ指定シタル作業若クハ内務大臣
 ノ認可ヲ得タル作業ニ於テ肯シセサルハ如何ノ是レ一ノ問題タル
 ヘシ鄙見ヲ以テスレハ之ヲ止ムル而已何トナレハ固ト人世厚生ノ本
 意ニ出テタル者ナルカ故ニ彼レ自カラソ好マサルモノハ強ヒテ之ヲ
 爲サシメサルモ可ナレハナリ
 此無定役囚ハ舊政府ノ時ニ於テ逼塞處預等ニ處セラレタル者ニ異ナ
 ラス其逼塞ハ身分アル者ノ閉門ニ同ク又所預ケニ異ナラサルカ如シ

所預ケハ其住居町村ニ保釋スルヲ謂フ未決者ニ向テ作業ヲ許スノ法
 文見エス唯吏人ノ手扣書ニ據ツテ之ヲ見ルニ揚屋入揚坐敷ニ在ル者
 ハ親屬ヨリ贈リタル所ノ紙ヲ捨リ以テ肝襟ヲ作り或ハ麻ヲ紵ニテ
 紙鳶ノ糸若クハ釣糸ヲ造リ無聊ヲ慰セント云フ然レトモ是レ素ヨリ
 默許ニ過キサルヘシ

隱賣女致候者踊子ヲ抱ヘ置賣女致サセ候者ハ科料申付ノ上百日手鎖
 ヲ施シ處預ケニナセリ而シテ其手鎖ハ隔日封印ヲ檢セリト云フ

第二十條 懲治人ニハ毎日五時以内農業若クハ

工藝ヲ教ヘ力作セシムヘシ

本條中農業工藝ヲ教ユトアルハ教誨ノ爲ニ讀書書算ヲ教ユルト其意
 決シテ異ラサルヘシ何トナレハ本條ノ旨趣ハ改々トシテ強制ノ勞働
 ニ服セサル可ラサル者ヲ遇スルト異ルヘシ專ラ書籍ヲ誦讀セシメ其
 書籍上ノ理ノミヲ教示センハ矯正ヲ要スル懲治人ヲ教ルノ道偏スル
 ノ嫌ヒアレハ懇ニ實業ヲ習ハシメ以テ人世ノ本務タル生計上ノ精理

懲治人ニ作藝
 ヒシムルノ要
 旨

舊政府盲人ノ
仕置方

ヲ教授スルノ法意ナリト思考ス

舊政府ニ盲人ノ仕置方アリ蓋シ現行刑法第七十九條ニ見ユル所ノ十
二歳ニ滿タサル所ノ者ノ處置及第八十二條ニ見ユル瘖啞者ノ不論罪
ノ如ク之ヲ細別セサルモ其法意ニ於テハ固ヨリ同一ニ出テタル者ナ
ラン

盲人ノ仕置 盲人罪ヲ犯シ遠島追放等ニ處セラレヘキ科ハ居町村ノ

外ニハ猥ニ徘徊セシメサルヲ申渡ス

座頭ノ仕置 惣録座頭支配人ヘ科ノ次第ヲ申聞ケ座法ニ申付クヘキ旨申渡

シ尙非人手下トナスヘキ旨申渡ス

乱心ニテ火ヲ放タル者 乱氣ノ証據不分明ナレハ死罪乱心ニ紛レナ

キニ於テハ押込メ置クヘキ旨ヲ親類ニ申付ル

前ニ述ヘシ未丁年者ノ子心ノ三條件モ亦非人手下トナルヘキ者ナリ

以上ハ現行刑法中不論罪ニ該ル可キ罪件ノ者タリ

古昔王政ノ時ニ於テハ老幼篤疾ノ者ハ收贖ニ止ムコトハ前ニ講述シタ

ルカ故ニ今茲ニ細説セス

第二十一條 役場ハ男女ノ別ヲ嚴隔シ仍ホ定役

囚無定役囚懲治人ノ役場ハ各別ニ之ヲ設ケ其

中ニ就キ丁年以上ノ者ト未丁年者トヲ區別ス

ヘシ

役場ヲ各別ス
ルノ要旨

本條ニ於テ在監者ノ類ニ由テ役場ヲ各別スルノ要旨ハ惡事ノ感傳ヲ

防クノ用意ヲ周到ナラシメタルニ在リ其故ハ本則第一條中一二三六

ノ四項ヲ設ケテ囚人及懲治人ヲ別異シ其第十一條ニ於テハ年齢ト再

犯以上トヲ筋ヘテ居房ヲ分テ仍ホ其第十二條ニ至テハ懲治人ト雖モ

年齢ヲ以テ居房ヲ分テ其第十五條ニハ女監ノ制ヲ設ケ斯ノ如ク用意

ノ周到ナル上ハ其効用ノ虛シカラサランコトヲ圖ラサル可ラス常ニ役

場ヲ分テ居房ヲ異ニセル囚人及懲治人ナレハ作業場ニ往復スル匆忙

間ト雖モ私語交談セント欲スルノ造意ヲ禁遏シ毫モ看守者ノ眼光ヲ

檢ムコト能ハサラシメ宜ク彼レノ造意ニ勝テ其弊ヲ豫防スルコトヲ

講究スヘキナリ

故ニ右ニ述ル所ノ効用ヲ全フセント欲セハ再ヒ惡事ニ感傳セシメス之ヲ豫防スルニ如カス彼ナシテ監内ノ犯則又ハ再犯ナカラシムルノ法ハ唯常ニ相混交セサラシムルヨリ善キハナシ之ヲ是レ獄政ノ善良ト謂フ

舊政府ノ模様

舊政府寄場人足ノ内ニハ丁年以上ノ女子ヲ入ル、爲ニハ其處ヲ設ケ男監ト嚴割セリ而シテ女囚ハ其處内ニ於テ紡績洗濯其他座作ノ業ヲ執ラシム然レトモ初犯ト再犯以上ト別異スルノ掟ナキカ如シ蓋シ之ヲシテ男監トノ嚴割ヲ施スモ其看守者ハ男子ナルカ故ニ間々不都合ノ私行モ在リシトカヤ
古者王政ノ時ニ在ツテモ婦人ハ男夫ト處ヲ別ニセヨトアレハ女監ノ別異アルハ明ナリ徒刑ノ婦人ハ縫作及舂ニ配セヨトアリ斯ノ如キノ制アルカ故ニ女囚ノ役場ハ男囚ト同シカラス相混居セサルコトハ歴々トシテ明ナリ

未丁年者老人廢疾ノ者ハ流罪徒刑以下ヲ犯シタル者ハ收贖ノ法ニ依ル故ニ役場ヲ分別スルノ法未タ見ユス加役流反逆ノ緣座流ノ者赦ニ遭フテ尙流刑ヲ犯セハ配所ニ至ツテ居作ヲ免ヌ配所ニ於テハ年齢ト再犯ニ因リテ之ヲ別異スル法ノ設ケハアラサリシナラン

第二十二條 定役ニ服スヘキ囚人現役一百日ヲ

經レハ始メテ各自ノ工錢ヲ料定シ之ヲ十分シテ重罪囚ニハ其二分輕罪囚ニハ其四分ヲ與ヘ餘分ハ監獄ノ費用ニ供ス無定役囚懲治人及ヒ刑事被告人ニシテ作業スル者ノ工錢ハ之ヲ十分シテ六ヲ與ヘ其餘分ハ監獄ノ費用ニ供ス定役ニ服スル囚人ニシテ科程外ノ作業ヲ爲ス時ノ工錢モ亦之ニ準ス

本條ノ要旨ハ出監ノ后ニ在リテ生活ノ便近トナルヘキ作業ヲ習得セシメ而シテ工錢ヲ與ヘ幾許ノ貯金アラシメンカ爲メナリ抑々四種ノ

工錢ヲ與フルノ要旨

在監人ニ與フル工錢ハ在監人勞力ノ優劣ト科程ノ多寡ニ由リ之ヲ料定シ制限ノ錢額ニ從ヒ給與スルノ法トナシ姑ク監署ニ領置シ縱放セラル、ノ日ニ至テ盡ク之ヲ下付スルナリ

定役ニ服スル囚人ハ日ヲ經ルニ非レハ工錢ヲ與ヘサルハ何ソヤ夫レ法律ハ正理ニ本キテ之ヲ設クル者ナリト雖モ正理モ亦元來人智ヲ以テ之レヲ考定スル所ナレハ唯ニ正理ニ拘泥シテ情勢ヲ顧ミス遂ニ弊害ヲ生スルニ至ル如キハ未タ以テ至當ノ法ト爲ス可ラス今若シ定役ニ服スル者ヲシテ刑期ノ長短ニ拘ラス服役ノ初ヨリ均シク工錢ヲ與ヘシメハ彼ノ廉耻ヲ知ラサル無教ノ貧困者或ハ妄迷シテ以爲ラク外間ニ在リテ衣食ノ策盡キ將ニ飢餓ニ迫ラントスルヨリハ寧ロ故ラニ刑期百日以下ノ輕罪ヲ犯シテ暫ク入監シテ其衣食ヲ監署ニ仰キ且ツ役業ニ就キテ工錢ヲ得ルノ愈レルニ如カスト洵ニ此ノ如キナレハ則テ是レ反リテ世ノ大害ヲ生シ而シテ刑法ノ効力果シテ安クニ在ルヤノ疑訝ヲ來スニ至ラン是ヲ以テ現役一百日ヲ經ルニ非レハ工錢ヲ與

ヘサルノ規定アル所以ナリ

又刑ノ輕重ニ由リテ付與ノ工錢ヲ多寡スルモ亦然ラサルヲ得サル理由アリト思考ス何トナレハ囚人ノ繫獄セラル、所以ハ皆自ラ罪惡ヲ求メタル者ニシテ其犯罪ヲ以テ奇貨トナシ衣食ノ支給ヲ人ニ受ルノ理決シテナシ全人ハ是等ノ費用必ス當サニ自ラ之ヲ辨スヘキハ論ヲ待タス斯、ル道理アルヲ以テ料定シタル工錢ノ幾分ヲ取テ監獄ノ費用ニ供シ以テ衣食ノ費ヲ補フナリト信ス又重罪囚ハ輕罪囚ニ比シテ其懲罰ヲ嚴ニシ輕罪囚ノ一半ニ當ルノ工錢ヲ與ヘ以テ明ニ其輕重ノ分別ヲ示ス然レトモ定役ニ服スル囚人ニシテ其科程ヲ畢ルノ後仍ホ作業シ又ハ無定役囚懲治人及刑事被告人ニシテ作業ヲナス者ハ其作業力ノ優劣成工ノ多寡ニ依リテ其工錢ヲ料定シ其錢額ヲ十分シ四分ハ監獄ノ費用ニ供シ以テ作業上使用スル所ノ器具ノ賃價等ニ充テ其ノ六分ハ之ヲ本人ニ付與スル者トナシタルハ則テ定役囚ニ比シテ待遇ニ差異アルノ点ナリト謂フヘシ

前ニ述タル所ハ之ヲ要スルニ左ノ三條件ノ理由ヲ主トシテ工錢ヲ與
フルノ所以ナルヘシ

第一縱放ノ日郷里ニ歸ルノ旅費ニ供シ再ヒ不良ノ所爲ナカラントヲ
期ス

第二出獄後ノ生計助資ニナサシム

第三獄内ニ在ルモ父母ノ報恩若クハ妻子ヲ慈扶スル等ノ要用ニ供シ
人道ノ大義ヲ省慮セシム

故ニ父母ノ報恩ヲ志シ又ハ妻子ヲ慈扶スルノ心ヲ起セシ時ニ際シ人
道ノ如何ヲ説キ以テ感動ヲ促スノ愈レルニ如カサルナリ之ヲ勉ムル
ハ獨リ司獄官ノミナラス教誨師モ亦自ラ暗涙シ以テ彼レヲ説キ一意
ニ感動セシメント圖ルニ至ラハ良心ヲ誘出スルヤ當サニ差ハサルヘ
シ當局者宜シク關念スヘシ

現役一百日トアルハ假令ハ炊夫掃除夫其他各種ノ作業ニ於テモ業事
既ニ着手シタル上ハ一日モ之ヲ停止スルヲ能ハサル者アラノ斯ルルル

ハ免役日ニ當ルモ休役セシムルヲ能ハサレハ免役日ニ息フ所ノ他ノ
服役者ヨリモ多ク勞働スルノ理ナリ然ルニ免役日ニ息ハシメサルハ
唯タ業事ノ便利ヲ計リシ者ナリト做シ現役一百日ノ中ニ算入セサル
ノ論者アリ此論穩當ナラス既ニ刑ノ輕重ニ從ヒテハ服役ノ定法アリ
其之レアルニ拘ハラス必要ノ時ハ何等ノ刑名何等ノ身幹ナル者モ典
獄之ニ作業ヲ命スレハ休役スル能ハサルコト言ヲ俟タサルニ免役日
ハ均シク百日内ニ算入セストノ説ハ酷ト謂フヘシ

舊政府ノ工錢
給與法

舊政府ノ寄場人足ニ手當金ノ名稱ニテ毎月給與シタル金額ハ錢四百
文以上一貫文以下ナルカ如ク一ノ手記簿ニ存セリ現今ノ監獄則ノ如
ク素ヨリ確乎タル規定ナク寄場奉行ノ伺定ト謂フ可キモノナラン其
給與ノ等差ハ技能ノアル者又ハ膂力者ヲ選ンテ役付人足ト云フ者ニ
ナシ此役付モ亦作業ノ種類ニ由テ階級ヲ立タリ例ヘハ榨油工ノ役付
ハ第一等ノ扱ニナシタルカ如シ而ノ給與錢ハ毎月給與ノ半額ヲ放免
ニ至ル迄官ニ領置シ半額ハ小買物代ニ使用スルヲ許可セリ該給錢

ノ規定ハ漸ク物價ノ騰貴シタル安政年間之ヲ改メテ右ノ員額ニナシタル者ノ如ク手記簿ニ見ユ其以前ハ物價廉ナルカ故ニ從テ小額ナリシナラシ書籍ノ存スルナキニ由リ之ヲ詳知スル能ハス

古昔王政ノ時ハ流罪ノ者ハ其發配所ニ赴テ役ヲナシ徒刑囚ハ畿内ハ京師ニ送リテ役シ在外ハ當所ノ官役ニ供シタリ而シテ衣糧等ヲ與フルノ法ハ精悉ナル規定アルモ工錢ノ事ハ未ダ知ルコトヲ得ス一説ニ衣糧ヲ與フルノミニシテ工錢ヲ與ヘシ者ニ非スト予願フニ或ハ然ラシ源賴朝王政ノ後ヲ承ケテヨリ刑部禪正檢非違使及ヒ其他ノ職ミナ空權ニ歸シ遂ニ盡ク廢滅シタレハ犯人待遇ノ法亦粗濫ニ流レ囚人ニ工錢ヲ與フルノ法ナシ刑期終レハ直ニ追放セシ者ナリト云フ

前段ノ王政ノ時ハ衣糧席醫藥ヲ給ヒ及ヒ獄舎ヲ修理スルノ類ハ贖金ヲ以テ之ニ充タリ

第二十三條 前條ニ依リ作業者ニ與フヘキ工錢ハ典獄之ヲ領置スヘシ

工錢ノ領置

工錢ヲ典獄ニ於テ領置スルノ理由ハ在監人若シ各自ニ工錢ヲ所持スルトキハ博戯ヲ弄シ又ハ逃走ノ念ヲ惹起シ或ハ私恩ヲ售リ或ハ追放者ニ托シ父母妻子等ヲ措キテ不良ナル交通人ニ贈リ或ハ同監者ニ贈與シテ私恩ヲ售リ恰モ外間ニ於ケル主僕ノ如キ看ヲ呈スルノ弊ヲ生シ終ニ監中ノ警誡ヲ輕侮スルニ至ラシ是レ豈ニ犯人ヲ禁鎖スルノ本意ナラシヤ既ニ舊政府ノ時ニ在ツテモ相當ノ家産ヲ有スル者一朝誤テ在監ノ身トナルトキハ種々ノ手段ヲ施シ金錢ヲ以テ下男輩ヲ蕩カシ或ハ被此ノ意氣投合シテ般々ノ弊害ヲ宿メタル事實ハ歷然タリ此弊害ヲ洞察シタル來因アルノミナラス古昔ノ制ニ於テモ囚人ヲシテ金錢ヲ携有セシメサルノ法アルカ故ナラント思考ス

第二十四條 囚人懲治人及刑事被告人逃走シ監署ニ領置ノ貨物アルトキハ逃走ノ日ヨリ滿一箇年ヲ經テ之ヲ受クヘキモノナキトキハ監獄慈惠ノ用ニ充ツ刑死者死亡者ノ領置貨物ニシ

テ受クヘキモノナキトキモ亦同シ

本條ニ謂フ所ノ貨物トハ既ニ在監人ノ所有物ト定メテ領置スル者ナ
ルカ故ニ假令ヒ逃走スルモ其所有權ハ直ニ失滅ス可キ者ニ非ス一年
内本人所在ノ分明ナルルル及ヒ親屬ヨリ下付ヲ請フルモ其請ヲ許スヘ
キノ理アル者ト考量ス是ヲ想フニ一箇年ト期シタルハ囚人懲治人等
ニ對シテハ恰モ遺失物ノ如ク見做シ又被告人中ニハ盜罪ノ公訴ヲ受
ケタル者モ少ナカラス依ツテ其原本ヲ探究セハ不正品ナルモ未タ知
ル可ラス是ヲ以テ一ケ年經過シテ受クヘキ者ナキルハ監獄慈惠ノ用
ニ充ツルノ法意ナラン之ヲ按スルニ譬ヘハ久シク繫獄セラレタル中
最モ改心ノ狀著シキ者アリ而シテ司獄官能ク之ヲ認ム其放還セラル、
ノ日ニ至リ少許モ蓄金ナク其監中ニ在リシ往時ハ長ク病ニ罹リ若ク
ハ天賦不具ノ身ニシテ工錢ヲ得ルノ道ナキ者ノ如キニ上文ノ慈惠ヲ
行フテ可ナラン乎若シ眞實無一物ナルヲ知リツ、之ヲ放還セハ目下
衣食ヲ求ルニ急迫シテ門外ニ出レハ乍チ盜罪ヲ犯サン假令之ヲ犯ス

モ司獄官ノ關スル所ニ非ストシテ路視シテ可ナランヤ復タ是等ノ者
ニ對シテ時服若クハ歸家ノ旅費ヲ惠給シ或ハ作業間ニ負傷シ其傷ノ
猶ホ癒ヘサル者ニ療藥費金ノ助足トシテ慈惠スルモ可ナラン乎
舊監獄則ニ別房留置ノ法アリ粗ホ本法ト意義ノ似タル者ナリ今ヤ此
監獄慈惠ノ行ハル、ニ至リタルハ法制ノ進化シタル者ニシテ大ニ讚
美ス可キ事ト謂フヘシ

又本條ニ刑事被告人トアリテ其逃走シタル者ノ領置貨物滿一ケ年ヲ
經テ云々ト規定セラル未決監ニ令狀ヲ有シテ入監スル者ハ無論本條
ヲ適用シテ可ナルモ本則第一條第五項ニ見ユル一時留置スル者ノ如
キ例ヘハ警察署ニ引致シ來リタル者逃走シタルルルハ如何シ是レ一ノ
問題タリ鄙見ヲ吐款スレハ本條ヲ適用スル弗論ナラン唯本人ノ所在
ヲ知テ之ニ下付シ若クハ親屬ノ下付ヲ請フニ應スルカ如キハ典獄ノ
本務ヲ便宜シ警察署ニ之ヲ囑托スルモ可ナリ然レモ管理ノ本分ハ被
告人ヲ管束スル所ノ監署ニ屬スル者ナリト思考ス

舊政府ニ於テ寄場人足死亡シ又ハ逃去シテ其遺留物ノアルキハ大概六ヶ月間見合セ受取人ナキニ於テハ取上ケ然ルヘシト其奉行職ノ手記簿ニ見ユ仍ホ參照トシテ舊政府拾物取扱ノ法ヲ其簿中ニ朱書セリ其文章ヲ左ニ述ヘン右ノ期限ヲ六ヶ月トナシタルハ遺失物ト同一ニ見做シタルナラン

拾物取計ノ事

- 一拾物ノ義訴出候ハ、三日晒シ主出候ハ、金子ハ落シ主ト拾候者ハ半分宛取ラセ可申候反物ノ類ニ候ハ、不殘主ヘ相返シ拾候者ヘハ相應ニ禮致サセ可申事
- 一落候物物主相知レ不申候ハ、六ヶ月見合彌々主無之候ハ、拾候者ヘ不殘取ラセ可申事
- 一拾物致シ訴出テサル義顯ハル、ニ於テハ科料

第二十五條

囚人及懲治人監署ニ領置ノ貨物ヲ以テ其父母妻子ノ扶助及正當ノ費用ニ充ント

請フトキハ典獄其事情ヲ取糺シテ之ヲ許可スヘシ

刑事被告人ニ係ルトキハ當該裁判官ノ允許ヲ經ヘシ

領置貨物ノ費途

本條貨物ノ二字ハ第八條ニ云ヘル財貨物件ノ四字ヲ縮約シタル者ナラン第二十二條ニ於テ工錢ハ典獄之ヲ領置スト規定シ前條ニ領置ノ貨物云々トアル中ニ工錢モ亦合蓄シタル者ト見做サ、ル可ラス之ヲ否ラストセハ逃走者ノ遺留シタル工錢ノ處分法ナケレハナリ本條ニ云フ所ノ領置貨物ノ其中ニハ所有ノ本人之ヲ監中ニ携入スルモ之カ爲メ必ス危險ノ虞アリト言フヲ得ス又甚タ近用ニ便ナル物品モアルヘシト雖トモ嚴ニ之ヲ禁スルハ大ニ其故アリ凡ソ監中ニ拘禁セラル者ハ家道ノ貧富ニ拘ハラス一ニ之ヲ懲戒勸誘スルヲ以テ緊要トナス然ルニ家道ノ富メル者ヲシテ意向ヲ縱委ニスルヲ得セシメナハ是レ飽食暖衣ノ餘地ヲ與フルニ等シシ絶テ懲罰ノ効ナク監禁ノ意ニ反

スル者ナリ是ヲ以テ法律ハ近用ニ便ナル品類ト雖モ嚴ニ携入スルヲ禁セリ然レトモ其財物ノ所有權ハ固ヨリ依然トシテ變スルヲ大ニ故ニ父母妻子ヲ扶助シ及ヒ正當ノ費用ニ充テシムルヲ得正當ノ費用ハ如何ナル者ヲ指スカ今按スルニ懲罰ノ効ニ由リテ囚人正ニ前非ヲ悔ヒ往キニ人世ノ本分ニ背戻シテ奸惡ヲナシ人ニ害ヲ被ラシメタルヲ慙悔シテ被害者ニ賠償スル如キ者或ハ父母妻子ノ墳墓ヲ作ラントシ若クハ其祖其死者ノ年忌祭ヲ營マントスルニ贈ルノ類又ハ第三十二條ニ於テ許ス所ノ書類營業ノ必要書第三十九條ニ於テ許ス所ノ現行ノ法律命令書書籍用紙印紙郵便切手等ノ類ヲ指示シタル者ナルヘシ而シテ之ニ似テ非ナル者アリ今茲ニ其一ニヲ擧ン在監人ニシテ家道ノ饒ナル者又ハ名ヲ慈善任俠ニ假リテ貧民ノ教育所ニ貨物ヲ寄贈セント欲スル如キハ不全人カ全人ヲ救フノ理ナレハ頗ル穩當ナラサル者ナリスハ志シニ於テハ一應嘉ス可キカ如シト雖モ正當ナル所爲ニ非ス

刑事被告人ノ貨物ハ素ヨリ毫モ疑ナキ確定ノ所有物トハ見做シ難シ故ニ典獄專ラ其被告人ニ對シ使用ノ点ニ就テ許否スルノ權ナキ者タルノ法意ナラン今尙一步進シテ之ヲ細論スレハ假令被告人ノ貨物中工錢ノ若干加ハリアルトスルモ裁判確定前ノ金錢ハ未タ以テ定役ニ服スル者及懲治人ニ與フル工錢ノ如ク濟惠質ノ者ニ非ス情狀ニヨリテ裁判所ヨリ追徴セラルヘキ物質ナリト見サル可ラス故ニ典獄ニ其使用点ノ許否ノ權ヲ與ヘサルノ意ナリト思惟ス

第二十六條 囚人及懲治人ノ衣服臥具ハ之ヲ貸與ス但拘留囚ハ白衣ヲ着用スルヲ得

罪最モ輕クレテ一日二日間ノ拘留囚ニ白衣ヲ着スルヲ得ルノ制ナリ是レ他ナシ一概ノ成規ニ拘泥シテ獄衣ヲ着セシメントセハ警察署等ニ之ヲ設貯セサル可ラサルノ煩雜ヲ來スヤ必セリスハ煩雜ヲ來サンヨリハ寧ロ狀勢ヲ察シテ簡便ニ就クノ愈レルニ如カストノ法意ナラン是レ能ク從來ノ狀勢ヲ洞觀シタル良法ナリト謂フヘシ囚人ハ

衣服臥具

勿論懲治人ノ如キハ之ニ反シ全ク成則ヲ行フヘキ監中ニ於テ警誡ヲ加フヘキ者ナレハ赭色ノ獄衣ヲ被ラシムルヲ當然ト謂フヘキナリ

第二十七條

刑事被告人ノ衣服ハ總テ自辨トシ

臥具ハ之ヲ貸與ス若シ臥具ヲ自辨セント請フ

者アルハ之ヲ許ス赤貧ニシテ衣類ヲ自辨ス

ルコト能ハサル者ニハ之ヲ貸與ス

本條ニ赤貧ハ被告本人ニ關シテノ謂ナルヘク延テ親族ノ貧困ト否トヲ問フテ處辨スヘキニハ非ルヘシ又入監人乳兒ヲ携帶シタルハ親ノ貧否ニ從テ之ヲ區處シ其親ニシテ赤貧タラハ乳兒ノ衣服ノミハ獄衣ノ制ニ依ラズシテ全人ノ着用スヘキ製色ノ者ヲ用フルヲ以テ穩當ナリトス然レトモ未タ乳兒ニ貸與スル衣服ノ規定アラサルヲ以テ余ハ唯タ當路者ニ於テ裁酌ヲナシ普通人ノ着用スヘキモノヲ貸與セシトヲ企望スルノミ

第二十八條 囚人及懲治人一人一日食料

一 下白米十分ノ四 七合乃至八合

最モ強キ作業ニ服スル者

一 麥 十分ノ六 五合乃至六合

作業ニ服スル者

一同 四合

作業ニ服セサル者

一同 三合

十歳未滿ノ幼者

一 菜 金壹錢以下

地方ノ便宜ニ依リ粟稗黍薯ノ類ヲ以テ麥ニ代用スルコトヲ得又麥粟稗黍等ニ乏シキ地方ニ於テハ内務大臣ノ認可ヲ得テ下白米ノミヲ給スルコトヲ得

刑事被告人モ亦タ前項ニ準ス但自費ヲ以テ食物ヲ購求セント請フトキハ之ヲ許ス

本條食料中ノ飯量ニ等差アルハ身体ノ強弱年齢勞作ノ難易氣候等ニ由リ之ヲ斟酌シテ給與スルノ規定ナリ米麥ヲ混炊スルノ法意ヲ案スルニ全般ヨリ之ヲ言ヘハ攝養ノ効アリ又外間ニテ飽食暖衣ニ處シタ

ル者其貧困ナルモ食欲ノ嗜好ニ耽リシ者等ヲシテ前日ノ染習ニ異ル所ノ粗食ヲ嘗メシメ再ビ茲ニ入ル可ラサルノ感想ヲ起サシムルノ安排ヲ包有ジ且ツ經費ヲ節減スルノ理ニアラント思考ス

菜トハ香物鹽又ハ味噌汁等ヲ指示セシナラシ舊監獄則規定ノ當時ハ金貨ト楮幣トノ實力大ニ差異アリ從ヒテ楮幣ニ代ル物價貴カリキ今日ノ一錢ハ殆ント昔日ノ一錢七八厘ニ相當セリ賴ヒ今日ハ右述シ如ク物價ノ貴キ時ニアラサレハ其菜價ハ本條ノ錢額ニテ十分ナラシ父母ノ喪ニ遇ヒ又官ヨリ休役ヲ命シタルノ日ト雖モ常ニ與ヘタル食量ヲ減スヘキニアラス何トナレハ精力アレハ自ラ常食ノ多量ナルヘキ者ニシテ之ヲ與ヘサルハ一ノ懲罰タルニ過キス然レトモ情故アリテ久シク役ニ服セサル者又ハ病疾ニ罹リタル者ハ此限ニ在ラサルヲ論ヲ俟タサルナリ

粟黍稗薯ノ類ヲ以テ麥ニ代用セシムル理由ハ寒國ニテ麥ヲ生スル少ク其價反リテ米ヨリ貴ク或ハ麥食ヲ以テ中戸以上ノ嗜好ニ出ツル情

舊政府ノ給與
食料

況ノアル地方ノ如キハ米麥混炊ノ食ヲ與フレハ再ヒ入監スルヲ悚テ恐ルハノ感想ヲ減シテ懲戒ノ効ヲ欠クノ慮リアルト經費上ニ關スルヲ以テ斯ク規定セラレタルモノナラント思考ス

舊政府ニ於ケル食物ノ制ハ先ヅ左ノ如シ

揚座敷ノ者一日一人ニ付テ玄米六合雜費料錢ハ二百文宛九其玄米六合ト定メタルモ精白ニシテ五合四勺ニ止マル法トス一度分二合七夕ト定メ此量大凡ソ二百十勺トス量ヲ以テセサレハ膳方ニ不都合アルヲ以テナリ 鼓三十目之ヲ一度分十五勺ヲ汁ニ仕立テ蔬ヲ煮テ羹トナス平皿ニ豆腐若クハ蔬菜ヲ盛り坪ニ羹豆若ハ蔬菜ヲ盛り香ノ物ニ澤庵漬又ハ時ノ品ヲ用ニ薪ハ松材箸ハ杉米舂代ニシテ凡テ一汁三菜ヲ飯ハ櫃ニ盛り膳腕ヲ添ヘ渡ス

揚屋ノ者并ニ平民一日一人ニ付テ玄米五合雜費料錢百文九玄米五合ハ精白ニシテ四合五勺トナリ一度分二合二勺五才飯ニシテ此量大凡ソ百八十五勺鼓三十目其他凡テ汁ノ實香ノ物薪箸等皆揚座敷ニ

全シ米春代

女四一日一人ニ付玄米二合五勺雜費料錢百文六九此玄米精白ニシテ
二合二勺五才一度分一合一勺二才半飯ニシテ此量大凡ソ九十二匁
五分鼓其他共前ノ二者ト全斷

揚座敷ヲ除クノ外飯汁共盛相ニ入レ渡シ遣ハスヘキ事
名主四人各半ニ一名宛
取給申付候者 其外役付名主ヲ補助シ獄中
ニ於テ立働候者 一日一人ニ付玄米六合雜費料

錢百文宛此玄米精白ニシテ五合四勺一度分二合七勺飯ニシテ此量
大凡ソ二百十匁鼓其他共前全斷

女名主一日一人ニ付玄米三合雜費料錢百文宛六九此玄米精白ニシテ
二合七勺一度分一合三勺五才飯ニシテ此量大凡ソ百五匁鼓其他共
前全斷但シ飯汁ハ盛相ニ入レ相渡ス尤モ平日名主并ニ役付ノ者ヘ

ハ膳腕渡シ置候事

病囚未タ淺草品川溜
ニ送ラサル者 是等ノ徒ヨリ麥飯稠粥俗ニチバ
カニト云 大豆粥ヲ望ミ候者ア
ラハ平日ノ雜費料米代ヨリ夫々取計遣候事

以上ハ未決監ニ係ルモノニシテ已決囚ハ概ネ左ノ制度ニ據リタリ

玄米ト麥ヲ等分ニシテ一日一人ニ付六合

雜費料錢一日ニ付錢二十四文ヲ以テ葎及醬油ニ充ツ以下全シ

右役府ノ者ニ給ス每房ニ役夫中ヨリ一人ヲ選ミ保長トス俗ニテ世話人ト云フ又薪
水ノコトニ供ス俗ニテ即時ト云フ皆之レヲ總稱シテ役付トス

玄米ト麥トヲ等分シテ一日ニ付八合

雜費料錢二十四文

右糟油ノ役ニ服スル者ニ給ス

玄米ト麥トヲ等分シテ一日ニ付五合

雜費料錢二十四文

右平人足平人足トハ尋常ノ
役ニ供スル者ヲ云ノ者ニ給ス

玄米ト麥トヲ等分シテ一日ニ付五合

雜費料錢二十四文

右役ヲ休ミ及ヒ當病者ニ給ス

玄米ト麥トヲ等分シテ一日ニ付四合

監獄則

雜費料鑑二十四文

右女囚ニ給ス

一日ニ付粥米二合五勺鼓十四目

右男女重病囚ニ給ス

健囚ハ何レモ一日一人ニ付鼓二十五目醬油一勺八才ト定ム

薪ノ制度

炊所ノ薪三月ヨリ八月迄一日一人ニ付松四本材八分ノ割九月ヨリ

二月迄全斷一本ノ割合ヲ以テ相渡シ申候事

人足ノ在湯薪一日一人ニ付松四本材一分二厘五毛ニ相定メ渡候事

未決監ニ於テハ囚人朝食事ノ后醫員各半ノ病囚ヲ盡ク診察至候事但

シ急病又ハ重症ノ者ハ何時共診察ノ事

煎藥并ニ丸散丹圓膏藥等其病症ニ從ヒ毎日相渡候事但シ煎藥ハ通常

朝晝夕三度用ヒサセ一度ハ二番煎ノ事尤モ其度數ハ重症人ニ於テハ

此限ニアラス

發病ノ者有之節ハ醫師診察ノ上藥用ノ義書付ヲ以テ申立候ヘハ直ニ
囚獄係ヨリ其吟味係役所ヘ申立候事

病者追々差重リ候ヘハ夫々治療差加ヘ其容牒書ヲ添ヘテ時々其吟味

係役所ヘ相届候事但シ其係ヨリ溜淺草品川西所ニ在ル
病囚ヲ手當スル場所ヘ遣シ養生爲致可キ

旨差圖有之候ヘハ其場所ヘ差送リ治療差加ヘ候事

舊政府ニ於テ寄場人足即チ已決囚ニ對シテ常食外ニ加給スルノ定ハ

正月三ケ日干魚大禮祝儀將軍一家ノ禮節ハ魚類新葬及ヒ年會法會ハ

青物ヲ給シタリ

未決囚常食外加給ノ定ハ七月十五日揚リ坐敷以下ノ總囚人ヘ南北兩

町奉行ヨリ魚ト素麵ヲ與フ

古昔王政ノ時ノ制ニハ凡ソ獄囚ニ給衣糧薦席トアリ又凡ソ流人配所

ニ至テ居作セバ官糧ヲ給ス加役ノ流之ニ準ス若シ留住シテ居作シ及

ヒ徒役セハ并ニ私糧ヲ食セシム家貧フシテ全ク備フル能ハサレハ二

等以上ノ親代ニ五十日ノ糧ヲ備ヘシム盡ルニ隨テ公ヨリ給ヒ若シ家

ヲ去ルヲ懸遠ニシテ餉ヲ絶チ及ヒ家人ノ未タ知ラキル者ハ官者ト表
糲ヲ給フ家人ノ至ル日ニ數ニ依リテ徵納セシム凡ソ流移ノ人路ニ在
テハ皆程糲ヲ遞給ス遞給トハ携有スル所ノ處ニシテ國毎ニ糲ヲ給シ
當界ヲ過サシム糲ヲ請フ毎ニ停留スルコト二日ヲ過クルヲ得ス
斯ノ如キノ制ナレトモ其食料ノ少量ハ未タ判明ナラス余カ先輩ヨリ
聞ク所ニ依レハ通常一人五合ノ糲タルコトハ源賴朝以前ヨリノ法ナリ
シト云フ果シテ然ラハ其糲法モ蓋シ古昔ノ制ヲ襲ヒタルモノナラン
ト思考ス

第二十九條 定役ニ服スル男囚ノ髮ハ常ニ之ヲ

短薙シ髭鬚ハ常ニ剃除セシム

定役ニ服スル女囚ノ梳髮ハ膏ヲ用ヒテ裝飾ス

ルコトヲ許サス

本條ノ意ヲ案スルニ定役ニ服スル囚人ハ無定役囚ヨリモ加辱ノ刑ノ
重ニ該ル罪質ノ者ナレハ定役ノ男囚ニ限リ髮ヲ短薙シ髭鬚ヲ剃除ス

囚人ノ鬚髮

ルノ規定ナラント思考ス然シテ定役ニ服スル女囚ノ梳髮ニ膏ヲ用ヒ
シメサルモ亦其意ニ外ナラサルヘシ今之ヲ詳説スレハ定役囚ノ如キ
ハ概ネ皆テ世人ヲ荼毒シタル者ナリ此者ヲシテ髮ヲ粧飾シ以テ風采
ヲ修飾セシメハ彼ノ重キ加辱刑ニ該ルノ事理ニ適セサルカ故ナラン
然レトモ其天質ニ從ヒ男女ノ形容ニ自ラ其別ナカル可ラス是ヲ以テ
婦女ノ髮ハ之ヲ短薙セス管ニ膏ヲ以テ髮ヲ梳リ裝飾ヲ施ス通常婦女
ノ如クスルヲ以テ法律ノ許サ、ル所トス是レ懲戒ノ要旨ナリ

右ニ述ビ定役ニ服スル女囚ヲ除ク外仍ホ無定役ノ女囚アリ之ニ對シ
テハ裝飾スルヲ許スヤ否今其奈何ヲ案スルニ之ヲ禁スト云ヘル著落
ノ文字ヲ見サレハ禁スルノ限ニハ非ルヘシ然レモ監房常置器具ノ中
ニハ決シテ髮ヲ裝飾スヘキ用ニ供スル者ナク唯施行細則第七十二條
ニ木梳一箇ヲ備フルノ著文アルノミ而シテ他ノ條ニ涉リテ見ルモ據
ル所サケ且ツ入監ノ際物品ハ皆領置スルノ規定ナレハ櫛篦ノ類ヲ監
中ニ携入スルコトヲ得ス斯ノ如キ檢束ノアルアレハ其實況ハ新タニ風

舊政府ノ模様

采ヲ裝飾スルヲ能ハサルヤリ
 舊政府ニ於テハ吟味中ノ者ハ毎年七月十三日病者ヲ除クノ外ハ皆髮
 結職ニ命シ梳髮月代等ヲ爲サシムルノ規定ナリシ其方法ハ先ツ當日
 ノ前々日即チ十一日ヲ以テ市中髮結ノ行事共ヘ申達シ當日ノ朝六ツ
 時揃ニ髮結職ヲシテ獄署ニ到着セシムルモノトス其人員ハ囚人四人
 ニ付一人宛トシ梳剃ヲナサシム但シ賃錢ハ時ノ賃銀ニ從ヒ支拂フモ
 ノトス梳剃ノ際ハ每囚人ニ手錠又ハ掛繩シテ鞘外ニ出シ役員立會フ
 ノ定ナリキ

昔日王政ノ時ハ如何ニナセシカ不分明ナリ然レトモ已決刑人ノ如キ
 ハ髮ヲ剃リテ奴ノ狀貌ニナセシコトハモノニ見ヘタリ

第三十條 囚人及懲治人ニハ教誨師ヲシテ悔過

遷善ノ道ヲ講セシム

本條ニ見ユル所ノ二者ニ對シ教化誨誘スル者ヲ說教師ト名稱セスシ
 テ教誨師ノ名ヲ設ケラレシニハ事由アリ說教ノ二字ハ宗教家ノ其教

教誨ノ要訣

義ヲ講釋スルモノニ限ルカ如ク世人ノ耳ニ熟ス故ニ說教師ト言ヘハ
 僧侶ノ外ニ出テサル者ト誤解スル者アランヲ慮リ故ラニ教誨師ノ三
 字ヲ以テシ其誤認ヲ扞カンカ爲ナリト云ヘリ抑教誨師タル者ハ本條
 ノ二者ヲ教化誨誘シ苟モ人タル者直路ヲ踏ミ正道ヲ行ヒ各々分限ニ
 應シテ世上ヲ益裨スルノ行ヲ講セシムル者ナリ是ヲ以テ佛教儒道國
 朝學其他ノ學派ニ論ナク人ノ領會シ易キ所ノ教義ヲ講說スル者等ヲ
 聘用シテ可ナリ然レトモ一局一闔即チ一ツ場處内ニ在ツテ互ニ講教
 ノ主義ヲ異ニスル講說師ヲシテ代々ニ本條ノ二者ニ向テ遷善セシメ
 ノトスルハ或ハ其効少クシテ迷謬多カラシク宜シク省慮シテ之カ聘用
 ニ注意スヘキ者ト思料ス却説ク若シ此教誨ヲ忽畧ニセハ在監者等平
 常相ヒ同居シテ佳キ話ヲ温ラヘ已レカ塵垢ヲ教義ノ鏡ニ照シ見ルノ
 道理ニ感ヒ監房ハ所謂ル朋輩知人ノ衆ク集マル談話會場又ハ物議場
 ノ如キ狀ヲ呈シ未悔悟者ハ復タ迷乱ヲ加ヘ反リテ惡事ヲ長習シ其身
 ハ固ヨリ論ナク延テ親屬故舊ニマテ塵垢汚辱ヲ及ホシ一タヒ釋放ス

時ニ逢フモ亦重テ入監者トナルニ至ラン教誨ハ一ニ緊要主眼ニシテ
監獄ノ効用ヲ見ハスハ此一事ノ不全ニ關スト謂フモ過言ニ非ズ
信ス然レハ則本條ノ二者ヲ拘禁シタル上ハ教誨師ハ一日モ欠クハ
者ニアラス必ス當置シテ此法則ノ主意ヲ全フスヘキハ勿論ナリ
舊政府ニ於テ教誨師ノ設アリシヲ聞カス其獄則書ニ見ユルモノハ只
教典ヲ行フ時芝ノ三縁山増上寺上野ノ東叡山寛永寺徳川將軍家ノ著撰所ナリノ義當
方丈寛永寺ハ執當増上寺ハ方丈ト稱ス法會ノ式場ニ於テ放免人十念ヲ授クルノ法アルノミ

第三十一條 囚人十六歳未満ノ者及懲治人ニハ

毎日四時以内讀書習字算術ヲ教フヘシ

本條ノ設アル所ヲ按スルニ十六歳未満ニシテ已決囚トナルカ如キ者
ハ家庭ノ教育ナキカ又ハ聊カ其之レアルモ人事道義ノ如何ヲ深ク省
慮セス罪ノ恐ルヘキヲ覺知セス一朝浮泛ノ心ヨリ邪路ニ入りタル者
ノ多キカ故ト尙未タ思慮ニ乏シキ幼者又ハ身体不具等ニテ特異ノ處
分ニ出テタル懲治人ヲ陶化スル者ノ爲ニ設ケタル者ナルヘシ此意義

教育ノ必要

舊政府頃ノ教育

ヲ再說スレハ學事ノ徳益ナルコトヲ其未熟未整ノ腦裡ニ刻シテ之ヲ玩
味シ事毎ニ人ノ人タル道ヲ思案セシメ以テ第十七條第二十條ニ見ユ
ル教懲ノ爲ニ命スル所ノ作業ト相牽用シ二者ヲシテ一事目ニノミニ
偏ラシメサル規定ナリト信ス
舊政府ニ於テハ官ヨリ教誨ヲナスノ制規ナク唯人足寄場等ニ於テ人
足中素讀ノ成ル者ヲシテ親族等ヨリ差入タル書籍ヲ以テ仕事ノ暇教
習セシムルハ苦シカラスト爲シタリト云フ
古昔王制ノ時ニハ親戚ヨリ流罪人ニ書籍ヲ送ルヲ許シ又流罪人所有
ノ書モ携ヘテ配所ニ至ルコトヲ許シタルモノナリト昔ノ國朝學者ノ
說ク所ナリ凡流罪人至配所六載以後聽仕(中略)三載以後聽仕トアリテ
其仕ヲ聽スハ悔悟反正ノ全人ヲ待テ始テ行ハル、モノナリ又配所ノ
地ニ在テ書ヲ讀ミ詩歌ヲ作り其詞ノ上ニ悔悟ノ狀著ハレタル者アル
ハ往々人ノ知ル所彼ノ業平々如キハ情慾ニ過テ東園へ配セラレ其佗
島ニ流サレシ者等少カラス其間罪科ノ輕重アリト雖モ皆學事ヲ研磨

セシコトハ物ノ事蹟ニ見ヘタリ然レモ職原及ヒ其他ノ書ニ教誨ヲ掌ルカ如キ職事官アルヲ見サレハ蓋シ其設ナカリシヲラント思考ス

第三十二條 囚人懲治人及刑事被告人現行ノ法律命令書ヲ看ント請フトキハ之ヲ許ス

囚人及懲治人書籍ヲ看ント請フトキハ修身宗教教育及營業ニ必要ナル者ニ限り之ヲ許ス
刑事被告人書籍ヲ看ント請フトキハ總テ之ヲ許ス但領置外ノ書籍ハ當該裁判官ノ承諾ヲ經ヘキモノトス

新聞紙及時事ノ論說ヲ記スルモノハ前二項ノ例ニアラス

本條ニ法律命令トアル其別ハ公布式ノ定リタル后ハ法律ハ其標題ヲ明記シ命令ハ則勅令閣令省令及ヒ法律ノ許ス所ニ從テ發スル府縣令是レナリ修身宗教教育及ヒ營業ニ必要云々トアリ必要ノ二字ハ及ヒ

看讀書類

ヨリ以上ニモ貫通スルモノナラント信ス及ノ字ハト、讀ム兼ト意ヲ同フス彼ヨリ此ニ及フノ意ニテ上ノ物重ク下ノ物輕シ物ニツ並ヘテ云フ辞ナリ其營業ニ必要ナリト言ヘハ如何ナル書籍ヲ許スモ妨ケナキヤ定メテ然リト斷言シ難キ場合アリ今茲ニ卑近ノ譬喩ヲ取ラン彼ノ角力取ニシテ相撲大全ナト云フ書籍ヲ看ント請ヒ能役者ニシテ詠曲ノ書籍ヲ看ント請フトキハ之ヲ斥クルヲ得ス然レモ之ヲ用テ相撲ノ手介ヲナシ詠曲ノ節奏ヲ習練セントスルカ如キハ之ヲ禁セサル可ラス若シ之ヲ許サハ宗教ノ書ヲ看ル所ノ僧侶ハ經文ヲ朗讀シタル上說教ノ口調ヲ試演シ醫師ハ醫書ヲ看タル上尙他人ノ病ヲ診察シテ其道ヲ習練スルニ至ラン若シ斯ルコトノアランニハ在監人ヲ道化禁治スルノ道ニ戻ルヤ甚シ故ニ及ノ字ヲ用テ此取捨ノ点ニ注意スヘキヲ示シタル法意ナラント思考ス

本條ノ三者ニ讀マシムル書籍ハ必ス悉ク監署ニ備置ク者トハ解シ難シ何トナレハ書ヲ看ント請フトキハ只之ヲ許可スルノ規定ニ止レハ

ナリ又修身宗教教育ノ種目ハ其之ヲ看ルヘキ人々ノ生業年齢等ニ應
シ一々簡別スル者ニハ非ス單ニ書籍ノ色別ヲ定メラレシモノナラン
刑事被告人ノ讀ムコトヲ許スノ書籍ハ裁判官ノ檢閲ニ委ネテ典獄ノ之
ニ預ラサル理由ハ領置外ノ書籍ノ中ニハ之ヲ借リテ外人ヨリ密ニ消
息ヲ通シテ裁判ノ關碍ヲ招キ或ハ兇念ヲ起スノ媒トナルヲ以テ當該
裁判官ニ向テ典獄ハ許否ヲ糾スノ規定ナルヘシ

第三十三條 囚人其親族故舊ニ信書ヲ贈ルハ一

箇月ニ一次懲治人ハ一個月ニ二次トシ共ニ一

通ニ過クルコトヲ得ス但官司ノ訊問ニ由テ書

信ヲ要スルトキ又ハ親族故舊ニ回答セント請

ヒ典獄ニ於テ之ヲ必要ト認メタルトキハ此限

ニアラス

刑罰既ニ審決シテ一身ノ自由ヲ缺クモノト雖モ書信ヲ其親族故舊ニ
贈ルコトハ此法規ニ依リテ許可スルノ意義ニ於ル一ハラ本條二者ノ敗

書信

書信ヲ許スノ
要

意ヲ救フ慈憫ニ出デタル者ナラント信ス親族トハ刑法民法ニ據ルハ
固ヨリ論ナント雖モ恩養ヲ受ケタル乳人ノ家其他常ニ正義ヲ以テ交
誼ヲ爲ス家ノ如キハ親族ニ准シテ可ナラシ故舊トハふるさともト訓
ス論語ノ第四微子第十八ニモ見ヘテ故舊無大故則不棄也ト見ユちカ
ずきト訓スル知故ノ字トハ大ニ異レリ又左傳ニ見子産如舊相識トア
リ此舊相識ノ字トハふるさちかずきト訓スレハ故舊ノ字ト意義相近シ
上文ノ大故トハ惡逆ヲ謂フ常ニ交誼ノ深密ナルコト惡逆アルニアラサ
レハ之ヲ棄ツル能ハス要スルニ故舊ノ文字ハ願キ交リノ間柄ニシテ
親屬ニ次ク所ノ緣故アル者ト解シテ可ナラン
抑モ書信ヲ許スノ要ハ在監中ノ健康謹慎改悟等ノ情ヲ親屬ニ報知シ
其神心ヲ寛放セシムルト同時ニ來翰ニ由リテ悲哀ナル情感ヲ起サシ
ムルニ在リ官司ノ訊問親屬故舊ノ咨問ニ答フルハ人事ノ已ム可ラサ
ル者ナレハ制限ニ拘ラサルノ規定ナラント思考ス

第三十四條 囚人及懲治人ノ發スル信書又ハ外

監獄則

人ヨリ送り來ル信書ハ典獄之ヲ檢閱スヘシ若シ書中不正不良ニ涉リ又ハ其改悛ヲ妨クルモノト認ムルトキハ之ヲ發贈付與スルコトヲ許サス

但刑事被告人ニ係ル信書ハ總テ當該裁判官ノ檢閱ヲ經ヘキモノトス

信書ノ檢閱

囚人及懲治人ノ信書ヲ典獄ニ於テ檢閱スル所以ハ恩遇アルカ爲ニ反リテ不良ノ希望ヲ爲サシム可ラス若シ通信ヲ許スニ由リテ又罪ヲ犯スニ至ラシムル如キアレハ寧ロ之ヲ許サスシテ獄則ノ禁スル所ヲ犯スノ不幸ナカラシムルノ優レルニ如カサルノ憾アレハ嚴密ニスルヲ要スルナラン刑事被告人ノ書信ハ証左湮滅其他詐謀等ノ虞アルヲ以テ當該裁判官ニ於テ檢閱スルモノナラン

第三十五條 囚人懲治人及刑事被告人ニ接見セント請フモノアルトキハ典獄ノ立會ヲ以テ之

接見ノ要旨

ヲ許スヘシ但典獄ニ於テ形跡ノ疑フヘキコトアリト認ムルトキハ之ヲ許サルコトヲ得前項ノ場合ニ於テ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ受ケタルモノハ裁判言渡アル迄辨護人ヲ除クノ外其現在地ノ裁判長ノ免許ヲ受クヘク密室監禁者ハ當該裁判官ノ免許ヲ受クヘシ

在監人ニ面會ヲ許スノ所以ハ其親屬故舊ニシテ遷善ノ諭示ヲ加ント欲シ或ハ家計或ハ民事上ノ緊要ナル事件ニシテ之ヲ刑事被告人ニ問ハサレハ奈何シ難キ如キ已ムヲ得サルノ狀事アルニ當リタルハ其辨用ヲ與フル者ナリ

此三者ノ監獄ニ在ルヤ自ラ世上ノ公衆ト其情域ヲ異ニシ常ニ懊鬱トシテ娛マズ人世ノ養氣ヲ敗ルノ狀アル者ナリ故ニ父母兄弟相識ト相見テ氣悶ヲ開キ感喜ノ情勃然ト湧出シ日常ノ鬱氣忽チ和消シ自後ハ人道ヲ誤マラス出監シテ是等ノ者ト相交ルノ悅ヒヲ見シヲ切望セシ

ムルニ在リ

本條中典獄ニ於テ立會云々トアルハ面會ヲ許否スル所ノ主司ノ官名ヲ揭ゲタル者ニシテ必スモ尽ク典獄ノ立會フ可キ者ニ非ス施行細則第八十六條ニ云ヘル代權者ヲシテ之ヲ爲サシムルハ即チ便利法ナラント思考ス

典獄ニ於テ本條ノ三者ニ接見セント請フ者ニ疑アラハ之ヲ許サハルハ固ヨリ論ナシ聊カモ疑ナク接見セシメサル可ラサル有事情ナリト認定シタル上ハ之ヲ許スコト得ルノ規定ナレハ此認定ノ一段ハ宜シク注意スヘキ所ナリ又重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ受ケタル者密室監禁者ニ對スル事項ハ俱ニ刑事訴訟法第三編第三章中ニ見ユレハ今此ニ喋論ヲ要セス

第三十六條 囚人懲治人及刑事被告人疾病ニ罹

ルトキハ病狀ノ輕重ヲ料リ其監房若クハ病室ニ於テ醫療セシム懲治場ニ在ル者ハ情狀ニ由

醫療

リ其親屬ニ交付スルコトヲ得

本條ハ在監ノ三者ニ於ケル一ノ管束法ニシテ本來監獄ノ要用ハ止タ人ヲ痛告セシムルノミニハ非ス當ニカヲ誠諭ニ致シテ其改悔ヲ期スルノ手段トナスヘキナリ故ニ在監人疾病ニ罹レハ宜シク之ヲ他ノ世人ト同シク厚ク醫療ヲ加フヘシ刑死ニ入ラサル者及ヒ轉心シテ親族ニ孝悌セント圖ルモノ、如キハ其ヲシテ空シク疾ニ斃レシムルハ實ニ無情ノ極ナレハナリ懲治人チ官ヨリ其親屬ニ交付シタルハ其交付中ノ日數ヲ監中懲治ノ日數トナスヤ否之ヲ考フルニ官ヨリ交付シタルトキハ在監ノ日數ニ算入スルヲ以テ穩當ナラント思考ス

舊政府ノ醫療

未決者中發病ノ者アルハ醫師診察ノ上藥用方法ヲ記シ囚獄所ニ之ヲ申出レハ添書シテ其係奉行所ニ申立ルノ制ナリ重症ニ至レハ治療法及病症書ヲ添ヘ其係ニ届出ルノ法ナリ而シテ溜ニ送リテ療養セシムルノ指揮ヲ待テ之ヲ指定ノ溜ニ送ルモノトス病者ヨリ白粥又ハ小豆粥ヲ食セント請フキハ之ヲ許與シ居房中ニ差置キ幾回ニ食スルモ隨

意タラシルノ定ナリ 舊政府ノ時ハ未決者ハ食事ニ回ニシテ之ヲ終リタルトモハ其都度飯器ヲ取上ケ 尙又病囚ニ非サル健者ニモ朝夕ノ食後一同へ邪氣拂ノ煎藥ヲ與へ病囚ニハ白湯ヲ與フルノ制ナリ醫師ハ三人ニシテ内本道二人外科一人トシ毎月宿料トシテ本道家二人ニハ金一兩宛外科一人ニハ金二分ヲ與フ其他煎藥膏藥(外科用)ノ代價ハ毎月醫師ヨリ書出シタル諸藥ノ帖數ヲ取調へ其代價ヲ下渡スノ規則ナリ

舊政府ニ於テ病者ヲ取扱フノ法ニ於ル既ニ淺草千束村品川南宿ノ溜ニ預ケタル平民ノ未決囚ノ中ニ重病ニ至リタル者アルハ囚獄役所ヨリ吟味係ノ奉行所ニ醫案ヲ添へテ届出ルノ制ナリ之ヲ受タル其係ヨリ何レノ溜へ送ルヘシト記シタル出牢証文 小傳馬町囚獄役所ノ因縁ヲ除クナリ 來レハ之レニ從テ取計ヒ既ニ溜ニ送リタル後ノ飲食服藥仕着セ等ノ入費ハ囚獄内ニ在ル囚人ニ關スル法ト畧同斷ナリ而シテ其一切ノ事務ハ囚獄役所ニ於テ取扱カハスシテ前日述タル所ノ奉行所ヨリ派出スル牢屋見廻與力之レヲ管理シ非人頭車善七同頭松右衛門等ノ手下小屋頭ニ

於テ番衛ヲ勤ムルノ定ナリ

附市中ニ於テ罪件ナキ無宿ノ者行倒レテ即死セズ病ニ罹リシハ南北両町奉行所ヨリ直ニ之ヲ溜ニ送ルノ制ナリ

己決囚即チ人足中ノ病者ヲ待遇スルノ法ハ寄場付ノ醫師アリテ在牢者ノ輕重病ヲ治療セシメ重症ニ罹ル者アレハ之ヲ養生所ニ入レ若シ食養生ノ爲メ所持金ノ下渡ヲ請フハ取調ノ上之ヲ許スト當時ノ奉行職ニアリシ人ノ手記ニ見ユ

古昔王政ノ時ハ令ニ凡ソ獄囚ニ給醫藥トアリ其他ハ下ニ説ク
 醫家ノコトニ係ル質問ニ答ヘン古昔王政ノ時ニ在テハ醫道ニ和家丹波家ノ兩流派アリテ宮内省典藥寮ノ頭ハ此兩家ノ中ヨリ選擇セリ典藥寮ニハ醫博士アリテ醫書ヲ講シ諸生ヲ教授スルノ官ナリ元正天皇養老六年初テ女醫博士ヲ置ク即チ女中 官女 ノ療治ヲ施スノ職ナリ又鍼博士アリテ鍼生ヲ教ヘ醫師アリテ醫道ニ關スル政令ヲ掌リ天下ノ能醫者之ニ任ス此レ其師タル者ナリ

雜律ニ云ク醫人ノ爲ニ藥ヲ合ハセ及ヒ鍼刺ヲ題疏シ誤テ本方ノ如ク
 ナラス人ヲ殺ス者ハ徒一年注ニ曰ク本方ノ如キナラサルモハニ於テ獄スルコトナクハ單價
 賤ヲ論セス同シク普三十醫方ニ違ヒ偽テ病ヲ療シテ財物ヲ取ル物ハ
 テ論ス斯ノ如キ法律アリテ若シ在監人ノ治療ヲ誤リタルキモ亦此方ヲ
 以テ醫ヲ罰シタルナリ前ニ述ル如ク醫師ハ醫道ノ令ヲ掌トル者ニシ
 テ若シ天下ノ醫此政令ニ反スレハ則チ典藥療ヨリ發セル所ノ法ニ依
 テ處分セラルル而シテ尙太古ノ病者ヲ扱フノ法ハ凡獄囚疾病アレハ主
 守主守トハ獄囚ヲ主當
 スルノ物部ヲ謂レ之ヲ申牒ス判官以下親カラ實ヲ驗知シ醫藥ヲ給シ救
 療ス病重キ者ハ枷杻ヲ脱去セシメ仍ホ家内ノ一人禁ニ入テ看侍スル
 コトヲ聽ルス其死スル者アレハ亦即チ同シク檢ス若シ他故アル者ハ
 法ニ非スシテ窮死シ及ヒ自死法ニ非スシテ窮死シ及ヒ自死
 セシムルモノハ類ヲ謂フ狀ニ隨テ推科ストアルヲ以テ知ルヘシ
 右ノ有様ト今日ノ有様ト相對シ比セハ以テ厚薄過不及ノ奈何ヲ知ル
 ヲ得ヘシ

第三十七條

囚人懲治人及刑事被告人死亡シタ
 ルトキハ典獄看守長醫師ノ立會ヲ以テ之ヲ檢

死亡

視シ監署ニ於テ速ニ其本籍ニ通知スヘシ其遺
 骸ハ親屬若クハ故舊ノ之ヲ請フ者ニ下付ス但
 死亡後二十四時以内ニ在テ其下付ヲ請フ者ナ
 キトキハ監署ニ於テ之ヲ假葬シ其姓名ヲ記シ
 タル木勝ヲ立ツヘシ
 刑死者ハ死相ヲ驗シタル後仍ホ五分時ヲ過サ
 レハ其遺骸ヲ絞架ヨリ解下シ之ヲ埋葬シ若ク
 ハ下付スルコトヲ許サス

本條三者ノ監獄ニ在ルヤ各々其規則ニ從ヒ當ニ身体ノ保護ヲ享クヘ
 キノ人權ヲ有スルカ故ニ平常ニ在ツテハ其食糧ヲ與ヘ疾病ニ寢臥ス
 レハ湯藥ヲ以テ之ヲ療養スルノ恩遇アリ蓋シ是等ノ保護ヲ加フルハ
 人ヲ待スルノ通則ナリ是ヲ以テ在監人病患ノ爲メ或ハ他ノ事故ニ依
 リ死亡スレハ其事由ヲ檢定シ以テ本籍ニ通知スルナリ本條ノ死亡ノ
 二字ハ字眼ニシテ死亡後二十四時以外ト雖モ假葬シタル者ナレハ讀

刑死者

ンテ字ノ如ク之ヲ下付スヘキ固ヨリ論ナキ者ト思料ス刑死者ノ下付
 叙スルニ埋葬ノ文字アルハ現行刑法第十六條ニ死刑ノ遺骸ハ親屬故
 舊請フ者アレハ之ヲ下付ス但シ式ヲ用テ葬ルヲ許サスト規定シ他
 ノ死者ノ遺骸ヲ處置スルトハ聊カ異ル所アリ他ノ死者ノ遺骸ニ關シ
 テハ必ス其本籍へ通知シテ請フ者アラシメ而シテ之ヲ請フ者ニ下付
 スヘキ規定ナレトモ刑死者ノ遺骸ハ之ヲ下付スルヲ得ルノ意義アル
 ノミ前者ト後者ト對比スレハ其意義ニ必定ト不決定ノ別アリ抑々死
 刑ニ處セラレタル者ノ遺骸ハ官ニ於テ之ヲ埋葬セサル可ラス故ニ親
 屬故舊之ヲ請ヒテ埋葬セント欲スル者アレハ乃チ其請願ニ任セテ直
 ニ之ヲ與フヘキナリ是ヲ以テ假葬ト記セスシテ埋葬ト記セシナラン
 ト思考ス刑死者ハ死相ヲ驗シタル后尙五分時ヲ過クレハ其遺骸ヲ埋
 葬シ得トアリテ本條前項二十四時ヲ過キサレハ葬ムルヲ得サル所
 以ノモノハ疾病又ハ變死シタル者ハ蘇生ノ虞アレハ時限ヲ長クシ刑
 死者ハ其虞ナキ者ト必定シ死相ヲ驗シタル后止々五分時ニシテ十分

ナルヲ以テ此規程ヲ設ラレタリト云フ

何ノ故ニ必定蘇生ノ虞ナシト云フ乎絞繩ヲ施ス法ノ如クセハ萬々決
 シテ斯ル虞アルモノニアラス絞架ヨリ刑人ノ墜ルト齊シク其頸ノ血
 路截斷シ頸骨支離ス仍ホ之ヲ詳説スレハ其椎骨破壊シ喉頭軟骨裂ケ
 頸部前側ノ筋肉全斷シ氣管動脈ノ内層切レ靜脈モ亦全斷出血シ立ト
 コロニ絶息シテ命脈全ク沒キル者ナリ然ルモ皮膚ノ上ヨリ之ヲ見ル
 所ハ皮膚上絞繩ノ痕ニ暗紫色ヲ呈スルノミニシテ少シモ破傷ヲナサ
 ス此レハコレ皮膚ノ大彈力アルニ由ル外面ヨリ之ヲ見ル所ハ右ニ述
 ヘシ破壊裂斷ノ箇所ハ目以テ見ル能ハス或ハ蘇生ノ懸念ヲ起サシム
 ルト雖モ決シテ活クヘキ者ニ非ス命脈ツキテ尙動クコトアルハ是レ
 即チ絶息後ノ變縮ナリ

絞罪ニ處セラレタル者蘇生シタル所ハ如何トノ説ハ屢々余ノ耳朵ニ
 達シタル所ナリ余カ今日前ヘニ其然ラサル所以ヲ講セシハ世人ノ惑
 ヲ解ント欲スル爲ナリ抑々今日ノ絞架器械ハ英國ニ於テ用ルモノニ

異ナラス此器械ハ明治六年二月廿五日ノ官達ニ其製造圖式及用法ヲ具シ明治三年十二月擬定ノ絞柱ヲ改正アリシ以來行ハル、者タリ右三年ニ擬定セラレタル絞柱ハ製方未タ完全ナラス死刑者ノ苦腦甚シク人ヲシテ見ルニ忍ヒサラシム加之ス檢屍ノ後其屍ノ下付ヲ受シ親屬ノ家ニ於テ蘇生セシ者全國中ニテ三人アリ當時余ハ身法官ニアリ大ニ之ヲ憂ヘ會テ外國官遊中英國刑具ノ絞臺器械ヲ親ラ寫画シ置ルモノアルヲ采出シテ之ヲ軌範ニナシテ親ラ數個ノ模形ヲ造リ東京日本橋區元大工町六番地鍛冶工吉田辰藏ニ示シ以テ機關及其他ノ鏡具ヲ做造セシメ遂ニ實物六十分ノ一ニ當ル樣本ヲ製シテ内閣ニ提出シ其贊嘆ヲ博シ更ニ絞柱改正ノ議ヲ上リ前述ノ六年二月改正ノ官達アリタル次第ナリ

第三十八條 刑事被告人ニ其親屬故舊ヨリ書類書籍用紙衣服臥具其他必要ノ物品又ハ飲食物ヲ贈ラント請フトキハ之ヲ許ス但書類書籍ハ

當該裁判官ノ檢閲ヲ受クヘシ其密室監禁者ニ係ルトキハ他物ニ於テモ亦同シ

新聞紙及時事ノ論說ヲ記スルモノハ前項ノ例ニアラス

刑事被告人ニ對スル物品贈與

本條ニ於テ贈與ヲ許ス所ノ飲食品ハ常食ニ類スル品物ヲ指シタル者ニシテ珍饈芳味ノ贈與ヲ許スノ意義ニハ非ルヘシ又書籍贈與ヲ許ストアルモ此中ニ就テ宜シク取捨スヘキ者アルヘシ例ヘハ教育宗教ノ書ト雖モ新聞ニ等シキ現在人世如何ノ事ヲ説ク者及官報ノ類ニ在テモ法律命令ノ部分者前者ト同一視スルモノナルカ故ニ看讀セシムヘキ外ニハ非ルヘシ其他必要ノ物品トハ譬ヘハ通貨郵便切手ノ類ナラシ書類書籍ノ事及密室監禁者ニ係ル事ハ本文ノ上ニテ明ナレハ玆ニ言ヲ贅セス

舊政府ノ頃ハ有宿ノ未決者ヨリ衣服蒲團等ヲ自宅又ハ親戚ヲシテ贈入セシメシトテ請フルハ其品物及箇數ヲ囚獄役所ニテ之ヲ書記シテ

舊政府ノ差入

奉行所ニ申送ス奉行所ハ之ヲ取調ヘタル上犯人ノ親戚へ通達スルノ定ナリ之ニ應スルト否トハ通達ヲ受ケタル者ノ任意ナリト定メタリ未決者ノ親戚故舊ヨリ物品ノ贈與ヲ爲サント欲スル者ハ先ツ願書ニ掛奉行所開濟ノ証印ヲ受ケ其物品ヲ囚獄役所ニ持參セシムルノ定メナリ而シテ囚獄役所ノ役人ハ右ニ云フ願書ニ記スル物品ヲ一々檢査シ以テ規則ニ照シ之ヲ受取り監房前ニ運ヒ差入ヲ受ル所ノ未決者ヲ呼テ監房ノ格子ニ視カシメテ其物品ヲ示シ某ヨリ贈來ル旨ヲ申聞ケルノ定ナリ但シ食物ハ常ニ監房ノ中ニ置ク所ノ醬油ノ空樽ニ移シ入ル、ヲ掟トス

差入ノ規則ニ於ル食物ハ消化シ易クシテ養生ニ害ナキモノ物品ハ半紙下帶手拭錢等ナリ錢ハ一ヶ月六百文ト定メ二百文宛三回ニ親戚ヨリ贈ルヲ許ス尤モ錢ハ囚獄役所ニ預リ置キ差入ヲ受ケタル者ヨリ望出テタル品ヲ買調ヘテ與フルノ定ナリ

監中ニ在リテハ筆墨ヲ與ヘス巾約三寸五分長二尺厚三分許ノ桐ノ木きめ棒筆ニ代用スル者柄木三寸其木心ニ鐵

針三分許ノ者ヲ屬ス恰モ難ノ如シヲ各房ニ渡シ置クきめ板ハ一房ニ五枚揚リ屋ハ三枚トシきめ棒ハ孰レモ二本ニ過キス之レハ牢内ノ各名主ナル者預ルナリ同房四人ノ願ノ旨ハきめ棒ヲ以テきめ板ニ印シ之ヲ當番同心へ差出ス同心之ヲ受取り筆墨ヲ以テ其印シタル文字ヲ紙面ニ書シ囚獄頭ノ席ニ差出ス尤モきめ板ハ原トノ名主へ差戻スナリ但シきめ板ヲ屢々用ヒテ文字ヲ印シ難キニ至レハ其板ヲ熱湯ノ中ニ入レテ凹ミヲ彫ラシ板面ヲ平カニ爲シ遣スコト、シ何度ニテモ斯ノ如クス遂ニ破損等ニ至レハ引換ルノ掟ナリ

太古王政ノ時ニ設ラレシ法ニハ凡ソ獄ニハ皆薦席ヲ給ス其筆紙及兵刃杵棒ノ類ハ並ニ入ルヲ得ストアリ今日云フ處ノ蒲團敷物ハ官給ニシテ紙筆以下ノ物品ヲ除クノ外ハ親戚ノ贈與モ許シタル者ト推定本朝法規ニスルコトヲ得昔時ノ孝子傳等ニ獄中ノ父ニ向テ衣服菓子ヲ贈ラントシ之ヲ食シタルヤ否ヤヲ知ル迄地ニ伏シテ泣血シタルガ如キハ亦一ノ考証タリ薦席ハ大寶令ヲ設ケラレシ頃ハ未タ綿ヲフモノナク

畏クモ 陛下ニ在ラセラレテモ令通用ノ如キ綿ヲ以テ製シタルモノ
ハ召シ王ハス是ヨリ遊カ後攝州海岸へ漂着セシ外國船中ニ木綿ノ子
ヲ乗セテアリシヲ采テ我邦ニ播種シ草綿ハ又大ヒニ後ニ弘マリシナ
レハ薦席トハ木ノ皮若クハ藁草等ニテ造リタル筵ノ如キモノ或ハ
之ヲ合セテ其中ニ藁ヲ入レタル者ナリト云ヘリ若シ是ノ時世ノ光景
ヲ識ラス昔時ハ獄囚ニ藁筵ヲ被セタルモノナリト解スル者アラシニ
ハ大過ナリト謂フヘシ

第三十九條 囚人及懲治人ニハ現行ノ法律命令

書並ニ書籍用紙印紙郵便切手貨幣及内務大臣

ニ於テ許可シタルモノヲ除クノ外差入ヲ許サ

ス但書籍ハ第三十二條ニ記載シタル制限ニ從

囚人及懲治人
ニ對スル物品
贈與

内務大臣ニ於テ許可スル者ハ本條ニ記掲シタル差入物ノ外事体上實
用欠ク可ラサル者モ少カラサル可キニ由テ此ニ制限セス本大臣ヲシ

舊政府ノ規定

テ其權宜ヲ以テ時アリ差入物ノ種類如何ヲ品定セシムルノ道ヲ開カ
レシ者ナラン是レ一縱ノ法ナリ

舊政府ノ時ニ在ツテハ左ノ規定ヲ立テタリ

流刑申渡ノ相濟ミタル後發船マテハ牢屋ニ留置キ其發船迄ニ之ヲ
申渡タル各掛ヨリ流罪人ノ有宿無宿ニ抱ハラス手當トシテ左ノ通
差遣シタリ

揚リ座敷ノ者^{目見へ以上}一人ニ付金二兩分時ノ相場ヲ以テ錢ニ替へ遣ス
揚リ屋ノ者^{目見へ以下士分僧侶ノ類}一人ニ付金一兩分時ノ相場ヲ以テ錢ニ替へ遣
ス

平人一人ニ付金二分時ノ相場ヲ以テ錢ニ替へ遣ス平人ニハ金ノ外
時ノ仕着チ一枚宛遣ス

有宿ノ者其親戚へ品物贈リ與レ候様通達方本人ヨリ申出タルキハ
其趣ヲ當番ニテ書取リ掛リ奉行所へ申立遣シ奉行所ヨリハ又夫々
ノ親戚へ之ヲ轉達ス親戚等其達ヲ受ケ差入品致度者ハ流人引渡前

日迄奉行所へ品物持參開届ノ証書ヲ得テ囚獄役所へ之ヲ持參同役所ハ規則ニ照シテ受取り品數ヲ本人ニ示シ贈リ人ノ氏名ヲ申開ケ獄中ニ差入ル、モ差支ナキ品ハ直ニ當人ニ相渡シ又牢内ニ差入レ難キ品ハ伊豆ノ國七島ヲ支配セル葦山代官江川太郎左衛門ノ手付へ流人引渡ノ當朝併セテ引渡ス定ナリ但シ流人ニ限り其身分ニ抱ラス一人ニ付白米二十俵雜穀取交ニテモ不苦儀ハ四斗俵ナリ錢ニテ金二十兩分其外衣類ハ勿論下駄傘ノ類煙管ハ喇芋ヲ除キ之ヲ許ス尤モ法衣刀物火具筆墨ノ類ハ之ヲ禁ス

流人引渡前日ノ早朝一同獄庭へ差出シ梳髮月代取計ヒ四徒人員ニ應シ市中ノ髮結職ナ備上終ツテ囚獄役所ノ白洲ニ呼出シ石出帶刀并ニ鍵役立會ヒ牢屋見廻リ與力各立會ヒ島分申渡八丈島大島三宅島新島神津島御蔵島利島其上船中用意藥丸散并ニ半紙二帖宛之ヲ遣ス引渡當朝流人ヲ獄庭へ差出シ石出帶刀牢屋見廻リ立會鍵役流罪申渡シ掛リ役人ヨリ差越タル出牢証文ヲ以テ銘々ノ肩書名前年入牢ノ月日等篤ト取調へ兩所奉行組與力同心へ引渡

ス但シ右與力同心ハ鉄砲州船改メ役所迄流罪人ヲ護送シ此ニテ葦山代官江川太郎左衛門手付ノ者へ引渡ノ定ナリ

古昔王政ノ時ノ法ニハ凡ソ流人ハ妻妾ヲ棄放シテ配所ニ至ルヲ得スト見ユ必ス之ヲ相隨テ同行ナスヘキノ法ナレハ其發遣セラル、道々ノ國毎ニテ賜フ所ノ糧ハ世俗ノ謂フ道中扶持ナレハ金錢ヲ携有シテ配所ニ至ルヲ許シタル者ト見ルモ過ナカラシ云々ハ本朝古法學者ノ說ナリ

第四十條 囚人獄則ヲ謹守シ作業ニ勉勵シ且改

悛ノ行爲アル者ト典獄ニ於テ確認スルトキハ之ヲ賞譽スヘシ

賞譽セシ者ニハ之ヲ表スル爲メ賞表ヲ與ヘ獄衣ニ縫着セシムヘシ

賞表ハ假出獄免幽閉又ハ特赦ヲ具申スルノ憑據ト爲スコトヲ得

賞表

古昔ノ賞譽

本條ノ賞表ヲ與フルニハ彼ノ勸查規定アルカ故ニ別ニ仔細ニ講説スルノ必要ナシ然レトモ茲ニ懲治人ノ事ヲ附説セシニ懲治人ニ對シテハ教養ニ力ヲ致シ以テ其教ニ化セシメ直諒ノ道ニ馴致セシムルヲ必要トス故ニ賞表ヲ與ヘテ毎期後ノ獎勵ヲ圖リ刑罰人ヲ過スルトハ旨義大ニ異ル者ナレハ本條ニ掲クル所ノ賞譽ニ拘ラスシテ別ニ内務省令ヲ以テ假出獄ノ制ヲ設ケタリ

舊政府ノ時ニ於テハ己決囚即チ寄場人足ノ徒ニシテ能ク規則ヲ守リシ者ハ屢々外人ノ差入物ヲ許シ又ハ多ク工錢ヲ與フル役付ト稱スル者ニ使用シ獄衣ノ可成新キモノヲ着用セシメタリト聞ク是ハ是レ今日ノ賞表ヲ與フル制ニ其意相似タリ

古昔王政ノ時ニ在テハ反逆縁坐流ヲ犯シ及反逆特ニ死ヲ許シテ配流セシ者ヲ除ク外ノ流移人配所ニ在ル六年以後ハ仕官スルヲ聽ルスノ制アリ此仕官ヲ聽ルス者ノ行狀ハ配所ニテ監察セシムルノ内規アリシト云フ今日ノ制ノ如ク陽ニ賞譽シテ獎勵シタルニハアラサルモ刑人

優遇

ノ行狀ヲ監察スルノ條規アリシト云ヘハ今日ノ賞譽ト其意相似タリ

第四十一條 賞表ヲ有スル囚人ハ其監房ヲ區別

シテ尋常囚人ト別異シ賞表ノ多寡ニ應シテ優

遇ヲ爲スヘシ

本條ハ囚人ヲ三類ニ分ツノ主義ヨリ胚胎シ來レリ即チ第一行狀善良ナリト定マル所ノ有賞表者トナシ第二ハ行狀恒等ノ者トス第三ニ至テハ獄制上ノ罰ヲ受ケシ惡行狀ノアリシ者即チ細則ノ第百條ニ依リテ警メラレシ者ナリ是ノ故ニ先ツ本條ニ於テ良行狀ノ者ヲ優遇スルノ法ヲ先ニスル所以ナルヘシ然レハ則チ此優遇ヲ受クル所ノ賞表ヲ與フルニハ慎重ニ取調ヘ濫授ノ弊ナカランヲ要ス又賞表ノ多寡ニ應シテトアレハ宜シク細則第九十六條ノ第四第五第六等ニ從ヒテ有賞表者ヲ差別スヘキ爲ノ多寡ノ二字ナラン本條ノ優遇者ハ舊監獄則第二十九條ニ獄則ヲ謹守シタル者ヲ選拔シテ傳工者誘工者トナスト云ヒタル規程ノ意義相近シ然ルニ當時之ヲ讀ム者或ハ誤テ同則第四十

五條ニ掲ケアリタル殊等ノ者ト誘工者ト同物視スル者アラソモ許リ
難キノ慮アリ寧ロ顯然ト本條ノ如ク有賞表者ハ云々ノ文字ヲ掲ケ加
フルニ賞表ノ多寡ニ應シテ優遇スルヲ規定セラレタルモノト思料ス

第四十二條 囚人獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量

リ左ノ例ニ從テ處罰ス

- 一 屏禁 晝夜他ノ監房又ハ役場ト隔絶シタル監房ニ獨居セシメ服役時間坐作ノ役ヲ課ス

- 二 減食 一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減シ

鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス

- 三 閤室 閤室ニ入レ一日ノ食糧ヲ二合乃至

三合ニ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス仍ホ
臥具ヲ禁ス

屏禁ハ二月以内減食ハ一週日以内閤室ハ五晝

夜以内トス

處罰

本條第一項隔絶ノ文字ハ他ノ屋宇ト相隔絶スルノ意ナリ若シ屏禁ノ
罰ニ處セラレタル者ヲシテ他人ノ出入シ又ハ起臥スル處ニ接聯シタ
ル監房ニ在ラシメハ他ノ人語ヲ聞テ散適シ又ハ之ニ敬聽シテ氣ヲ下
ス能ハサルニ至ラソ此レニ因テ障蔽ノ義理アル文字ニ適スル所ニ設
ケタル監房ノアルニ非レハ屏禁ノ名アル罰則ノ効ヲ全フスルヲ得
サルヘシ

第二項ノ減食ハ其犯ス所ノ輕重ニ應シテ斟酌スヘキモ約ネ限度法ヲ
設ケ前後ノ被罰者相寄テ彼我ノ所犯ヲ比較シテ妄リニ其當否ヲ問言
セシメサル豫紀ナラソト思料ス

第三項閤室罰ニ處スヘキ者ハ減食ノ罰ニ處ス可キ者ヨリモ頗ル事情
重キ處犯ナルヲハ言フ俟タス故ニ減食不與菜禁臥具等ノ痛罰ヲ加ヘ
憚惡冥頑ナル者ヲ罰シ大ニ悔懼セシムルノ科目ナルヘシ
本條ノ罰法ハ一二三ト次第シテ其輕重ヲ分ツト雖モ之ヲ行フニ心ヲ

留ムヘキモノアリ屏禁減食二法ノ如キヲ施サントスルニ當テハ先ツ罰スヘキ犯則者ノ稟賦ヲ考察シテ男女ニ拘ラス靜肅寂寥ヲ好ム者ニハ屏禁ノ罰ニ擬スルノ不可ナルヲ知ルヘク又常ニ健食スル者ニハ減食ノ罰ニ擬スレハ其効驗アルヘント精シク之ヲ考量シテ區處スルニ至ラハ皆宜シキニ適スヘキ者ナラント信セリ

第四十三條 囚人十六歳未滿ノ者及懲治人獄則

ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

- 一 獨愼 晝夜一室ニ獨居セシム
- 二 減食 一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減ス

獨愼ハ七晝夜以內減食ハ三日以內トス

十六歳未滿ノ囚人及懲治人ニ對スル處罰

本條ノ獨愼減食ノ二法ニ就テハ別ニ細ニ講說スルノ料ナシ只茲ニ獨眞ニ關シテ少シク述ヘント欲ス

屏禁室ノ如ク他室ト必ス隔絶ヲ要セスト雖モ他人ノ談話通聲シ又ハ

人語ノ響ヲ得テ意ヲ他事ニ馳ル等ノ支障アル所ハ幾ハク其處罰ノ効ヲ減スル者ナリ是レ當局者ノ注意スヘキコトナラント思料ス

第四十四條 減食若クハ闇室ノ罰ニ處スヘキ者

アルキハ醫師ヲシテ診視セシメ身体ニ妨ナキヲ證シテ後之ヲ行フヘシ其處罰中ハ醫師ヲシテ毎日之ヲ觀察セシメ醫師ニ於テ身体ニ妨アルヲ證スルトキハ處罰ヲ中止スヘシ

處罰ニ係ル醫師ノ證明

本條處罰者ノ身体ニ妨アリト醫師ノ証スルニ依テ之ヲ中止シタルキハ其妨トナリシ事故ノ全息シタル時ヲ待テ再ヒ原擬ノ罰ニ處スヘキナリ此ノ如ク之ヲ施セハ正ニ中止トアルニ文字ニ適合スルナラント思料ス

舊政府ノ處罰

舊政府ノ處罰、未決者、各牢一房毎ニ罪囚ノ中屬望アルカ又ハ同牢者取扱方ノ行届候者一名人選シテ獄中ノ取締半名主ト稱ヲ申付ケ一間中ノ締向及病者其外手當方等ヲ爲致ルノ定ナリ最モ其取締ヨリ相囚ノ

中ニ就キ十一名役付ニ選ビ飲食藥病者取扱其外汚穢物洗濯或ハ夜中不寢番夜中ハ牢内暗黒殊ニ囚人ノ眼ニ徒行ヲ許サス故ニ便所行等ノ者ヲ心付ル爲メ等ヲ始メ其他牢内ノ雜事ヲ取扱ハセ又聊ニテモ惡謀等ノ所業ヲ見聞スルルハ其趣取締ヨリ速ニ牢番同心ヘ申立ルノ掟ナリ

釋義 此宅名主ト稱ヘル者在牢永年ニ至リ獄中取締向病者勞リ方等行届キ死亡ノ者モ少ク相囚一同ヨリモ手當方宜敷旨申立ルルハ夫々取調ノ上本罪寬典ノ義ヲ其掛奉行所ヘ申立遣シ其奉行所ニ於テハ篤ト吟味ノ上減等相成ルヘキ者ハ之ヲ行ヒタリ

一囚人牢内ニ於テ窃ニ相囚ト謀リ破牢企等ノ所業相聞ル乎又ハ他ノ囚人ヨリ密ニ訴出タル節ハ時刻ヲ遷サス直ニ詰合ノ掛リ役員一同牢舍ノ鞞内ヘ出張リ其黨類タル者ヲ先ツ鞞内ヘ引出シ他ノ囚人ノ眼前ニ於テ之ヲ相糺シ其惡業ノ確証アル者ハ勿論假令ヒ申合ヲ致シタルノミニテモ破牢企等ノ惡業相違ナキニ究ラハ其場ニ於テ下男ヲシテ右關係ノ黨殘ヲス嚴重ニ縛サシメ牢番同心之ヲ箠尻箠ノ二種ニ同シキ製ノ者ヲ以テ

嚴シク苦ナ麻太繩ヲ以テ縛シ延ノ上ニウツ伏ニシ或ハ外鎖格ナニ縛リ付テ苦ツ之ヲ鞞敵ト云フ往古ヨリ仕來ナリ終ツテ管ウタレタル者ヲ

一同後口手ニシテ手錠ヲ掛ケ他ノ牢室ヘ銘々引分ケ移シ本罪落着ノ日迄手錠ヲ許サス然レトモ追テ本人愈々悔悟相願ハル、乎又ハ病氣ニ罹リタル節ハ差許ス義モ有之且ツ其事件ノ次第ニ因リ右懲罰ノ上其掛リ奉行所ヘ通知ス但シ懲罰ノ義ハ囚獄役所手限り取計フノ定ナリ

釋義 破牢企ノ義ハ囚獄第一ノ重件ニシテ此ノ如キ懲罰ニ行フ者ナリ是レ共黨ヲ懲ラシ他囚ヲ戒ムルノ意ナリ此嚴則ナキハ重罪無頼ノ徒惡謀少ナカラス依テ此懲罰ヲ以テ常ニ囚徒ヲ恐レシムルナリ一獄中ニ於テ囚徒喧嘩口論及ヒ獄中ノ法則ヲ犯シ或ハ名主役付等ノ指揮ニ從ハサル者ハ是又鞞内ヘ引出シ取糺ノ上夫々懲罰轉牢或ハ手錠ヲ掛ケ轉牢又ハ管チニ取計フナリ

一破牢企ヲ觀察シテ訴出ル者ハ取調ノ上其惡謀判然相違ナキ節ハ囚獄掛ヨリ吟味掛奉行所ニ申立其破牢企ヲ致シタル者ハ夫々罪ヲ加ヘ

訴出ヲタル者ハ奉行所ニ於テ本罪減等候義有之ノ定ナリ

已決者ノ懲罰ニ於ル左ノ如シ

- 一 寄場ヲ逃去ル者
 - 一 盜致ス者
 - 一 徒黨ヲ企ル者
 - 一 博奕ヲ致ス者
 - 一 喧嘩口論致ス者
 - 一 虛病ヲ構フル者
 - 一 職業出精致サ、ル者
 - 一 申付ヲ相背ムク者
- 右ノ始末有之者ハ御場所ニ於テ折檻ヲ加ヘ時宜ニ依リ殿科ニモ被仰付ヘシ
- 一 何事ニ依ラス惡事有之趣申出候者ハ假令ヒ同類タリト雖モ其科ヲ免シ屹度御褒美被下ヘシ

御場所ニ於テノ折檻トアルハ如何ナルモノト按スルニ答ツト役ヲ多ク科シ夜ニ至ル迄就役セシメタルモノ、如ク寄場奉行ノ手記ニ見ユ

第四十五條

無期徒刑ノ囚人重罪ヲ犯シ若クハ

逃走シ又ハ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シタルトキハ一年以上五年以下其他ノ輕罪ヲ犯シタルトキハ一年以上一年以下兩脚又ハ一脚ニ鈇ヲ施シ仍ホ鐵丸ヲ屬シタル鐵索ヲ其鈇ニ貫キ腰間ニ繚帶セシメ繚帶ノ所ニ下鍵ス其監房ニアルモ晝間ハ仍ホ之ヲ施スモノトス

若シ再ヒ重罪ヲ犯シタルトキハ五年以上十年以下前項ノ例ニ照シテ處罰ス

鐵丸ノ量ハ二百目以上一貫目以下トシ被罰者ノ體力ニ應シテ之ヲ施ス丸ハ索尾ニ屬シ地上ヲ轉ハスモノトス若シ外役ニ服スルトキハ鐵

施 飲

丸ヲ除キ二人聯絆ノ法ニ從フ

無期徒刑囚人ノ中ニ在テ重罪ヲ犯ス者ノ如キハ固ヨリ論ナシ輕罪ノ刑ニ該ル逃走又ハ獄舎獄具ヲ毀壞シ若クハ暴行脅迫ヲナシタル如キオモ前者ト同シク一年以上五年以下ノ施体罰ニ處スル法アル所以ハ他ナシ後者ノ所爲ノ如キハ監獄ノ警戒上ニ於テ治要最緊ノ禍害ナリ故ニ重罪刑ノ上又重罪ヲ犯セル者ヲ處スルト同一ニ出テタルナラン又其他ノ輕罪ヲ犯シタル者トアル中ニハ怙終ノ罪ヲ犯シタル者アルモ一概ニ上文ノ犯者ニ比シ難キ情狀アル可ケレハ一年以下ノ科罰ニ止ルコトニ規定セラレシ者ナラン

以上述フル所ノ施体罰ハ司法權ニテ本罪ヲ審理シ其判決確定シタル后ニ於テ之ヲ行フヘキナリ茲ニ尙ホ附說スル事アリ無期徒刑ノ囚人ハ刑法上唯一線間ヲ隔ツト謂ツヘキ差ヒニテ死ヲ出テタル重囚ナレハ獄制ニ嚴罰ノアルヲ恐怖セシメ取意惰慢ニ陥ルヲ防クニ在リ而シテ他ノ有期徒刑ノ囚人ト等シク意用ヲ起サシメ十五年ヲ經過スルノ后

解 飲

再ヒ外間人ト相ヒ接スルノ後樂ヲ企望シテ從順導法ノ域ニ導ク者ナリ故ニ受刑ノ上ニ又重キ罰ヲ加フルモ決シテ一事再理ノ嫌アリト謂フヲ得ス

第四十六條 施飲中ノ者病ニ罹リ醫師ノ診斷ニ

依リ飲ノ解除ヲ必要トスルトキハ一時之ヲ解除スルコトヲ得但解除中經過セシ日數ハ施飲期限ニ算入セス

本條ハ行文上ニテ分明ナレバ今茲ニ細ニ講義ヲ要セスト雖モ本則ニ病ニ罹リシ者ノ施飲解除ノ事ヲ明ニ掲ケラレシハ詳悉ニシテ善ナリ舊則施行ノ間ハ看守長ト醫師ノ掌務ニ委シ之ヲ運用セシムルノ規定ナリ病狀現ニ施飲ニ妨アル片ハ無論之ヲ除キテ治療ヲナス可ケレハ愁ヒ之ヲ掲ケテ病ヲ伴装スルノ弊ヲ生センヨリ寧ロ當務者ヲシテ反覆視明セシムルノ勝レルニ如カストシテ視明ニ委シタル者ニテアリシト聞ケリ

賞表視奪

本條ニ謂ヘル視奪ノ賞表ハ其後ニ至リ恐怖悔悟ノ情顯ヘル、モ一且視奪シタル者ハ其時即滅シテ既ニ迹ヲ止メサレハ後ニ至リ之ヲ返付スルニ由ナキ者ト思ヘリ果シテ獄則謹守ノ事態著明ナレハ其時ヨリ更ニ行狀勘査期限ヲ算スル者ナラン

第四十七條 賞表ヲ有スル者處罰ヲ受ケタルト

キハ其情狀ニ因リ賞表一箇又ハ數箇ヲ褫奪スルコトアルヘシ

第四十八條 獄則ヲ犯シ罰ニ處セラレタル者改

悛ノ狀著シキトキハ處罰中ト雖モ之ヲ免スルコトヲ得

懲罰免除

本條ハ豫メ定メタル所ノ懲罰ヲ寬免スルノ制ナリ夫レ本則ノ罰ニ處セラレタル者悔悟ノ心既ニ寔トニ形態行爲ニ顯ヘル、ヲ待テ伴裝シテ人ヲ欺クニアラサルヲ確認シテ後ニ其罰ヲ寬免スルノ制ナリ是ノ故ニ典獄看守長教誨師等ハ切諒警曉ニカヲ致シ又接見スル所ノ親屬

等ヲシテ相當ニ諭誡セシメ以テ再被罰ナカラシムコトヲ省慮セシムルノ一鍼トナサンコトヲ要ス

第四十九條 免幽閉ヲ受ケタル流刑ノ者監署ノ

命令ニ違背シタルトキハ七日以内之ヲ拘置スルコトヲ得

免幽閉

本條ノ流刑ノ者ハ有期無期共ニ刑法第廿一條ニ見ヘタル年處ヲ經過スレハ行政處分ヲ以テ幽閉ヲ免スルコトヲ得ルノ制アレハ其免幽閉者ニシテ猥ニ指定外ノ地ニ至リ又ハ住居ヲ移ス如キコトアラハ之ヲ引致シテ再ヒ拘置シ前日ノ如ク幽閉シテ其不良不法ヲ悔迫セシメサル可ラス由テ本條ノ設アル所以ナリ而シテ有期流刑ノ者ニ對シテハ拘置日數ヲ刑期中ニ算入スヘキ者ナラント思惟ス

舊政府ノ免幽

舊政府遠島刑島ヲ逃ケ候者其島ニ於テ死罪遠島ノ者島ニテ死罪以上ノ惡事ヲ致候者ハ其島ニ於テ死罪但シ同類又ハ其島ニ於テネダリ事致シ或ハアバレ候者ハ島替刑名ハ島替トアレ其實ハ島役所ニ於テ絞首スルナリ其說話及ヒ茲ニ述タル遠島刑ノ外ハ第十三條ノ下ニ見ユ彼是參照スヘシ

監獄則

古昔王政時代ノ流刑ハ命令律ニ稱加者就重次トアリ其加等法ハ法曹至要鈔ニ見ヘ三流モ亦重次ニ就トアリ三流ハ近流中流遠流ヲ謂フ

第五十條 囚人懲治人及刑事被告人司獄官吏ノ

處置ニ對シ情苦ヲ訴ヘントスルトキハ第四條

ニ記載シタル官吏巡閱ノ際封書又ハ口述ヲ以

テ申告スルコトヲ得

申告

本條ニ掲クル情苦ノ訴ヲ聽クヘキ者ハ即チ唯内務大臣ノ命シタル巡閱官ト監獄政務ノ行步上ニ於テ密附負荷ノ責任アル管理者トノ二種ノ官人ニ限レル者トス又第四條ニ巡視スヘントアル巡視者ニ在リテハ本條ニ掲クル情苦ノ訴ヲ聽クモ直ニ之レヲ當案トシテ裁決スルノ行政官ニ非レハ于預セサルナク然レトモ其情苦ノ訴件若シ刑法其他ノ規則ニ關スル者アリテ事ノ是否ヲ檢覈セサル可ラサルハ其訴ヲ採納スヘキハ固ヨリ論ナキヲナレハ情苦ヲ聽クヲ得ストハ言ヒ難シ此レニ由リテ巡視官ハ此限ニ在ラスト掲クルカ如キ明別ハ爲シ難キ

舊政府ノ申告

モノナラン是レ本條屬文ノ妙所ナリト思料ス

舊政府ニ於テハ巡閱官云々其他ノ條ニテ講演シタル町奉行ノ目代タル牢屋見回リト稱スル任職アル町奉行組與力同心通計八人ハ常ニ獄舎ノ巡閱ヲ司リ規定ノ事ニ背クヤ否ヤ取調ヘ囚人ニ對シテ囚獄所員ノ過ナキヤ又ハ其杜撰ヲ戒ムル者ニテアリタリ其規定ノ大畧左ノ如シ

一科人又ハ御仕置者伺書付差出候節ハ科人名書ノ上何月幾日ヨリ揚座敷
入牢ト有之儀書付可被差出候事

一総シテ年中御仕置ニナリ候者ノ人數高書付并ニ牢者ノ者翌年へ越候義何故ニ年ヲ越候譯一ケ年切ニ可書上事

公事訴訟并ニ諸願事詮議事十ヶ月以上濟マサル分可書出旨ノ儀ニ付御定

一公事訴訟并ニ諸願事

一詮議事

監獄則

右十ヶ月以上未々相済マサル分何國何郡誰何々ノ事何年何月ヨリ
承候段例年春中前年ノ御仕置者人數書付差出ノ節別紙書付差添へ
可被差出候前年春十ヶ月以上未々相済マサル公事訴訟諸願事詮議
事書出候分其年中ニ落着候ハ、去春申上候何々ノ義何月幾日何機
ニ裁許申付候等ノ儀モ之ヲ書付ケ可被差出候但シ借金出入公事ノ
義ハ書出サレニ不及候

公事訴訟并ニ諸願事詮議六ヶ月済サル分可書出旨ノ儀ニ付御定

一 公事訴訟并ニ諸願事

一 詮議事

右六ヶ月相済マサル者有之候ハ、何故相済マヌ有之譯誰ノ掛ニテ
未々相済不申候段其度々ニ書付可被差出候尤モ其以后右相済候ハ
其段被相達候

但シ借金出入公事ノ儀ハ書付不及被差出候

公事訴訟并ニ諸願事詮議事手間取ヲ不申様ニ仕旨ノ儀ニ付御定

公事訴訟并ニ諸願事詮議事甚々手間取リ日數相懸候モ有之下々困
窮ニ及ヒ在牢者ハ死病等モ多ク相成如何ハ成儀ニ候裁許落着等
早々相済候様取計申儀ハ勿論ノ事ニ候無據譯有之ハ格別可成丈ハ
吟味手間取不申候段不相懸様ニ可被致候
右ノ通可被得其意候且又遠國奉行并ニ火付盜賊改所へ右之趣可
被相達候
在牢ノ者七ヶ月目ニ町奉行ヨリ書付可差出旨ノ儀ニ付御定
毎月在牢ノ者人數高書付被差出候節六ヶ月以上吟味不相済在牢致
居候者有之候ハ、誰掛ニテ何ト申者在牢致居候段別紙ニ書付七ヶ
月目ニ可被差出候
太古ノ時ニ在牢ハ監獄則第三條第四條ニ於テ陳述セシ如ク物部氏監
獄ヲ巡閱シ後ニハ檢非違使又ハ禰正ノ巡閱シタルモノナルハ職原
ニ見ユ

第五十二條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ内務

監獄則

大臣之ヲ定ム

細則

勅令ニテ發令セラレタル監獄則チ施行セラル、方法細則ハ時態時運ニ從テ取捨スルノ利アルニ依ル諸般ノ法令ノ改ルト共ニ内務省令ヲ以テ規定セシムルヲニナリタルナラシム

第五十二條 此規則ハ陸海軍ニ屬スル監獄ニ適

用セサルモノトス

適用區域

此規則ト明記シテアレハ夫ノ公布ノ制ヲ以テ類別セラレタル法律ニ非ルモ信書ヲ檢閱スルノ職權ヲ典獄ニ與ヘテ之ヲ可否セシムルハ他ナシ抑在監人タル身ニ在ツテハ假令ヒ刑事被告人ノ如キ者ト雖モ外間人ト接見シテ漫ニ言語スルヲ得ス必スヤ制裁ヲ加ルノ規定アルト一般ナラ若シ之ニ制裁ナカクセハ或ハ外間人ト相謀リテ法網ヲ免カレ或ハ反テ被害者カ猜嫌ヲ受ケテ誣告罪ニ陥ラルルハノ煩擾ヲ來サシモ未タ知ル可ラス故ニ社會安寧ノ爲メ信書ヲ檢閱スル者ナレハ大日本帝國憲法中ニ見ユル所ノ法律ニ於テ定ヌタル場合云々ノ文句ヲ引

テ其檢閱ヲ拒ムコトヲ得サラシムル者ト思料ス

監獄則

在監人

監獄則施行細則

第一章 規程

第一條 此細則ニ於テ在監人ト稱スルハ囚人懲治人及刑事被告人ヲ云フ

本條ハ讀テ字ノ如シ別ニ細說スルニ要ナク

第二條 新ニ入監スル者其トモ先ツ之モ番

號ヲ付シ一小房内ニ於テ通身ヲ檢査シ了リテ

名籍ニ其要項ヲ詳録シ仍舊房内揭示ノ事項ヲ

說示スヘシ

番號ハ換數法ニ於ケル警ヘハ集治監中ニ今朝ノ囚員現ニ四百人ヲ拘

禁シアリタルニ

至リ二人ノ新入監アレハ概テ之ヲ四百ノ上ニ

加數シテ四百一號四百二號ニ抵テ若シ之ニ反シテ二人出監シテ二人

新ニ入監スル者トセハ止テ四百號ノ其入出者ニ對スル番號ニ用法

ハ新陳ノ番號ヲ抵換スルニ止メ罪件ノ重罪輕罪ヲ分別スルノ要テカ

監獄則施行細則

入監手續

ル可ク又盡數ノ囚員上ニ彌リテ之ヲ變更スルノ煩擾ヲ避クルニアラ
 ノ抑在監人ニ番號ヲ抵用スルハ或ハ共犯相ヒ覺知スルヲ防キ或ハ其
 他ノ新入者ヲシテ秘匿ノ事ヲ先留者ニ傳語スルカ如キヲ防キ或ハ出
 監者カ在監中常ニ居ヲ別異スル者ノ氏名ヲ記認シテ惡計ノ具トナス
 ヲ防ク等ノ必要アルカ爲メナラシメ又一人毎ニ名籍領置簿等執ヒモ同
 數號ヲ用井出監若クハ賞罰ニ關スル如キトニ際會シタル爲ニ名ヲ呼
 ブノ必要アルトキ外ハ番號ヲ常用シテ便利ニ依ルヘキモノト思料
 ス

第三條 各監房内ニハ在監人ノ遵守スヘキ事項

- 一 揭示シ傍訓ヲ施シ解シ易カラシムヘシ其事
 項左ノ如シ
- 一 在監人ハ互ニ和順ヲ主トシ常ニ教令ヲ謹守
 スヘシ
- 一 教誨聽聞ノ席ニ就クトキハ慎テ容止ヲ正フ

刑事被告人ヲ拘禁スル
 監房ニハ此項ヲ除ク

- 一 每朝常用ノ諸器具ヲ清潔ニシ之ヲ排列シテ
 點檢ヲ受ケ及席壁厠圍等ヲ掃除スヘシ
- 一 窓壁若クハ物件ヲ汚損シ不淨器ノ外ヘハ唾
 ハキ及貯水ヲ濫用スヘカラス
- 一 房外ニ出タル時ハ他人ト手ヲ交ヘ又ハ濫リ
 ニ交談スヘカラス
- 一 夜間ハ最モ鎮靜ヲ主トシ說話發聲又ハ濫リ
 ニ起步スヘカラス但晝間ト雖ヨ放歌喧噪又
 ハ高聲ニ誦讀シ及隣房ヘ通聲交談スヘカラ
 ス
- 一 許可ヲ得サル物品ヲ監房ニ置キ或ハ勝負ヲ
 爭ヒ若クハ賭博類似ノ遊戲ヲナシ或ハ他人
 ニ汚辱ヲ被ラシメ猥褻ニ涉ルカ如キ所爲ア

ルヘカラス
一 服役中其作業ニ關セザル他事ヲ談話シ及服
役セザル時間外トモ外部ノ役場ニ至ルベ
カラス

一 許可ヲ得ズシテ物件ヲ授受貸借スベカラス

一 監房ニ於テ異常ノ事アレハ晝夜ニ拘ラス直

ニ看守所ニ通聲スヘシ

一 病者アルトキハ同房ノ者共ニ介保シ看病人

タル者ハ切實ニ之ヲ看護スヘシ

揭示事項

第一 在監人ノ和順トハ互ニ相和合順從シテ荷重忿争セサルヲ以テ主
トナシ教令ノ三字ハ多義ヲ包有ス此教令トハ本條ノ十一項及官吏備
人ノ常ニ指教スル所ノ事項ヲ指ス者ヲ思フ
第二 教誨ヲ聞ク所容姿ヲ正フセシムルハ即動止ニ則チケレハ温々下
シテ刻意會心スル所ヲササルガ故ナリ

第三 常用ノ諸器具ハ即第六十四條第六十五條第六十六條等ニ見ユル
者ヲ指ス之ヲ洗滌清潔ニシテ官吏ノ点檢即チ數調ヘテ受ケシメ又器
具ヲ毀壞シテ破監ノ具トナスヲ圖謀キサルヤ否ヲ檢究スルヲ要スル
者ナリ

第四 藏書シテ物件ヲ穢シ又ハ破損シ又ハ不淨器ノ外ニ唾キ豫メ料定
シタル水ヲ濫用セシメサルナリ

第五 項ニ房外ニ於テ交手交談スルコトヲ箴シメタルハ外間人ヨリ秘
送スルモノヲ傳致シ又ハ在監人互ニ物品ヲ贈受交付シテ惡事ヲ企圖
スル爲メ耳語等ヲ防ク爲メナリ

第六 起歩發聲其他本條ニ掲ケル事項ハ在監人ノ爲メヘキ所爲ニ非ル
ハ固ヨリ論ナシ此起歩發聲ヲ借リテ破監ノ爲メ障壁ヲ刷去スルノ響
音ヲ奪フ等ノ虞アルニ因リ悉ク之ヲ禁スルモノナリ

第七 許可ヲ得サル物品トハ即監獄則及ヒ施行細則ニ記載セサル者ヲ
謂ヒ勝負ヲ争フトハ猜拳ヲ打チ及ヒ指腕ノ力ヲ競争スルヲ謂フ賭博

ハ固ヨリ公禁アリ敢テ犯サスト雖モ食物等ヲ賭シ甚タ之ニ類似スルノ遊戯ヲ爲シ或ハ淫慾ノ心ヨリ他人ヲ排シテ之ヲ辱シムル等ノ惡弊ヲ生セシメサル爲メナリ其意義ハ彼ノ在監人中ニハ前ニ本項ニ掲禁スル所ノ如キ條件ヲ犯シ非爲ヲ行ヒ罪ヲ得ルト不論罪ニ由リテ入監シタル者モ亦之アラン故ニ此項ヲ設ケテ其怙終ノ罪ヲ豫防セント欲スルナルヘシ

第八本項ノ禁果シテ能ク行ハレサレハ則チ大ニ監獄則第十一條第十二條ノ監房ヲ別異シ本則第二條ノ番号ヲ付シ及ヒ本條第五項ニ謂フ所ノ効用ヲ滅却スルノミナラス或ハ逃走ヲ企圖スルノ虞アルカ故ナリ
第九此禁ノアル理由ハ性ノ横悍ナル者ハ弱少ヲ凌キ衣食等ヲ強奪シ及ヒ其取遣リ貸借ノ成否ニ由リテ愛憎ノ念ヲ甚フシ在監ノ身ニ在リツ、放肆ヲ行フカ如キノ惡弊ヲ生セシ故ニ本項ヲ設ケテ之ヲ防遏セシカ爲ナリ

第十監房中ノ異常トハ在監人ノ破獄ヲ圖リ或ハ常置ノ器具ヲ毀壞シ或ハ自縊ヲ企テ或ハ火ヲ生スヘキノ器具アルヲ發見シ及ヒ其他制禁ノ條件ヲ犯ス者アル等ヲ謂フ

第十一居房ヲ同フスル者ハ互ニ和順ヲ以テ主トナシ病者アレハ宜シク特ニ俱ニ介保ニ精カスヘキハ固ヨリ論ナシ看病人タル者ハ尙特別懇切ニ之ニ注意セシメ其情恒ノ厚薄ニ由リ以テ改悛ヲ觀ルノ一斑トナスヘキナリ

以上ニ述ル如ク本條ニ十一項ノ揭示ヲ定メテアルト雖モ尙在監人ノ監獄則及ヒ施行細則ヲ見ント請フキハ之ヲ許スヘキモノナルヘシ斯ノ十一項ハ在監人常ニ服膺シテ須臾モ忘ルヘカラサルコトノ大綱ヲ舉ケテ垂誨スル所以ナラン

抑本條ハ獄ヤヲ監ミルノ政治即チ監獄政治中ニ於テ最モ注意スヘキ導化方ノ要理要訣ナリ其意義ハ彼徒ヲ漸摩スルニ禮敬德義ヲ以テレ薄行貪戻ノ心ヲ消シ宿弊ヲ鑿革スルニ在リ若シ當局者ニシテ本條ノ

監獄則施行細則

舊政府ニ於ケル規定

- 一 揭示ヲ訛マリ輕シテ一葉ノ短帖ノ如ク看做スニ至ル者アラシニハ是レ正ニ職事ヲ修メザル尸素ノ徒タルヲ免レサルヘシ
- 一 舊政府ニ於ケル規定ハ左ノ如シ(平常未決囚ヘ申聞置ノ箇條)
- 一 牢内ニ於テ惡謀等ノ所行ヲ見聞スルキハ其趣名主ヨリ速ニ牢番方ヘ可申立事
- 一 牢内ニ於テ喧嘩口論致シ又ハ御規則ヲ犯シ又ハ名主役付等ノ指圖ニ從ハサル者有之候ヘハ速ニ牢番方ヘ可申出事
- 一 夜中ハ五時ヨリ發聲談話及自儘ニ立歩行キ不相成事
- 一 牢屋捻リ紐又ハ細物下帶ノ類其他何品ニテモ格子ニ捲付ケ括リ付ケ候義嚴禁ノ事但寢具ヲ載候棚捲ノ者ヲ拵候爲メ紙捻細物等ヲ通シ貫キニ結下ケ候儀ハ不苦候事
- 一 破牢企ヲ訴出ル者有之御取調ノ上其惡事相違ナキニ於テハ訴ヘ候者ノ本罪ヲ減セラレ候事
- 一 近火ノ節ハ構内ヘ火移リ候キ合圖ニ解キ放テ遣シ候間銘々途中申

妙ニ致シ本所回向院ヘ立退三日間ノ内ニ其係リ役所又ハ兩溜ノ中
 へ自ラ可訴出事

一 前上解キ放サレ候者申渡ヲ守リ三日ノ間ニ自ラ訴出候者ハ取調ノ
 上本罪減等ノ義申立可遣事

右ハ平常申聞ケ置箇條ナリト雖モ揚リ座敷御目見以上ニ入ル者又ハ犯罪ニ依リ其掛ヨリ通知シテ非常ノ節解放ヲ許サハルノ豫定アル者ハ囚獄所同心之ヲ警固シ便宜ノ場所ヘ立退カシム尤危急ニ迫リ如何トモシ難ク警固ノ手筈行届カサル節ハ臨機ノ取計ヲナスノ内規ナリシト云

(參考) 牢屋紙捻ノ譯

是ハ幕政ノ昔囚徒ノ中道路ニ於テ古釘古鉄等ヲ拾取リテ獄ニ入り代々窃カニ格子ヲ切り其切り途ケ難キ切レ目ノ所ニ膏藥ヲ填メ紙捻リ古布片等ニテ其上ヲ捲キ掩ヒ役人ニ見咎メラレサル様ナシ置ケルヲ檢出シタルコトアリ其後格子ニハ紙捻リタモ捲クコトヲ嚴禁セシト云

第四條 領置ノ貨物ハ其名數ヲ簿冊ニ記載シ典獄之ニ證印スヘシ

領置ノ貨物ハ本人釋放又ハ假出獄免幽閉假出場ノ時之ヲ下付スヘシ

領置貨物

貨物トハ財貨物件ノコトニシテ即チ金錢衣服其他物品ノ總稱ナリ名數ハ其物件ノ名号ト數個トヲ謂フ凡ソ領置物ハ之ヲ簿冊ニ登錄シ典獄一々款印シテ鼠害等ヲ受ケサル所ニ納貯シ此所有人ノ免訴又ハ刑人ノ滿期及懲治人ノ受ケタル宣告期ニ出監シ又ハ假出獄免幽閉假ニ懲治場ヲ出ルルニ下付スルナリ若シ領置物品ノ納貯方ノ不束ニ由リテ之ヲ鼠害等ニ罹ラシメタルハ監署ハ賠償ノ責ヲ受クヘキモノト思料ス

第五條 領置物品中保存ニ堪ヘ難キモノハ本人ヘ告知ノ上之ヲ賣却シテ其代金ヲ領置スルコトヲ得

領置貨物賣却

領置物品中保存ニ堪ヘ難キ物ハ本人ヘ告知ノ上トノミアレハ告知旨告達告知ノ意ニ非ルヤ明ナリ然レハ即チ本人端の領諾ナキニ於テハ假令ヒ便益ノコトアルモ其所有物ヲ敢テ裁度スルヲ得サルナリ然リ而シテ人身ニ關碍アルモノニ係リテハ官司ニ於テ他ノ法令ヲ引テ宜シク説服ノ勞ヲ探ルヘキモノタルハ言ヲ待タサルナリ

第六條 入監中外人ヨリ差入タル貨物ニシテ領置スルモノモ亦第四條第五條ノ例ニ依ル

差入貨物ノ領置

本條ハ前ノ第四條第五條ト相待テ通用スルモノナレハ今茲ニ細ニ講スルノ子細ナキカ如シ然レトモ差入品ノ貨物中ニ釋放ノ片歸家ノ資ニ充ル爲ノ貨幣又ハ郵便切手刑事被告人ノ衣服ノ如キハ第四條第五條ノ例ニ據ルハ固ヨリ論ナシ此外監獄第三十八條ニ見ユル必要品ノ三字ニ從ヒ親屬故舊ヨリ贈リ來リシ物品ニシテ久シク領置スルノ効益ナキノミナラス蚤虱及其他ノ蟲類ヲ發生シ又ハ臭氣ヲ醸スノ厭ヒアルモノハ前條ニ就テ講シタル如ク處分セサル可ラサル者ト思料ス

監獄則施行細則

監房ニ入ル、
ノ物品

第七條 總テ監房ニ入ル、物品ハ典獄之ヲ点檢

シ其危險ノ虞アルモノハ一切之ヲ禁スヘシ

本條ノ意義ハ苟クモ脱越自刃及危害ヲ生スルノ具トナスヘキ者ヲ嚴禁ス其物品トハ大約本法ニ於テ許ス所ノ給與品差入品及養病具等ヲ指ス若シ之ヲ輕忽ニセハ監獄則第八條及細則第九條ノ効用ヲ滅却スルヲ以テナリ是ノ故ニ本條ハ官司法ニ據テ監房ニ入ル、ノ物品ハ典獄ニ於テ点檢シ危險ヲ防クノ告明ナリ

舊政府ノ例

舊政府ノ例

一 毎月一日八月ハ囚獄掛役員總出ニテ石出帶刀牢屋見廻同夕下役立會各牢一房毎ニ囚人ヲ鞫内ニ廷ヲ敷キ其上ニ居ラシメ右役員及下男等牢内ヘ立入り惡謀ノ具トナルヘキモノ及ヒ腐朽破損ノ有無并ニ寢具其外ノ物品一切相改候事但シ囚人着用ノ衣類ハ裸体ニ致シテ改ム万一半内又ハ囚人ニ於テ嚴禁ノ品持居リ改出候節ハ之ヲ取上月番町奉行所ヘ差出候事

一 惡謀等ノ所行ヲ見問スル并ハ右牢内改メ并ハ勿論其後ニテモ其趣名主ヨリ速ニ牢番同心ヘ可申立候事

此牢名主ノ者永年ニ至リ牢内取締向及病者ノ勞ハリ方等行届キ死亡ノ者モ少ク相囚一同ヨリモ手當方宜敷旨申立ル并ハ本罪寛典ノ有モ有之候故ヲ以テ牢内輕重罪科ノモノヲ雜居爲致破牢惡謀ノ憂ヲ避クル爲ニ有之若シ重科ノ徒惡謀ヲ企ツルト雖モ輕科ノモノ之ヲ窃ニ名主ニ告ケ万一名主惡謀ノ党中ニ在レバ之ヲ牢番ニ告ケ又他ノ惡謀ヲ知ルト雖モ其身党中ニ入ラサルヲ以テ關係ナシトテ訴出テス其後他人ヨリ發覺スル并ハ假令ヒ關係ナキ者ト雖モ其牢内ニ在ル者ハ一同右事件調濟迄ハ本罪落着延引シ其レカ爲ノ輕科ノ者在獄日數多ニ及フ故十二八九ハ輕科ノ者ヨリ窃ニ訴出ルナリト徳川幕府ノ獄事書ニ見ユ

第八條 入監後出房セシメタル者ニ對シテハ還

房ノ際通身ノ檢査ヲ爲スヘシ

監獄則施行細則

檢身

入監后出房セシメタル者トハ即チ總テノ在監人ヲ房外ニ出シタル所
ノコトナレハ假令ヒ教誨堂浴場等ニ至ルモ危害ヲ生スルノ具ヲ獲來
ルノ虞ナシトセス凡ソ事ノ過チハ常貫ノ中ヨリ來ルト云フコトアリ
是ノ故ニ本條ハ正ニ監獄則第八條等ノ意義ヲ扶掖スル處ノ切要ナル
教令ナリ

第九條 通身ノ檢査ハ一人宛之ヲ爲シ他人ヲシ

テ見セシムヘカラス但役場教誨堂運動場及浴
室等ヨリ一時多人數ヲ還房セシムル場合ハ此
限ニ在ラス

檢身法

通身ノ檢査ニ當リ他人ノ見ルヲ禁シタルハ男女ニ拘ラス通身遺ス所
ナク搜檢シテ小針鉄屑又ハ細片ノ陶器碎石等ヲ夾帶スルヲ得サラシ
ムル者ナレハ裸体ハ勿論陰所迄ニ之ヲ及ホスモノナレハ受檢人ノ恥
心ヲ存有セシムル爲メ檢査役人ヲ除クノ外他人ニ見セシメサルナリ
茲ニ身体ヲ檢査スト謂ハスシテ通身ノ字ヲ用セシハ大ニ故アリ今前

述セシ如ク受檢人ニアツテ破監ノ具トナス銳利ノモノ陰部ニ藏伏ス
ルモ未タ知ル可ラザルヲ以テナリ本條但書ノ意義ハ何レモ官署員ノ
寡少ニ對シ反リテ受檢人ノ衆多ナル時當眞ノ法ヲ行ハント欲セハ大
ニ時晷ヲ費シ之カ爲ニ還房ヲ遲レシメ其取締上ニ一失アヲソモ計リ
難ケレハ宜シク當眞ノ方ニ鑑リテ此己ムヲ得サルニ出タルモノナル
ヲチ會心スヘシ

第十條 男子ノ檢身ハ看守長臨監シ看守之ヲ行

ヒ女子ニ係ルトキハ看守長臨監シ女監取締之
ヲ行フヘシ

檢身臨監

男子ノ檢身ヲ行フハ當眞ノ方ニ於テハ看守タルヲ女子ノ檢身ヲ行フ
ハ女監取締ヲ以テスルヲ本條ニ明ナリ然レトモ時アリ押丁ヲシテ
看守ノ助手ヲナサシムルヲ得ルノ法ハ内務大臣達スル所ノ別則ニ
見ユ

第十一條 典獄看守長ハ日夜不時ニ監獄ノ内外

ヲ巡視スヘシ但看守長ノ巡視ハ一晝夜三回以上タルヘシ

典獄看守長ノ巡視

典獄看守長ヲシテ白日夜間ヲ論セス不時ニ監獄ノ園内ト園外内字ノ用法ハ監獄則第九條第十九條此施行細則第三條第七條等ヲ參照シテ分別アヘナ知ルヘシ此細則第六十六條ノ如キハ聊カ内字ノ用法驗明ナラサルニ儘ナキ能ハストヲ巡視セシムルノ法アル意義ハ在監人ノ形狀ヲ透見スルハ固ヨリ論ナシ看守ノ職事ニ細心ナルヤ否ヲ識察シ又外間ヨリ禍スル者ナキヤ否ヤヲ檢察スルニ在リ典獄ノ看守長ニ對スルハ猶看守長ノ看守ニ於ケルカ如シ抑監獄ハ最モ夜警ヲ慎ムヘキモノナリ然ルニ看守長ノ巡視ハ晝夜三回以上タルヘシトノ行文ヲ讀ンテ自便ノ解釋ヲナン若シ之ヲ晝間ニ數々シテ夜間ノ戒嚴ヲ疎ニスルカ如キモノアラシニハ吾ヲ欺キ人ニ誣ユルノ狡智ナリト謂ハサル可ラス

第十二條 典獄ハ看守及女監取締ノ警守受持場

警守受持場

ヲ定メ晝夜絶ヘス之ヲ巡警セシムヘシ
受持場ノ定メ方ハ許多ナルヘシト雖モ先ツ以テ監獄ノ廣狹堅固不堅

固及ヒ在監人ノ悍柔等ニ因リテ參酌シ之レカ警守ノ適否ヲ講スヘキモノナラン其受持警守者ハ次ノ第十三條ニ謂ヘル在監人ノ行狀ヲ録シ及其他ノ刑狀ヲ審視スルノ責任アルモノナレハ可成的部外ノ新面ヲシテ輪流セシメサルノ交番法ヲ設クヘキナリ

第十三條 典獄ハ看守長及看守女監取締ヲシテ

常ニ在監人ノ行狀ヲ録サシムヘシ但押送途中ニ在テハ押送官吏之ヲ録シテ典獄ニ差出スヘシ

行狀視察

在監人ノ行狀ヲ録スルハ番ニ第三條ノ揭示ヲ遵守スルヤ否ヲ注視スルノミナラス其動作應對及ヒ教誨聽聞ノ感觸何如シヨリ今ヲ語リ故ヲ道フノ情況ニ至ルモ亦意ヲ留メ且ツ其氏名ヲ熟知シ性質ヲ察知スルヲ要ス夫レ監獄ハ在監人ヲシテ過失ヲ改遷セシムルヲ以テ主義トナス其處罰ヲ以テ之ヲ懲スハ改悛ヲ促スノ具ノミ故ニ教誨師ヲシテ其眞術ヲ陶冶セシメ或ハ修身宗教教育及營業等ニ益アル書籍ヲ讀ム

監獄則施行細則

ヲ許シ或ハ改悛ノ効ヲ顯ハサシメント欲シテ其力ニ食ムノ作業ヲ命
シ皆以テ善心ヲ感發セシメノヲ要スレハナリ之ヲ獎勵シ之ヲ感發セ
シムルニハ其實罰ヲ行フニ至公至理ヲ以テシ之ヲシテ真心恐懼セシ
メサル可ラネ然レトモ賞罰ヲ行フハ其考據トナスヘキモノナカル可
ラス是ヲ以テ本條ハ常ニ在監人ニ接待スル三級ノ人ヲシテ其行狀ヲ
録セシメ以テ後日賞罰ヲ行フノ一原據トナス故ニ若シ行狀録ノ書法
ニ粗密ノ異アレハ是レ賞罰允當ナラス或ハ濫誤ヲ來シ途ニ在監人ヲ
感動スルノ具トナリ其適從スル道ヲ知ラサルニ至ラン錄者宜シク慎
密用意スヘキナリ

第十四條 看守長ハ毎日二回以上各監房ニ就キ

在監人ノ員數ヲ點檢シ毎日一回以上監房ヲ檢

査スヘシ

作業ノ爲メ居房ヨリ出ル人員ノ點檢ハ其出房前ト還房ノ後ニ之ヲナ
シ監房ノ檢査ハ其出還ノ間ニ之ヲ爲スヘキモノトス未決監ノ人員點

人員點檢監房
檢査

檢ハ未タ法庭ノ喚問ニ行ク者ノアラサル前ト喚問已ミテ還房シタル
後ニ之ヲ爲シ其監房ノ檢査ハ白晝間便利ノ時ニ之ヲナスヘキモノト
思料ス

第十五條 囚人及懲治人ノ放免期日ハ入監後典

獄直ニ之ヲ調査シテ名籍簿ニ記入シ仍ホ本人

ニ告知スヘシ

放免期日

告知ノフチ典獄親ヲナシ得サルキアラハ代權者ヲシテ之ヲナサシム
ルヲ得ヘシ其告知ヲ入監ノ時ニスルハ易ク放免日ニ當リテ万中一
モ過誤ナカラシムヲ要スルノ查辨ハ慎重ニセサル可ラス放免ノ期來
リシモノハ既ニ外間人ナリ若シ之ヲ監獄ニ留メテ時ヲ移シ或ハ一步
ノ差ニシテ親屬等ノ死時ニ會スル能ハス或ハ船舶ノ開帆ニ後ル、等
ノ遺憾及ヒ浪費ナキヲ保セス故ニ此查調ヲ慎重ヘキモノトス

第十六條 囚人及懲治人ニシテ釋放スヘキ者ア

ルトキハ典獄名籍簿ニ照シテ其氏名ヲ問糺シ

放免ノ注意

釋放スル旨ヲ言渡スヘシ刑事被告人ニシテ放免保釋及責付スヘキ者アルトキモ亦同シ

典獄ニ於テ四人及懲治人ノ氏名ヲ問糺スル所ハ可成の本則第十二條ニ云ヘル警守ヲ受持タル看守又ハ女監取締ヲ立會ハシムヘシ然シテ其釋放ヲナスモノトナサハ失誤ノ虞ナキノ事ナラス糺問ノ体様備ハリ精細ノ處分ナリト思料ス

練習生諸子ニ對スル咨問ノ件

諸君ノ當練習所ニ在ツテ本分ノ業ヲ講修セラレハ、ハ僅ニ二旬餘

日ノ期間ニ感リタリ之ニ由テ去ル七日諸君ニ咨問シテ本則逐條

講義ノ常貫ヲ變シテ抽閱方ニ更メ以テ余ガ古今ノ制規ヲ講スル

ニ談助ノ多キ條件ナリト自信スル所ノモノヲ取り今日ヨリ之ヲ

説話セント欲ス

第二十條 在監人押送ノ際送致スル貨物ハ典獄

ニ於テ目錄ヲ作り其貨物並ニ目錄ハ押送官吏

ヲシテ保管セシムヘシ但金錢ハ破綻ノ憂ナキ

様嚴緘シ之ニ封印ヲ捺スヘシ

移監ノ場合ニ於ケル注意

本條ニ押送ノ際トアル意義ヲ説ク押字ハわづかるト訓解ス此わづか

るト謂フ義ハ押獄列仙傳押解人明律ニ等ノ熟字ニ用ヒタル押ト同義ナリ

其押獄ハひとやわづかり其押解人ハめしうどわづかりニシテ即めし

うどわづさいりようシテ此處ヨリ彼處ニ送ル役ナリ斯カル義理ナルカ

故ニ押送トハめしうどわづ本條及第十三條ノ但書ニ見ユル押送官吏ニ

預ケ以テ發遣處ニ向テ送り出スノ謂ナリ尙茲ニ爲念説クアアリ看守

未信篇看監典放紀聞ニ見ユ如キハ押ノ字ヲ冠リタル押送官吏ノ中ニ包有スヘキ

モノニ非ス何如ントナレハ看守ハばんじん看監ハひとやまもりト訓

解スルモノニシテ旅程ニ上ラス定マリシ所ニ在テ警守ノ務ヲナスヲ

本分トス時アリ押送官吏ノ職事ニ服スルコトアルハ便利上ニ出ルモノ

ナルヘシ

前ニ述ル押送ハ他管轄ノ監獄ニ移スノ謂ニシテ全ク囚籍ヲ他管轄ニ

送ル場合ナリ其際貨物并ニ目錄ハ押發起程署ノ典獄ヨリ押送官吏ニ之ヲ交付シテ保管セシムルコトハ讀シテ字ノ如シ金錢ニ嚴緘シ之ニ封印ヲ捺スヘシトアリ必ス押發署典獄ノ一封印ニ限ルモノニモ非ル可ク時宜ニ依リ護送者ノ交代所毎ニ其送者ト次ノ領者ト共ニ立會ヒ之ヲ目錄ニ照シテ檢査シ送者領者双方捺印シ受托ノ責ヲ全フシ異變ナカラシコトヲ要スルモ妨ナシト思料ス

第二十二條 特赦免幽閉假出獄ノ申渡ハ其裁可又ハ許可ノ監署ニ達シタル時ヨリ二十四時以內ニ之ヲ爲スヘシ

假出獄ノ申渡ヲ受ケタル者ニハ典獄其證票ヲ與ヘテ最近ノ警察署ヘ護送スヘシ

特赦免幽閉假出獄ノ執行

特赦免幽閉假出獄ノ執行ハ刻頃モ遲緩スヘカラサルモノナリトス若シ此二十四時以內ノ時限ナキハ或ハ釋放ニ付テノ諸取裁ノ快手ナラス或ハ官吏ノ事故アルカ爲ニ時限ヲ愆チ或ハ日ノ晚間ニ至ルヲ以

テ翌朝迄展放スルカ如キ懈怠アランモ未タ知ル可ラス是ノ故ニ此條規アル所以ナリ假出獄者ハ特別監視ニ付スヘキモノナレハ出獄ノ裁可前ヨリ豫メ其住居ニナスヘキ處ヲ定ムルノ處置アルヲ要ス既ニ是ノ處置アルニ於テハ裁可ノ命令ヲ得ルニ從ヒ速ニ本人ヲ警察署ニ送リ其署ニ於テ旅券ヲ下付スルノ事機ニ便ナラシムルノミナラス本人ヲシテ快ヤク住居地ニ向ヒ去ラシムル等ノ良規完成スヘシ前ニ述ヘタル如ク假出獄者ヲ遇スルノ方善ハ善ナリト雖モ尙其不備ヲ感スルモノアリ折角監内ニ在テ改過反正ノ効著レテ假出獄ノ德恩ヲ蒙リテ故郷ニ還リ歡情言計ナキ中ニ前日ノ貯金ハ既ニ旅程ニテ支消シ去リ手ニ一錢タモ留メサルヨリ何時シカ又良心ヲ外物ニ魔セラル、モノ往々之レアリ是ニ由テ之ヲ觀レハ各地方ニ先ツ再犯豫防ニ必要ナル刑餘人保護會社ノ如キモノ、成備センコトヲ希望ニ堪ヘス

第二十四條 免幽閉ノ申渡ヲ受ケタル者ハ監獄近傍ノ地ニ限り居住セシメ典獄之ヲ監督スヘ

シ但土地家屋ナキ者ニハ之ヲ貸與スヘシ
己ムヲ得サル事故アリテ一時限外ニ出シ
テ請フトキハ典獄其事由ヲ取糺シテ許可スル
コトアルヘシ

免幽閉者ノ監督

本條ニ見ユル典獄ニ於テ免幽閉者ヲ監督スルハ恰モ假出獄者ニ特別
監視ノ警メアルカ如シ故ニ刑法第二十一條ニ原キ其居住地ヲ限界シ
典獄ヲシテ百事ヲ監督セシムレハ其牽掣ノ強キトハ特別監視ノ比ニ
アラス又免幽閉者若シ集治監所在地ノ人ナレハ則チ必ラス住居スヘ
キノ家宅アリト雖モ當初他ノ各地方ヨリ湊合シ來リシモノハ皆其地
ニ住居スヘキノ家ヲキヲ以テ本條ノ但書ニ土地家屋貸與ノ制ヲ掲ケ
刑人ヲシテ開墾ノ業ニ從事セシメ他日一大殖産ヲ地隅ニ起サント欲
スルニ由ルナリ

第二十五條 免幽閉中重罪輕罪ヲ犯シタル者ア
ルトキハ其裁判確定ノ上免幽閉ヲ爲シタル所

免幽閉者ノ犯罪

ノ監獄ニ於テ直ニ其刑ヲ執行スヘシ
本行ノ文尾ニ直ニ其刑ヲ執行スヘシト見ユ然レハ即チ流刑ノ免幽閉
者カ輕禁錮若クハ禁獄等ニ該ル刑ヲ犯シタル時ニ當リ刑法第九十五
條ニ共ニ定役ニ服セサル刑ニ該ルハ先ツ其重キモノヲ執行スト見
ユル所ニ予盾スルモノ、如シ其レ否ラス夫ノ刑法ニ屬スル刑法附則
ニ於テ無期流刑ノ者免幽閉ノ後ニ犯シタル刑罰モ之ヲ弛メス其執行
ヲ果シ了スルノ制アリ之ヲ讀テ會心スヘシ

第二十八條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者アルトキ
ハ他ノ者ト別異シ一房ニ一名ヲ拘禁シテ特ニ

戒護ヲ嚴ニスヘシ

死刑囚ノ別異

死刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ本條ニ規定スル如ク必ズ一房ニ一名ヲ拘
禁シテ嚴ニ戒護スルハ固ヨリ論ナシ若シ此死囚異常ノ警備ヲ助ケシ
メントノ意想ヨリ出テ、刑事被告人ヲ同室セシムルカ如キハ甚タ不
可ナリト謂フヘシ刑事被告人ヲシテ不意突然ニ狂癪ヲ起スモ惻リ難

舊政府死刑ノ名數及其執行法

キ死囚ノ傍ニ在ラシムルハ虎狼搏噬ノ慘境ニ陥レタルカ如キノミナ
ラス窮困ナルホハ則斯ニ涵ルノ譏ヲ受ケン當局者當ニ念慮スヘシ
舊政府死刑ノ名數及其行ヒ方ニ付テハ昨冬予カ詰所又ハ此席間ニ於
テ質問セフレシ人々アリシカト當時ハ他日ヲ期シテ之ヲ講セカリシ
今適ニ其事ニ會ヒ縁連スル所ノ條件タル本條ニ當ルヲ以テ舊政府死
刑ノ方法ヲ講セントス是レ固ニ同學ノ士ニシテ稽考スヘキコトナリ
ト信ス當時ノ官府語ニアリシ平死罪即打首ノ方法ヨリ講シ出カシ

下手人御仕置ノ事

一死罪御仕置ト同様別義無之但シ死骸ハ取捨候得共様シ者ニハ不申
付候ニ付小塚原回向院寮へ遣ハシ埋メサセ候事

引回御仕置ノ事

一牢内ヲ出テ候迄ハ死罪ノ者前書手續同様改メ番所前ニテ三寸回リ

程ノ藁太繩ヲ腰繩ニ致シ苧細引ヲ増繩ニ掛ケ夫ヨリ牢屋見回へ案
内致シ前個條同様檢使申渡相濟ミ寺社方御勘定方加役方囚人ニ候得ハ檢使ヨリ出
役ノ引回シ檢使町方與力之ヲ受取り前個條同様非人人足取圍ミ裏
門ヨリ非人共囚人ヲ抱キ馬ニ乗セ候事
一馬ニ乗セ方ハ鞍ノ上ニ菰一枚打掛ケ囚人乘リ候得ハ右三筋ノ繩ヲ
乘リ候菰へ引通シ馬添ノ非人左右ヨリ兩人ニテ右繩ヲ取り動カサ
ル様ニ致シ別ニ馬ニ縛付ケ候義ハ無之重病ノ者ハ曲杉丸、太サ五
寸横木四
尺五寸尺五寸ト稱へ候木ニ結付ケ鞍モ結付候

一引回檢使ハ町方與力相方二人馬上ニテ附添下役同心ハ囚人ノ人數
ニ依リ不同但シ檢使與力ハ御仕置前日月番又ハ係町奉行申渡ス
一引回歸ノ節ハ牢屋敷ヨリ出テ候見ボシノ者知ラセ一同死罪場へ罷
越囚人裏門前ニテ馬ヨリ下シ引入檢使與力同心一同引續這入檢使
場へ罷越夫レヨリ前個條ノ通
一町奉行所一方ヨリ朱鎗一本捕道具一本宛谷ノ者受取り道々警護致

シ御用濟ミ谷ノ者持參元へ納ル

引回行列

- 一先拂非人五人
- 一ノボリ持手代リ共非人三人
- 一捨札持手代リ共非人三人
- 一鎗二本手代リ共谷ノ者四人
- 一捕道具二本手代リ共谷ノ者四人
- 一四人ニ付添非人四人
- 一宰領谷ノ者二人
- 一宰領小屋頭非人二人
- 一引回御仕置ノ者有之候節道筋吉原町ノ内當リ有之候共道筋書付ニハ吉原町ノ義相除キ日本堤通ト認メ可申候前々ヨリ吉原町へハ引回御仕置ノ者引入候義モ無之候得ハ旁道筋書付吉原町ト有之候義後々ニ至リ紛敷候以來共右場所ノ義ハ除キ可申候

安永三年十一月定

紙ノボリ 西ノ内三十六枚宛但堅九枚横四枚其乳共合セテ四十枚捨札 キシナ機長サ六尺巾一尺三寸厚サ六分札申長サ九尺二寸

獄門御仕置ノ事

一死罪御仕置ノ通首打落候得ハ非人直ニ首引揚ケ手桶ノ水ニテ洗ヒ兼テ手當致置候俵ニ入レル獄門檢使町方年寄同心相方二人出テ居リ右首打取リ先へノボリ捨札之ヲ立テ其後首入候俵ヲ非人兩人ニテ差擔へ檢使同心差添淺草小塚原品川鈴ヶ森御仕置場へ罷越獄門ニ懸ル但シ引回無之候得ハノボリハ無之

(參考) 罪人ヲ引回ス道筋ハ死罪獄門火罪磔罪ニ行フ者ハ惡事ヲ

爲シタル處ニ引回シ行クノ定ナリ但シ物取リニテ火ヲ放シ若

ハ日本橋兩國橋四ツ谷御門外赤坂御門外昌平橋外等ヲ引回ス

定メナリ

- 一 獄門首曝日數三日二夜 上番人六人 下番人六人 但シ三日目係町奉行所ヨリ彈左衛門伺ノ上取捨
- 一 右曝中近邊
- 御成其外障ノ義有之候へハ町奉行ヨリ申付取捨
- 一 捨札ハ三十日立取捨
- 右同斷ノ節ハ取除置殘日數之ヲ立ル

火罪御仕置ノ事

- 一 五個所捨札ハ日本橋筋違橋赤坂御門兩國四ツ谷御門御仕置場都合六枚
- 一 五個所ニ無之分ハ御仕置場計一人
- 一 右牢屋敷ヨリ差出候節迄ハ前個條引回シ御仕置ノ手續ニテ別儀無之

監獄則施行細則

- 一 囚人場所へ引來候得ハ下働非人二人ユテ馬ヨリ下シ繩ノ儘ユテ罪木ニ有之輪竹ノ中へ入レ両高腕ヲ釣竹ニ結付細腰ヲ柱ニ結付高股ヲ同シク結付ケ足趾ヲ一足ニ寄セ同シク結付ケ何レモ太繩二重ニ掛ケ腕ト結付ケ土ニテ塗込メ其上ヲ小繩ニテ尙又卷キ所へ塗仕舞ヒ下地ニ掛ケ有之首繩ヲ切り其後ヲ太繩ニテ二重ニ致シ随分ユルク柱ニ結付ケ結ヒ目土ニテ塗ル
- 一 茅焚仕掛方ノ義ハ竈ト稱へ候テ竹ニテ輪ヲ拵へ下へ竹ヲ打込ミ一回リ大キク凡ソ繩ヲ張リ薪三把宛結ヒ右繩ノ内へ立列へ其外薪ヲ囚人ニ踐マセ小男ハ尙更薪ヲ高ク仕掛ケ踐マセ夫レヨリ茅一把宛結ヒ候儘二重又ハ三重ニモ積上ケ尙又中程ヨリ上へ茅ヲ散シ掛ケ檢使町方與力仕度宜キ旨彈左衛門手代申付ケ下役へ差圖致シ同心罷越シ囚人ノ名前相調候上出入口ヲ薪茅ヲ防ク
- 一 茅二三把一手ニ持チ火ヲ付ケ參リ風上ヨリ積候茅ノ中程へ火ヲ移シ庭ニテアラル時宜ニ依リ所々ヨリモ火ヲ移ス囚人相果候様子ヲ

見計ヒ燃残り等引拂ヒ茅四五把宛一手ニ持チ火ヲ付ケ左右ヨリ参
リ一方ヨリハ鼻一方ヨリハ陰囊ヲ燒キ但シ女ハ乳ヲ燒ク皆止メナ
リ

- 一當日御仕置立場警護穢多頭彈左衛門手代二人
- 一全斷棒付矢ノ者六人
- 一非人頭善七代二人罷出非人共差配致候
- 一囚人取扱候下働非人六人
- 一搜シ中番人等ハ獄門御仕置同様
- 一五ヶ所引回シ火罪ノ御仕置ニ決シ候者牢死致シ科書捨札計リ五ヶ
所へ相立候節ハ出役町方年寄同心若同心総方ヨリ二人宛牢屋敷へ
罷越牢屋見回ヨリ捨札受取付添へ場所へ罷越爲立候事
- 一矢ノ者二人
- 一非人人足八人

ハッツケ御仕置ノ事

- 一牢屋敷差立候迄ハ前個條引回シ御仕置ノ通別儀無之
- 一御仕置外囚人引來候へハ下働非人馬ヨリ下シ罪木へ仰向ニ載セ足
首ヲ横ニ結付ケ二人宛左右へ回リ高腕ヲ横腕へ結付ケ囚人ノ着類
ヲ左右脇ノ下ヨリ腰ノ程迄切破リ胸板ノ處へ左右ヨリ卷付ケ三所
程繩ニテイボ結ニ致シ胴繩社繩掛ケ手傳人足十人寄リテ罪木ヲ起
シ根ヲ穴ノ中三尺程埋込ミ土ニテ固メ彈左衛門手代檢使與力へ伺
ヒ下役同心囚人名前承リ彈左衛門手代へ突掛ケ候様指圖致シ下働
非人鎗ヲ持チ左右へ分レ候内一人見セ鎗ヲ突出シ囚人ノ面ヨリ二尺程隔テ
アリヤアリヤト聲ヲ
掛残り一人鎗ヲ構へ居リ見セ鎗ヲ引キ直ニ脇腹ヨリ肩先へ鎗ノホ
先一尺餘突出シ一ツ捻リ鎗ヲ抜き其後ハ左右ヨリ代々突ク鎗數ハ
二十本ヨリ三十本位迄突キ檢使へ伺ノ上咽喉項左右ヨリ止メ鎗ヲ
刺ス

一當日囚人取仕末併ニ突候者下働非人六人其外人數ハ前個條火罪御

町方與力相方二人引續罷越持參ノ出牢証文石出帶刀ニ相渡ス檢使付御徒士目付二人評定所ヨリ參リ

一暫ク間有之檢使御目付是又評定所ヨリ罷越ス一同出迎直ニ檢使場へ着座

一切腹人差出候儀出役與力御徒士目付會釋ニ及ヒ御徒士目付ヨリ御目付へ相伺ヒ御目付ヨリ出役與力へ差圖有之牢屋見回へ申立駕籠ノ儘入口際へ入レ鑑役出牢証文ヲ以テ引合セ相改メ駕籠ヨリ出ス

一添介錯町方同心相方二人左右ニ付添當人ノ袂ヲ抑へ右ハ係リ左ハ非番疊ノ上へ連レ參リ疊イツパイニ後ノ方へ足ヲ開カセ檢使ノ方ニ向据置シ

本介錯町方同心係ノ方バカリ一人當人へ對シ名ノリ一禮ヲナシ當人ノ後口通リ左ノ方へ參リ後向ニツクハヒ刀ヲ拔キ控へ居ル添介錯病人ニテ

手傳ヒ當人へ片ギヌヲ刎キ肌ヲヌガセ兩脇少シ下リ後ノ方ニ控下リ合圖ノ咳ヲ致シ候ト牢屋同心一人三寶ニ九寸五分ヲ載セ木刀ノ九寸五分ヲ紙ニテ包ミ小燃ニテニケ所結フ持出シ三尺餘リ開ケ當人十分ニ手ヲ延シ候様ニ隔テ置ク前ニ於テ退ク添介錯見計

ヒ三寶頂カルヘク様申達シ當人手ヲ掛ケ候處ヲ介錯致シ添介錯係ノ方首ヲ舉ケ右ノ手ニ髮ヲ取リ左ノ手ヲ下ヘ添へ右ノ膝ヲツキ檢使ノ前へ首ノ横面ヲ向ケル檢使何ノ守見届候旨御徒士目付申立首ヲ死體ニ添置キ即時ニ下男薄縁ニ枚持出シ死體ヲ掛ケ四人ヲ疊ノ儘南ノ方塀際へ寄セル終ツテ檢使御目付退散評定所へ罷越御徒士目付町方與力ヲ全様評定所へ罷越御用濟ノ旨ヲ筋々へ相達ス

一檢使ノ節御目付麻上下着換町方與力ニ同様着換

一本介錯添介錯三寶持共刀帶ヒ袴計リ着股立取リ候

入牢証文

天保四年辰ノ三月廿四日入

壹人

何之 某年 齡

何ノ 何守 組

此者備何ノ何守へ手負ハセ候ニ付揚座敷ニ入ル、

仕置者ノ通

録引回ノ事

一 曝初日出役與力相方二人牢屋敷へ罷越シ四人差出方ハ外死刑御仕置ノ如ク牢内へ呼込ミ無之平常四人呼出之通鞘内ニテ青繩本繩ニ致シ片鉈ヲ打テ差出シ改番所ニテ改メ出役與力曝ノ儀申渡シ出役年寄同心相方二人若同心四人牢屋同心二人差添へ番所へ差出シ歸牢致シ候へハ夜中手鎖懸ケ置ク但シ曝四人在牢中ハ夜中鞘内ニ高張提灯差立シ置ク

一 二日目出役同心人數全斷朝五ツ時牢屋敷へ罷越四人召連レ場所へ罷越夕七ツ時歸牢

一 三日目出役全斷明六ツ時半時曝場へ出テ四ツ時引返シ鞘内へ入レ新繩懸ケ替へ改メ番所へ差出シ名前肩書年付入日等鑑役相改メ檢使與力曝ノ上ハツツケノ儀申渡シ夫ヨリ前個場ヲ引回シ并ニハリツ

ケ御仕置ノ通別儀無之

- 一 一通リノ曝へ四人青繩本繩ニ懸ケ持籠ニ乗セ候テ牢屋敷ヨリ曝シ場へ召連レ右本繩ノ儘小手ヲ許シ柱へ縛リ付テ菰ノ上ニ差置ク
- 一 小屋掛繩張ト谷ノ者非人人數等ハ穴曝シ陸曝シ同様別儀無之
- 一 曝シ場内外番人穢多頭彈左衛門手代二人
- 一 谷ノ者十二人内牢預二人
- 一 非人頭善七手代二人
- 一 非人人足四十五人横目六人
- 一 四人ヲ仕末致候者二人

切腹ノ事切腹ハ士道ヲ立ツル刑ナルカ故ニ平民ニハナシ

切腹ノ手續ハ當日揚坐敷ヨリ呼出シ評定所御坐敷ニ於テ大目付町奉行御目付立會切腹ノ儀申渡シ籠ニ乗セ出役町方同心相方四人牢屋同心二人付添牢屋敷へ召連レ表門ヨリ入大牢庭へ駕籠ノ儘差置キ出役

町方與力相方二人引續罷越持參ノ出牢証文石出帶刀ニ相渡ス檢使付御徒士目付二人評定所ヨリ參リ
一暫ク間有之檢使御目付是又評定所ヨリ罷越ス一同出迎直ニ檢使場へ着座

一切腹人差出候儀出役與力御徒士目付會釋ニ及ヒ御徒士目付ヨリ御目付へ相伺ヒ御目付ヨリ出役與力へ差圖有之牢屋見回へ申立駕籠ノ儘入口際へ入レ鑑役出牢証文ヲ以テ引合セ相改メ駕籠ヨリ出ス
一添介錯町方同心相方二人左右ニ付添當人ノ袂ヲ抑へ右ハ係リ疊ノ上左ハ非番
へ連レ參リ疊イツパイニ後ノ方へ足ヲ開カセ檢使ノ方ニ向据置ク
本介錯町方同心係ノ方バカリ一人當人へ對シ名ノリ一禮ヲナシ當人ノ後口通リ左ノ方へ參リ後向ニツクハヒ刀ヲ拔キ控へ居ル添介錯病人ニテ手傳ヒ當人へ片ギヌヲ刎キ肌ヲヌガセ兩脇少シ下リ後ノ方ニ控下リ合圖ノ暖ヲ致シ候ト牢屋同心一人三實ニ九寸五分ヲ載セ木刀ノ九寸五分ヲ紙ニテ包ミ小燃ニテニケ所結フ持出シ三尺餘リ開ケ當人十分ニ手ヲ延シ候様ニ隔テ置ク前ニ於テ退ク添介錯見計

ヒ三實頂カルヘク様申達シ當人手ヲ掛ケ候處ヲ介錯致シ添介錯係ノ方首ヲ擧ケ右ノ手ニ髪ヲ取リ左ノ手ヲ下へ添へ右ノ膝ヲツキ檢使ノ前へ着ノ横面ヲ向ケル檢使何ノ守見届候旨御徒士目付申立首ヲ死體ニ添置キ即時ニ下男薄縁ニ枚持出シ死體ヲ掛ケ四人ヲ疊ノ儘南ノ方塲際へ寄セル終ツテ檢使御目付退散評定所へ罷越御徒士目付町方與力モ全様評定所へ罷越御用濟ノ旨ヲ筋々へ相達ス
一檢使ノ節御目付麻上下着換町方與力モ同様着換
一本介錯添介錯三實持共刀帶ヒ袴計リ着股立取リ候

入牢証文

天保四年辰ノ三月廿四日入

壹人

何之某年 齡

何ノ何守 組

此者儀何ノ何守へ手負ハセ候ニ付揚坐敷ニ入ル、

町方與力相方二人引續罷越持參ノ出牢証文石出帶刀ニ相渡ス檢使付御徒士目付二人評定所ヨリ參リ

一暫ク間有之檢使御目付是又評定所ヨリ罷越ス一同出迎直ニ檢使場へ着座

一切腹人差出候儀出役與力御徒士目付會釋ニ及ヒ御徒士目付ヨリ御

目付へ相伺ヒ御目付ヨリ出役與力へ差圖有之牢屋見回へ申立駕籠

ノ儘入口際へ入レ鎰役出牢証文ヲ以テ引合セ相改メ駕籠ヨリ出ス

一添介錯町方同心相方二人左右ニ付添當人ノ袂ヲ抑へ右ハ係リ疊ノ上

へ連レ參リ疊イツパイニ後ノ方へ足ヲ開カセ檢使ノ方ニ向据置シ

本介錯町方同心係ノ方バ當人へ對シ名ノリ一禮ヲナシ當人ノ後口通

リ左ノ方へ參リ後向ニツクハヒ刀ヲ拔キ控へ居ル添介錯病人ニテ

手傳ヒ當人へ片ギヌヲ刎キ肌ヲヌガセ兩脇少シ下リ後ノ方ニ控下

リ合圖ノ咳ヲ致シ候ト牢屋同心一人三寶ニ九寸五分ヲ載セ木刀ノ九寸

テ包ミ小燃ニ持出シ三尺餘リ開ケ當人十分ニ手ヲ延前ニ於テ退ク添介錯見計

テニケ所結フ

シ候様ニ隔テ置ク

ヒ三寶頂カルヘク様申達シ當人手ヲ掛ケ候處ヲ介錯致シ添介錯係ノ方首ヲ舉ケ右ノ手ニ髮ヲ取り左ノ手ヲ下へ添へ右ノ膝ヲツキ檢使ノ前へ首ノ横面ヲ向ケル檢使何ノ守見届候旨御徒士目付申立首ヲ死體ニ添置キ即時ニ下男薄縁ニ枚持出シ死體ニ掛ケ四人ニテ疊ノ儘南ノ方塀際へ寄セル終ツテ檢使御目付退散評定所へ罷越御徒士目付町方與力モ全様評定所へ罷越御用濟ノ旨ヲ筋々へ相達ス

一檢使ノ節御目付麻上下着換町方與力モ同様着換

一本介錯添介錯三寶持共刀帶ヒ袴計リ着股立取り候

入牢証文

天保四年辰ノ三月廿四日入

壹人

何之某年齡

何ノ何守組

此者儀何ノ何守へ手負ハセ候ニ付揚坐敷ニ入ル、

右何ノ某儀去月廿四日殿中ニ於テ何ノ何守ニ手疵ヲ負ハセ候乱心ト雖モ何ノ守右手疵ニテ相果候ニ依リ切腹被仰付旨何ノ守殿中御差圖ニ依リ評定所ニ於テ大目付何ノ何守町奉行何ノ何守御目付何ノ何守立會申渡候間檢使ヘ可相渡者也

支千月日

附記切腹ノ死骸ハ兼テ設ノ棺桶ヘ入レ親戚ノ者ヘ引渡候事

舊政府所遇ノ重要事項

舊政府ニ於テ囚徒ニ給スル物品及其他衛生ニ關スル所遇ノ事ヲ說話セントス茲ニ之ヲ說話スルハ他意ナシ唯諸君カ今昔ノ遇囚法ヲ探テ厚簿孰レニ在リヤト參考セラル、ノ料ニ供セントス
一 毎月一日総囚人ニ塵紙一ヶ月一人ニ付百枚ノ割相渡ス尤モ囚人高相蒿ニ候節ハ臨時ニ渡シ遣ハシ候事
一無宿ノ者仕着ハ二季ニ相渡シ夏ハ白帷子粗キ麻布冬ハ木綿淺黄染綿入ノ事但シ衣類破損ノ者ハ此限ニ無之

一 有宿者ハ衣類蒲團等差入レ宿元親戚等ヘ差入方本人ヨリ願出候節ハ聞届候事

一 暑中ハ各半ノ囚人ヲ晝四ツ時ヨリ夕七ツ時頃迄隔日ニ鞆内ニ出シ納涼爲致候事但シ他半ノ者ト密話等不相成様一牢ノ囚人一纏ニ差置候事

一 寒氣ノ節ハ総囚人ヘ毎夕熱湯ヲ五合德利ニ入レ栓ヲ致シ之ヲ木綿袋ニ入レ各半皆ハ一牢ニ人員百人居レハ德利五十本ノ割ニ入レ遣シ代ルニ抱カセ寒夜ヲ凌カセ候事

一 寒氣ノ節ハ総囚人ヘ日々三度朝晝夕宛手當トシテ人參葉ノ煎湯ヲ相與候事

(參考) 人參ノ葉ヲ乾シテ藥トナス氣ヲ下シ中ヲ補ヒ五臟ヲ安シ人ヲシテ健ナラシム

一 毎年七月十五日兩町奉行ヨリ総囚人ヘ鯖魚及素麵ヲ差遣候事
一 囚人浴湯ハ正、二、十一、十二、ハ一ヶ月三度宛三、四、九、十月ハ一ヶ月四度

宛五、六、七、八月ハ一ヶ月ニ六度宛ノ事

一 懐胎女入牢、牢内ニテ出產致候節ハ御指圖ニ依リ人參相用候事但シ御印鑑受取リ年番ニ申遣シ代金受取人參座ヨリ買上ケ用高程宛醫師ニ相渡シ其印鑑取置候事

一 病氣重体ニ相成候共宿預溜預等ニナラサル囚人ニハ人參爲相用揚屋ニテ養生爲致候事

一 溜預重病ノ囚人ニ人參爲相用候節ハ善七及松右衛門ニ之ヲ相渡シ其受取証文取置候事

一 寺社方御勘定方係ノ囚人、人參相用度願出候ヘハ御用番御當所ヘ申立遣シ例ノ如ク取計候事

一 盜賊方加役方係囚人ヨリ人參相用度願出候ヘハ其係ヨリ取調本人ヘ相渡可申事

一 揚座敷入ノ囚人ニハ夜着枕蚊帳ハ願ニ依リ差入候事但シ揚座敷総牢ヘハ蒲團ノ外枕モ入レ不遣候事

一 夏季ノ節ハ夜分ノミ各牢ヘ見計ノ上大年ニテモ四五本位澁團扇相渡シ毎朝取上候事

以上ハ舊政府ニ於テ未決者ヲ遇スルノ大畧ナリ

一 人足寄場即現今ノ定役ヲ命セラレタルル囚人ノ居ル監獄署ニ同シハ隔日ニ浴湯爲致候尤モ暑氣劇敷節ハ時宜ニ依リ毎日浴湯爲致候事

一 浴湯所ノ薪ハ十月ヨリ三月迄一度ニ松四本材百十本四月ヨリ九月迄全斷八十本ニ相定候事

一 人足ニ相渡候草履ノ儀ハ稿買上ケ人足ニ申付ケ造リ立爲致御入用金ヲ以テ仕拂候事但シ部屋頭及役付人足ハ一ヶ月二足宛相渡シ平人足ハ一足宛ト相定候事

一 人足ニ相渡候塵紙ハ毎月三度ニ相渡候事但シ男一ヶ月一人ニ付三十枚若シ女入場致候ト有之候節ハ一ヶ月一人ニ付五十枚

一 人足ニ相渡候油元結ハ毎月六度ニ御入用金ヲ以テ買上相渡候事但シ一度分二十八人ニ油一本二十四人ニ元結一把相渡候事

一獄中敷物ハ十月ヨリ四月迄相渡候事但シ御入用金ヲ以テ稿買上ケ人足ニ申付出來候事

一人足ニ相渡候蒲團ノ儀ハ人足ニ申付出來爲致御入用金ヲ以テ支拂ヒ毎年十月上旬一同へ相渡シ候事但シ部屋頭一人ニ付四布一枚役付二人ニ付同シク一枚平ノ者三人ニ付五布一枚病者一人ニ付四布一枚

一人足仕着ノ儀ハ御入用金ヲ以テ木綿買上人足ニ申付ケ柿色ニ染仕立上ケ三期ニ相渡シ役付人足ハ背ノ印ヲ以テ目シルシニ致候事但シ五月五日單衣一枚九月九日綿入一枚十二月ツモゴリ同一枚右ノ外新入ノ者へ渡方ハ此例ニ無之

以上ハ舊政府ニ於テ已決者ヲ遇スルノ大畧ナリ

本邦監獄法講義終

明治廿四年九月三日印刷
明治廿四年九月四日出版

(禁賣買)

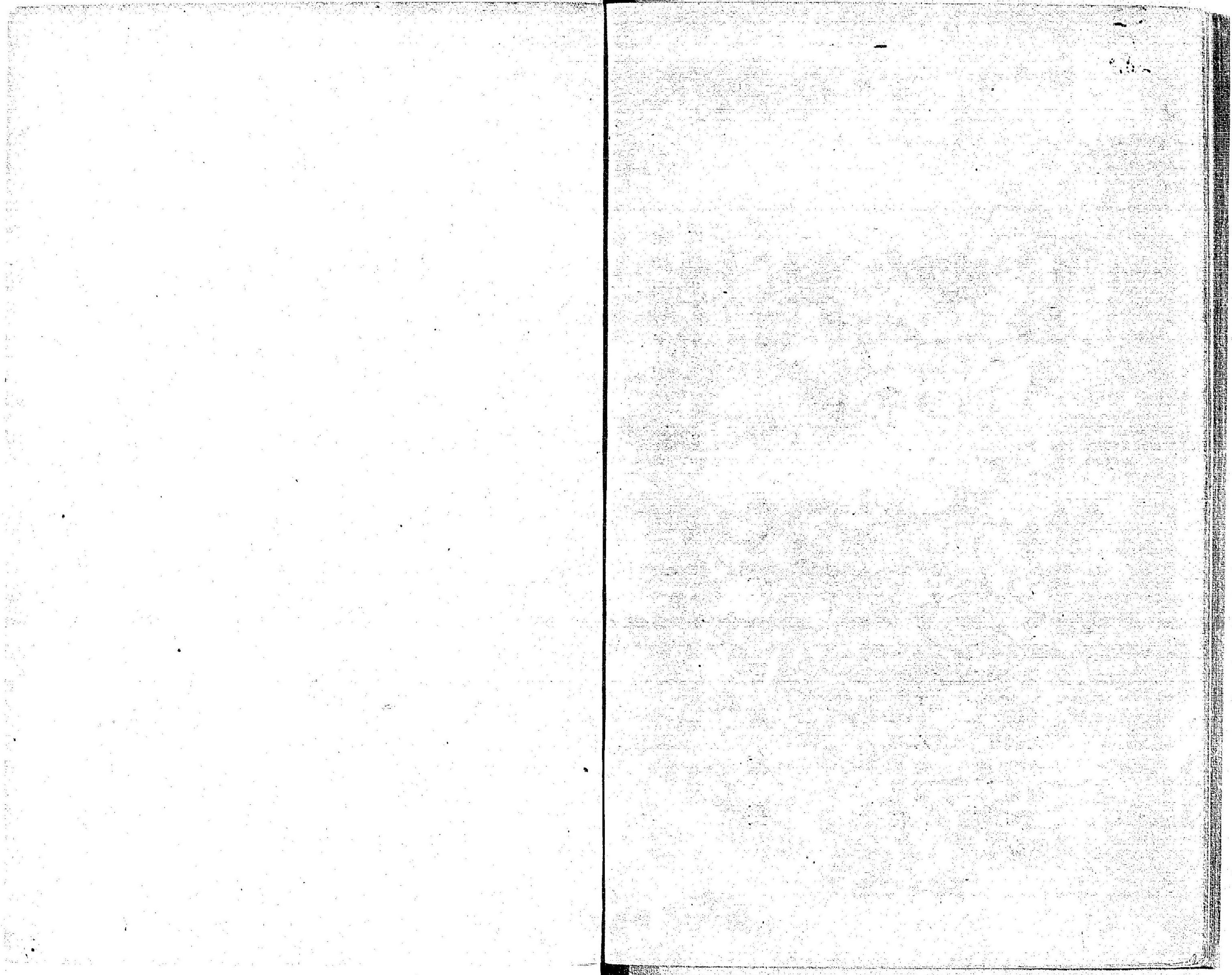
監獄官練習所編纂

印刷人 寺井宗平

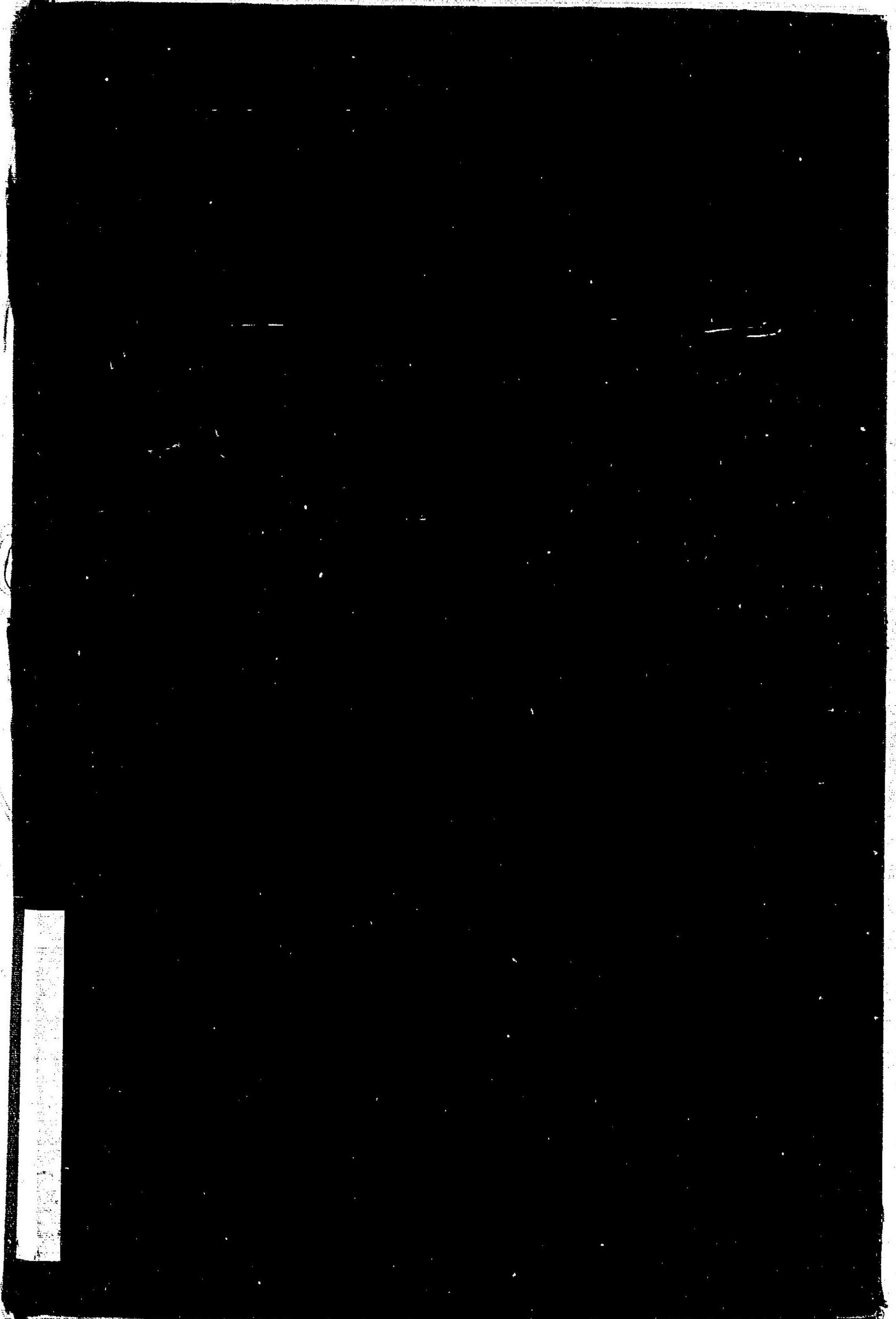
淺草區黒船町
二十八番地

印刷所 東京並木活版所

淺草區黒船町
二十八番地



22
282



Small, illegible text or markings on the left edge of the black area, possibly a page number or a label.

22

282

037385-000-7

22-282

本邦監獄法講義

監獄官練習所

M24

BBT-0250



